

モートンイトンボ

学名	Mortonagrion selenion (Ris)	
目名	トンボ目	
目名学名	ODONATA	
科名	イトトンボ科	
科名学名	Coenagrionidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： 準 (NT)



[選定理由]

県内の分布は限られ、生息する湿地の畑地化や湿地開発による生息地の消滅がみられ、絶滅の危険性が高まっている。

県内分布	大山町, 玖珠町, 杵築市, 湯布院町, 宇目町, 佐伯市
分布域	北海道南端, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	朝鮮半島, 中国中部, ロシア沿海州
生息環境	平地から低山地の背丈の低い抽水植物の繁茂する湿地や放置水田など。
現 状	もともと県内での産地は極限されていたが、湿地の乾燥化、埋め立てなどの環境変化により生息地が激減した。
備 考	

ヒヌマイトトンボ

学名	Mortonagrion hirosei Asahina	
目名	トンボ目	
目名学名	ODONATA	
科名	イトトンボ科	
科名学名	Coenagrionidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： I (CR+EN)



[選定理由]

九州で初めて発見された宇佐市の産地は、環境悪化によるものか、近年は確認できず絶滅した可能性がある。新たに発見された国東地方でも2カ所の産地のうち、発生が確認されるのは1カ所のみであり、環境変化による絶滅の危険性が高まっている。

県内分布	宇佐市, 国見町
分布域	宮城県以南の本州, 九州 (長崎の対馬および大分)
世界的分布	香港, 台湾
生息環境	ヨシが島状に繁茂した汽水域の沼沢地。
現 状	ヨシ原の陸地化や現地観察に伴う攪乱の影響などで確認できなくなった生息地がある。
備 考	九州本土での既知産地は大分県のみ。

コバネアオイトトンボ

学名 *Lestes japonicus* Selys

目名 トンボ目

目名学名 ODONATA

科名 アオイトトンボ科

科名学名 Lestidae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU)

環境省：Ⅰ (CR+EN)



[選定理由]

水質の良好な池沼に生息するが産地は局地的で、水質の悪化、植生の変化などにより個体数の減少が著しい。

県内分布	日田市, 中津市, 宇佐市, 玖珠町, 山香町, 大田村
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	台湾
生息環境	平地から山地にかけての抽水植物や浮葉植物の繁茂する池沼や湿地, 緩やかな流れなど。
現状	生息地の埋め立てや濁水による影響でみられなくなった産地がある。
備考	

オオイトトンボ

学名	Paracercion sieboldii (Selys)		
目名	トンボ目		
目名学名	ODONATA		
科名	イトトンボ科		
科名学名	Coenagrionidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



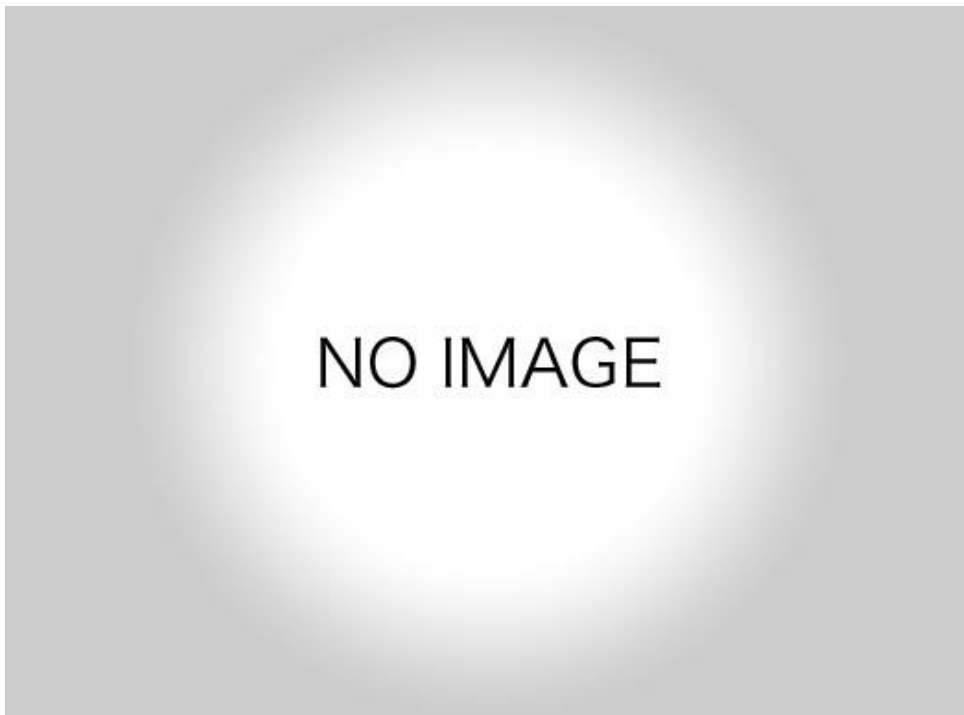
[選定理由]

県内の分布は限られ、個体数も少ない。生息する池の湧水や湿地の草地化のほか、開発による生息地の消滅が懸念される。

県内分布	日田市, 中津市, 玖珠町, 久住町, 山香町, 大分市, 三重町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	平地から丘陵地の抽水植物が豊富で水質の良好な池沼。
現状	生活雑廃水の流入による水質の悪化や植生の変化, 池周辺の開発などにより個体数が激減している。
備考	

オツネトンボ

学名	Sympecma paedisca (Brauer)	
目名	トンボ目	
目名学名	ODONATA	
科名	アオイトトンボ科	
科名学名	Lestidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



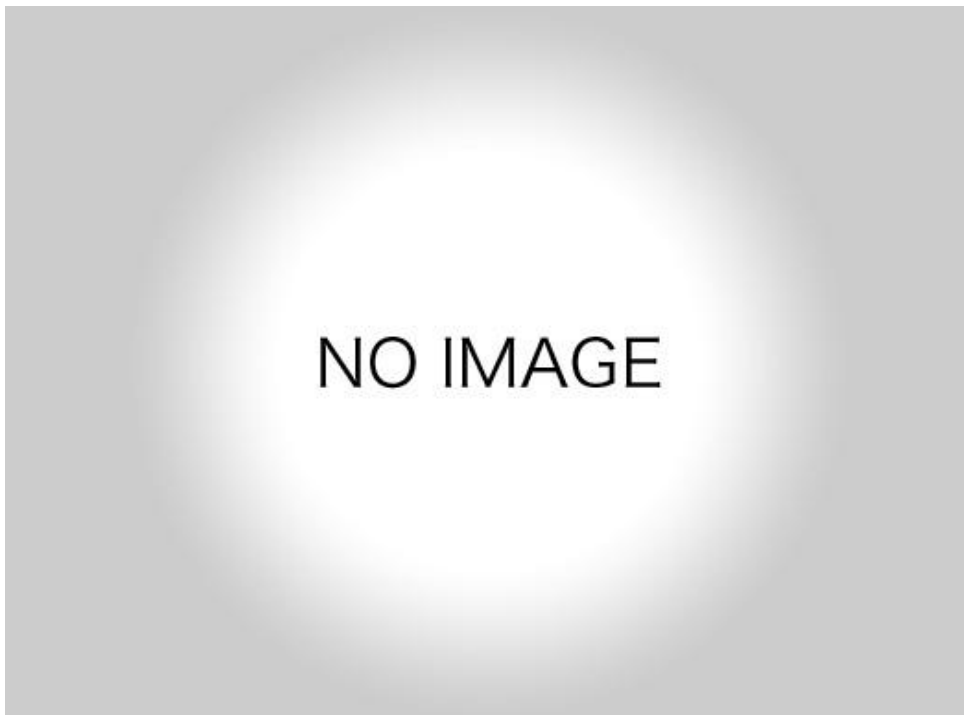
【選定理由】

抽水植物の繁茂する池沼に生息するが、どの生息地でも密度がかなり低い。市街地の拡大や汚水の流入などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	中津市,三光村,宇佐市,豊後高田市,山香町,杵築市,安心院町,別府市,大分市,佐賀関町,津久見市
分布域	北海道,本州,四国,九州,(福岡・大分),奥尻島,佐渡島,淡路島,奄岐,対馬,五島列島
世界的分布	中国,朝鮮半島,中央アジア,中近東,南ロシア,ヨーロッパ
生息環境	平地から山地の抽水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水。
現状	生息環境の悪化により個体数が減少傾向にある。
備考	

キイロサナエ

学名	Asiagomphus pryeri (Selys)		
目名	トンボ目		
目名学名	ODONATA		
科名	サナエトンボ科		
科名学名	Gomphidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

日本特産種。本県では広域に分布するが生息密度が低く、河川の改修などによる環境悪化で生息域が狭められている。

県内分布	三光村, 耶馬溪町, 宇佐市, 武蔵町, 山香町, 九重町, 大分市, 庄内町, 野津原町, 大野町, 朝地町, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州, 種子島
世界的分布	日本固有種
生息環境	平地から丘陵地の砂泥底で流れの緩やかな河川。
現状	近年河川改修や生活排水の流入により分布域が狭められ, 個体数の減少している所がある。
備考	

ホンサナエ

学名	Gomphus postocularis Selys	
目名	トンボ目	
目名学名	ODONATA	
科名	サナエトンボ科	
科名学名	Gomphidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



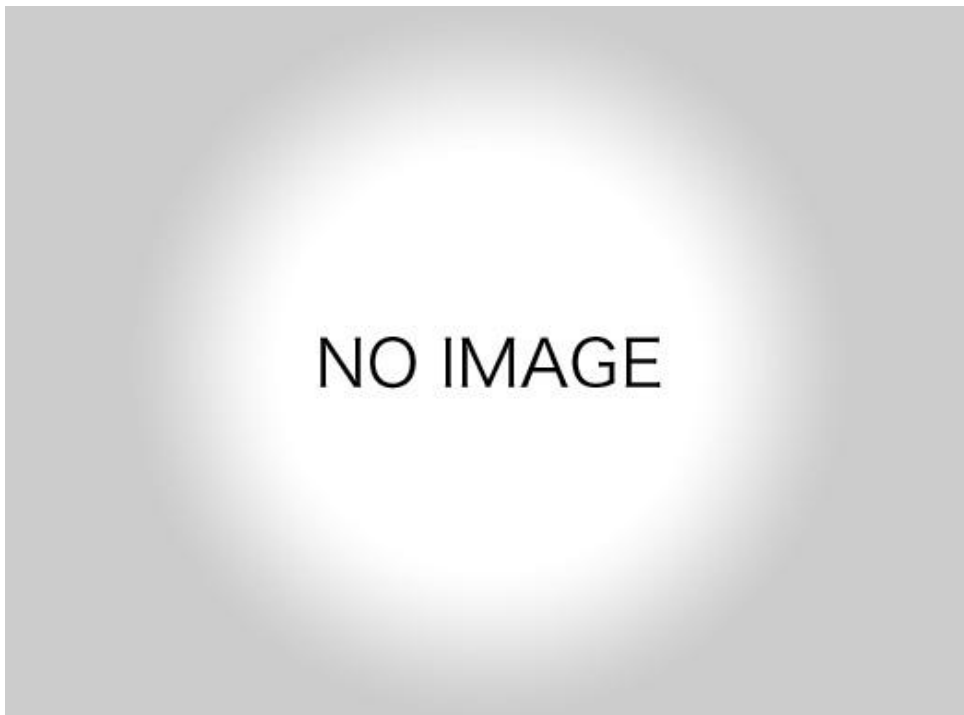
【選定理由】

日本特産種。生息地は局地的であり、河川の護岸工事や生活排水の流入による汚染などにより個体数が減少している。

県内分布	日田市, 耶馬溪町, 宇佐市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	日本固有種
生息環境	平地から丘陵地の砂泥底で流れの緩やかな河川や湖。
現 状	県内で本種を確実にみることができた日田市においても、生息河川の水質悪化などで減少傾向が著しい。
備 考	

オオルリボシヤンマ

学名	<i>Aeshna nigroflava</i> Martin		
目名	トンボ目		
目名学名	ODONATA		
科名	ヤンマ科		
科名学名	Aeschnidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



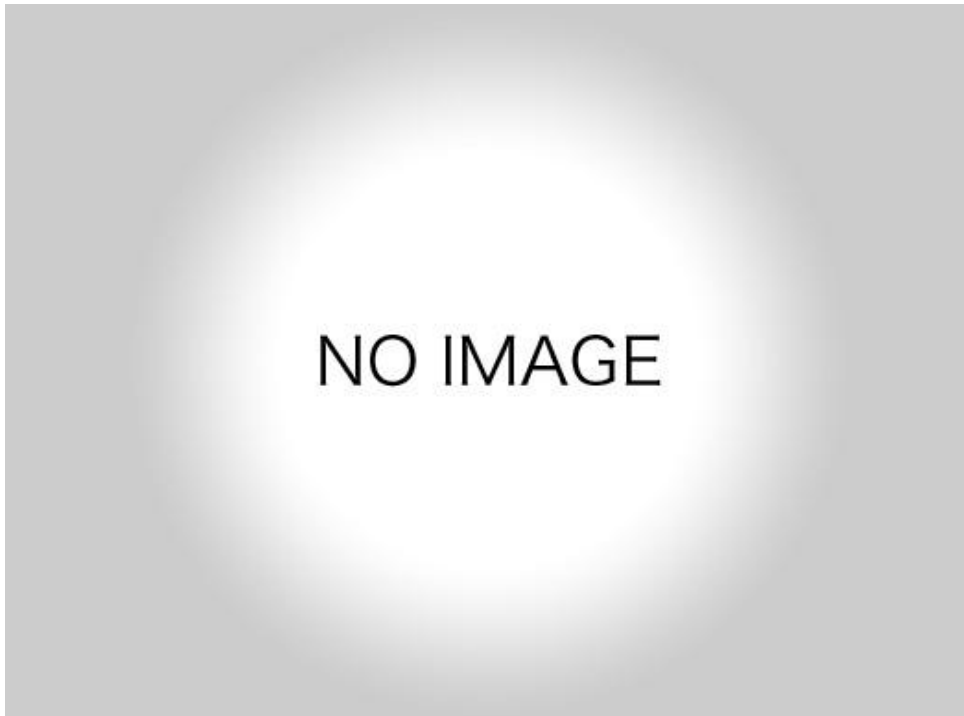
[選定理由]

日本特産種。県内では比較的標高の高い場所で記録されているが、生息地は局地的である。

県内分布	上津江村, 耶馬溪町, 天瀬町, 玖珠町, 九重町, 庄内町, 久住町, 直入町
分布域	北海道, 本州, 九州, 利尻島, 佐渡島ほかの離島
世界的分布	日本固有種
生息環境	高地の湿原の滞水や抽水植物や浮葉植物が繁茂する山間部のやや明るい池沼。
現状	近年, 観光開発ほかの影響により, 生息域が狭められている。
備考	

ネアカヨシヤンマ

学名	Aeschnophlebia anisoptera Selys		
目名	トンボ目		
目名学名	ODONATA		
科名	ヤンマ科		
科名学名	Aeschnidae		
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：準 (NT)	



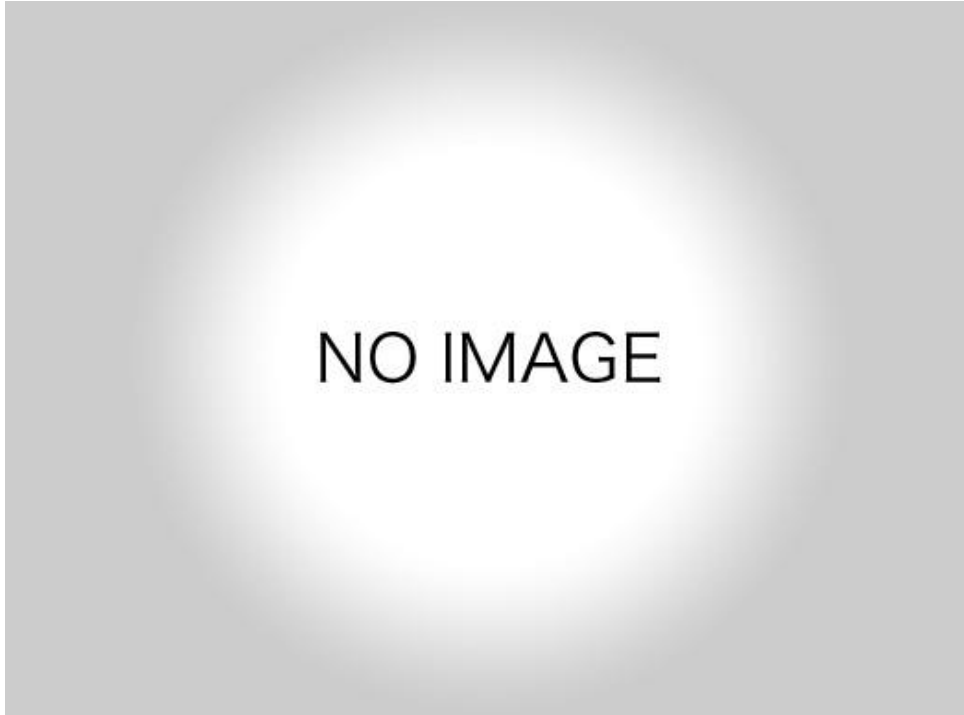
[選定理由]

生息地周辺の宅地化により、生活排水の流入ほかで水質も含め環境悪化による個体数の減少が懸念される。

県内分布	中津市, 三光村, 宇佐市, 豊後高田市, 山香町, 大分市, 佐賀関町, 佐伯市
分布域	茨城, 千葉, 埼玉, 新潟より西の本州, 四国, 九州, 伊豆大島・淡路島ほかの離島
世界的分布	中国中部
生息環境	周囲に森林がある平地や丘陵地のヨシやガマなどが繁茂した池沼や休耕田湿地など。
現状	湿地の草地化や陸化による生息域の縮小がみられ, さらに池沼の改修工事などで生息個体数が減少傾向にある。
備考	

キイロヤマトンボ

学名	Macromia daimoji Okumura		
目名	トンボ目		
目名学名	ODONATA		
科名	エゾトンボ科		
科名学名	Corduliidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)	



[選定理由]

生息地である河川域は、生活排水の流入による汚染などにより、生息地の消滅が懸念される。

県内分布	耶馬溪町, 大分市, 野津原町, 野津町
分布域	本州(福島県以南), 九州
世界的分布	朝鮮半島南部
生息環境	平地から丘陵地の砂質または砂礫質の緩やかな流れの河川。
現 状	河川の護岸工事などによる生息適地の減少や生活雑排水の流入に伴う水質汚濁で個体数が減少している。
備 考	

ハネビロエゾトンボ

学名 Somatochlora clavata Oguma

目名 トンボ目

目名学名 ODONATA

科名 エゾトンボ科

科名学名 Corduliidae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： II (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生息地は局地的で、小川の改修工事や水質汚染、里山の管理放棄、観光開発ほかによる環境の変化で絶滅の危険性が高まっている。

県内分布	天瀬町, 安心院町, 山香町, 大分市, 三重町, 弥生町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡島, 淡路島, 隠岐, 対馬などの離島
世界的分布	朝鮮半島
生息環境	平地から低山地の湿地や湿地内の細流, 植生豊かな小川。
現 状	小川の改修工事や水質汚染、里山の管理放棄、開発行為による生息環境の消滅などにより確実にみられる場所は殆どなくなった。
備 考	

エゾトンボ

学名	Somatochlora viridiaenea (Uhler)	
目名	トンボ目	
目名学名	ODONATA	
科名	エゾトンボ科	
科名学名	Corduliidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



【選定理由】

寒地性のトンボで九州では産地が限られている。湿地や休耕田の草地化や陸化のほか、開発による生息地の消滅が懸念される。

県内分布	中津市, 天瀬町, 安心院町, 玖珠町, 山香町, 日出町, 大分市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分), 奥尻島, 淡路島, 隠岐
世界的分布	カラフト
生息環境	平地から丘陵地の抽水植物が茂る浅い池沼や湿地, 休耕田など。
現 状	開発による生息地の消滅、湿地や休耕田の草地化や陸化により個体数が減少している。
備 考	九州では福岡, 大分, 熊本の各県に僅かな生息地があるのみ。

ベッコウトンボ

学名 *Libellula angelina* Selys

目名 トンボ目

目名学名 ODONATA

科名 トンボ科

科名学名 Libellulidae

カテゴリー 大分県： I A (CR) 環境省： I (CR+EN)



【選定理由】

生息地は人間社会との関わりが強く、開発による池の埋め立てや生活排水の流入による汚染などにより、絶滅の危険性が高まっている。また肉食外来魚による食害も懸念される。

県内分布	中津市, 宇佐市, 豊後高田市, 大分市
分布域	本州(東北地方南部以南), 四国, 九州(対馬を含む)
世界的分布	朝鮮半島, 中国北部から中部
生息環境	平地や丘陵地の浅い皿型で, 底には腐植泥等の底泥が堆積し大型抽水植物の繁茂が見られる水量が比較的安定した池沼。
現状	池沼の埋め立てや護岸工事に伴う植生の消滅、生息環境の悪化により個体数が減少。豊後高田市では2006年以降生息が確認できていない。
備考	種の保存法による国内希少野生動植物種に指定(1994)。

ハッチョウトンボ

学名 *Nannophya pygmaea* Rambur

目名 トンボ目

目名学名 ODONATA

科名 トンボ科

科名学名 Libellulidae

カテゴリー 大分県： I A (CR) 環境省：掲載なし



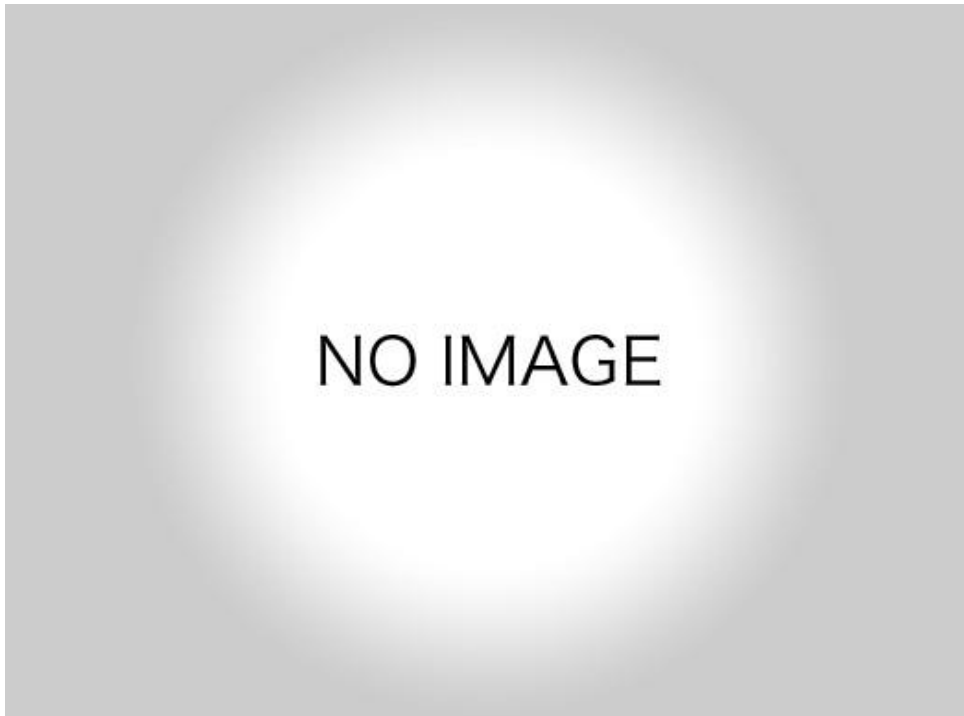
【選定理由】

限られた地域のみで生息しているが周辺の開発により、陸化や湿地環境の破壊で絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	安心院町, 山香町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	中国, 東南アジア, ニューギニア
生息環境	陽当たりがよく, 絶えず浸出水が供給される貧栄養の湿地や湿原, 休耕田など。
現 状	生息する湿地環境の破壊により県内では絶滅の危機に瀕している。
備 考	

オオキトンボ

学名	Sympetrum uniforme Selys		
目名	トンボ目		
目名学名	ODONATA		
科名	トンボ科		
科名学名	Libellulidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅰ (CR+EN)	



【選定理由】

限られた農業用水池に生息するため、農薬や生活排水などの流入による個体数の減少、生息地の消滅が懸念される。またオオクチバスなどの肉食外来魚による食害も懸念される。

県内分布	三光村, 中津市, 宇佐市, 豊後高田市, 大分市 ⇒(前回 豊後高田市、大分市有 確認要)
分布域	本州, 四国(瀬戸内側), 九州(福岡・大分)
世界的分布	朝鮮半島, 中国東北部・北部, ロシア沿海州
生息環境	平地や丘陵地の抽水植物が繁茂する開けた池沼。
現 状	池の改修工事の影響や除草剤、農薬等の流入により個体数は減少傾向にある。
備 考	九州では福岡県と大分県に僅かな生息地があるのみ。

イトアメンボ

学名	Hydrometra albolineata (Scott)	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	イトアメンボ科	
科名学名	Hydrometridae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： II (VU)



[選定理由]

水田地帯は病虫害や雑草駆除，湿地や湿原は宅地や牧野の造成，さらに水源地帯の小河川は護岸工事などでならかな水辺を急速に失うなど，絶滅の危険性が高まっている。

県内分布	安心院町, 山香町
分布域	本州, 四国, 九州, 対馬, トカラ列島, 奄美大島
世界的分布	朝鮮半島, 中国, 台湾
生息環境	水田畦畔, 湿地, 湿原, 河川や湖沼の水辺。
現 状	主に県北の池沼や湿地に生息していたが, 1970年代以降その姿は確認されていない。
備 考	1960年代以降全国で急速に衰退し, ほとんどの産地で絶滅している。

エサキアメンボ

学名	Limnoporus esakii Miyamoto	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	アメンボ科	
科名学名	Gerridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： 準 (NT)



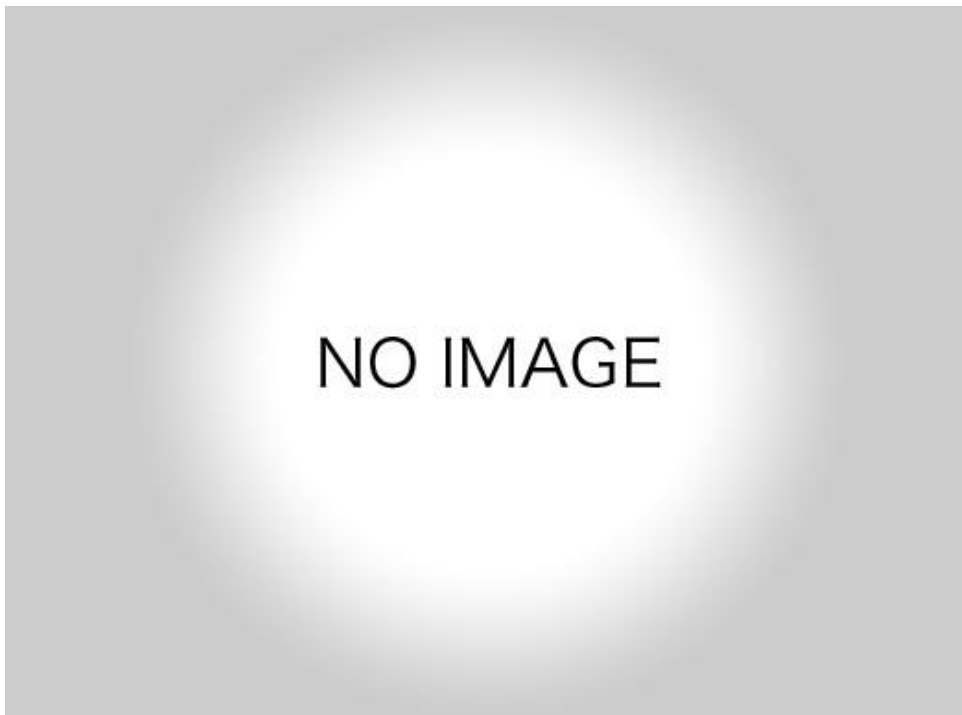
[選定理由]

近年各地で池沼の改修工事が行われ、重要な生息条件である挺水植物が除去され、生息地の環境が著しく変化して絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	中津市, 宇佐市, 九重町
分布域	本州, 九州
世界的分布	日本固有種
生息環境	ヨシやガマ等などの生えた池沼の水際。
現 状	県北の特定の農業用水池に生息し, 個体数は少ない。
備 考	

コオイムシ

学名	Diplonychus japonicus Vuillefroy	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	コオイムシ科	
科名学名	Belostomatidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)



[選定理由]

以前は県内全域の河川や水田にごく普通に生息していた。現在は環境条件の比較的安定した池沼に生息するが、農薬や生活排水の影響による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	中津市, 耶馬溪町, 宇佐市, 玖珠町, 野津原町, 犬飼町, 野津町, 竹田市, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	中国東北部, 朝鮮半島, ロシア極東部
生息環境	水質汚濁のない川や池沼。
現 状	個体数は以前と比較にならないほど少なく, 土木工事や廃棄物の不法投棄などにより, 環境が悪化した生息地がある。
備 考	

タガメ

学名	Lethocerus deyrollei (Vuillefroy)	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	コオイムシ科	
科名学名	Belostomatidae	
カテゴリー	大分県: I A (CR)	環境省: II (VU)



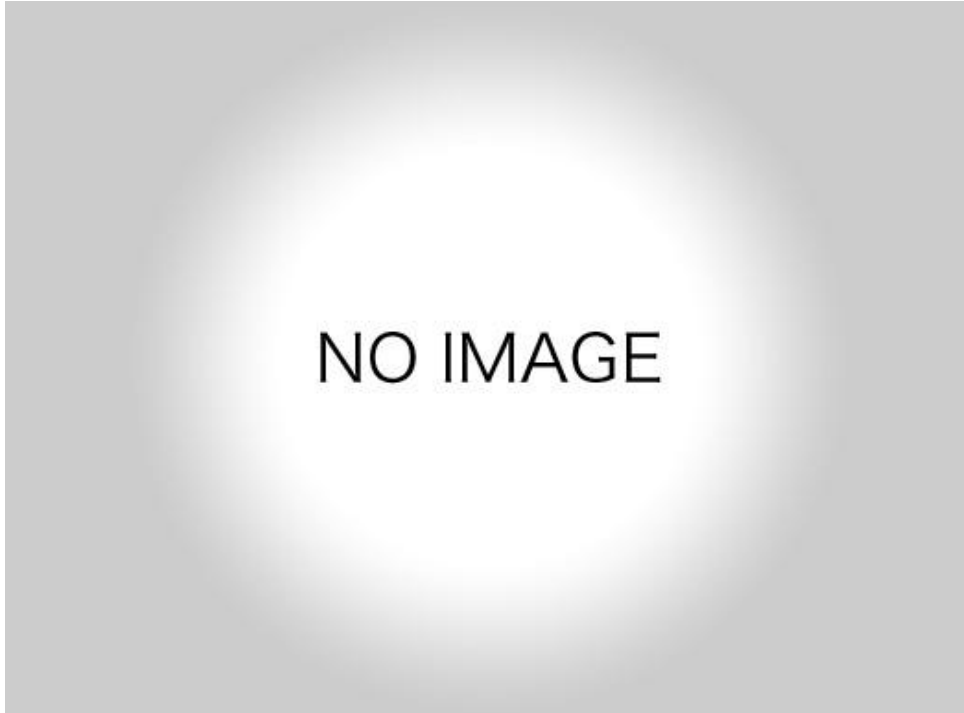
【選定理由】

県内各地の河川や水田などに多数生息していたが、その後激減し、最近では生息がほとんど確認されず、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布	(日田市),(山香町),(杵築市),(大分市),竹田市, 荻町
分布域	本州, 四国, 九州, 沖縄
世界的分布	アッサム, 朝鮮半島, 中国, 台湾
生息環境	水田, 河川, 用水地など。
現 状	かつては県内全域に分布していたが、近年は山間部の汚染されていない数か所に希に生息するだけである。
備 考	1962年夏には大分市の川沿いの工場の外灯に多数飛来が続き、毎朝オート三輪車に一杯積んで捨ててに行く光景が見られた。

ヒメミズカマキリ

学名	Ranatra unicolor Scott	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	タイコウチ科	
科名学名	Nepidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



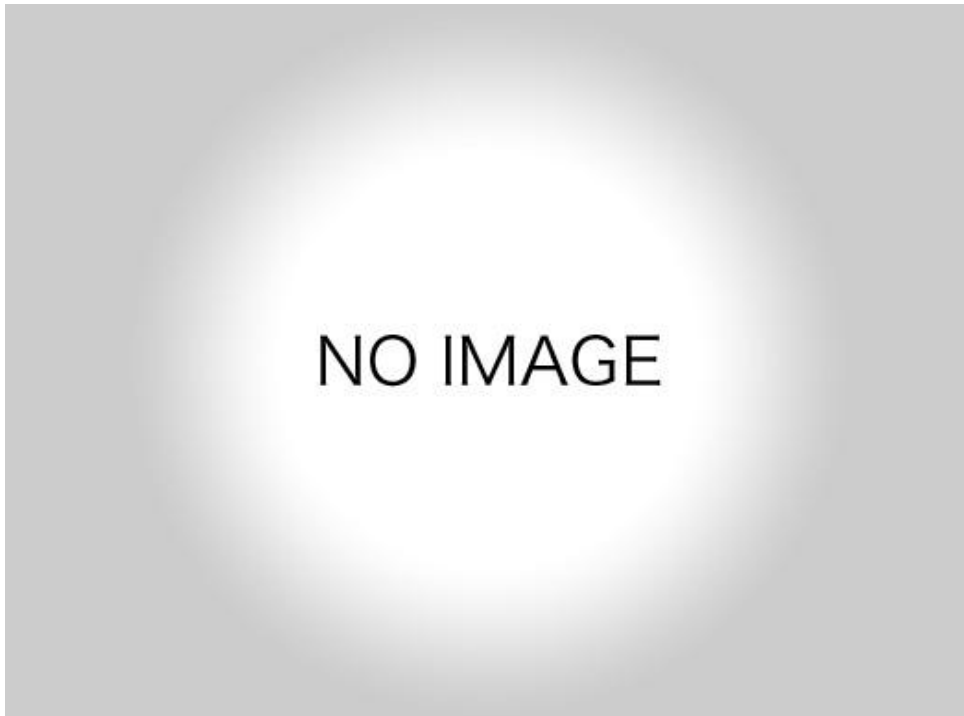
[選定理由]

県内での生息数はもともと少なく、池沼の干上がりや改修工事によって生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	中津市, 本耶馬溪町, 宇佐市, 大分市, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄
世界的分布	朝鮮半島, 中国シベリア東部
生息環境	平野部の池沼。
現 状	宇佐・中津平野の池沼に生息地があるが、ゴミの投棄により環境悪化した所がある。
備 考	

トゲナベブタムシ

学名	Aphelocheirus nawai Nawa	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	ナベブタムシ科	
科名学名	Aphelochiridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)



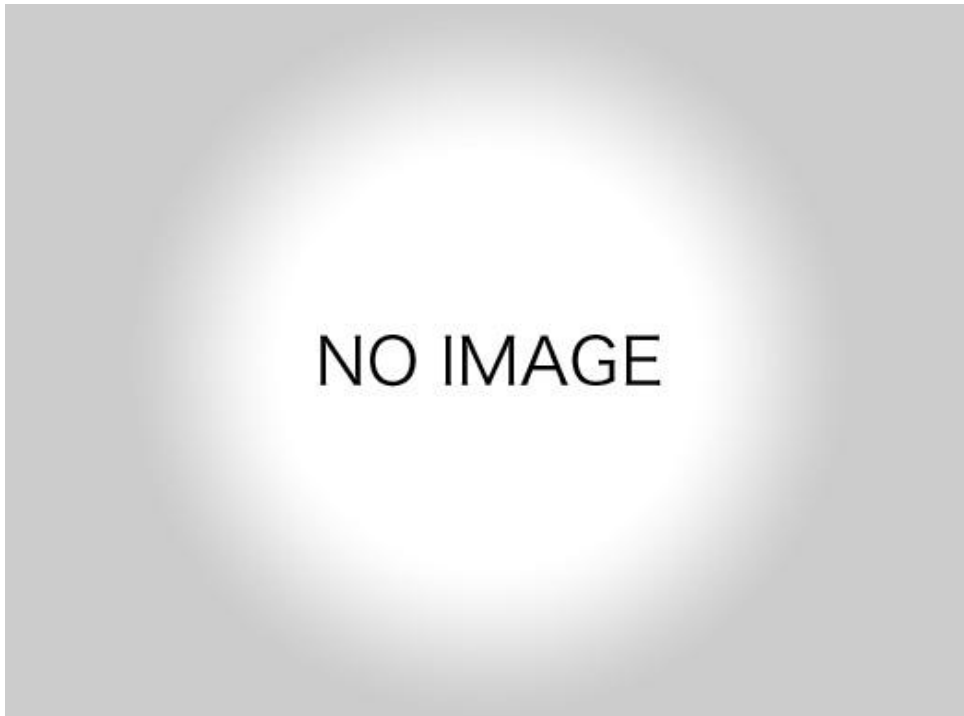
【選定理由】

県内の各河川に広く分布していたが、畜産汚水の流入や川石の採取および河川改修などで多くの河川で絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	宇佐市, 院内町, 安心院町, 日田市, 天瀬町, 大分市, 野津原町, 犬飼町, 三重町, 大野町
分布域	本州, 九州
世界的分布	朝鮮半島
生息環境	川石の多い流れのやや早い瀬。
現状	現在, 生息地の把握できない所が多くなっている。
備考	

オオミズムシ

学名	Hesperocorixa kolthoffi	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	ミズムシ科	
科名学名	Corixidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)



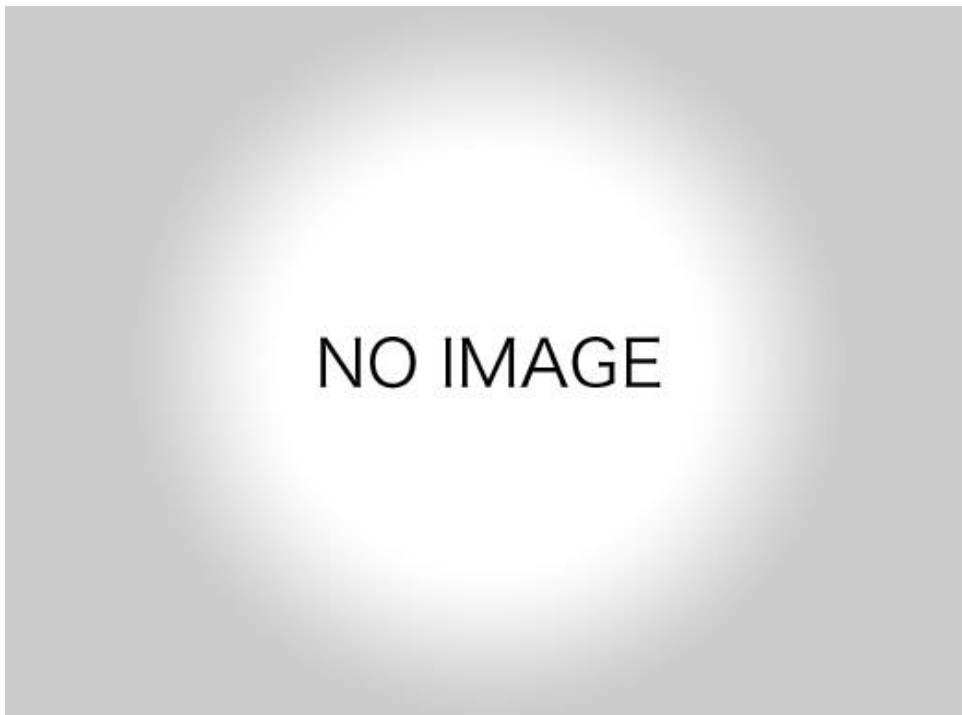
[選定理由]

里山の池沼に生息するが、このような生息環境が悪化し、また消失しており、最近希にしか見られなくなった。大分県ではわずか1カ所の産地だけが知られる。

県内分布	国見町
分布域	近畿地方以西の本州, 四国, 九州
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	里山環境の池沼。
現 状	2005年に国東半島の里山で確認されたが、ほかに情報がなく、良好な里山環境が失われつつある現状が懸念される。
備 考	

アシブトマキバサシガメ

学名	Prostemma higendorffi Stein	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	マキバサシガメ科	
科名学名	Nabidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



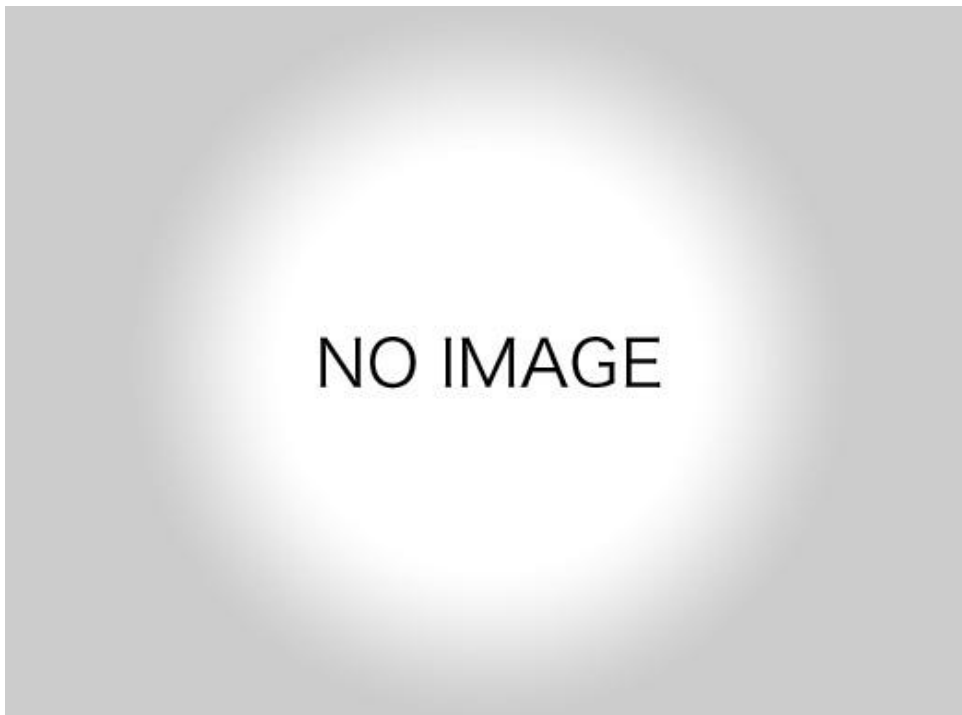
[選定理由]

基盤整備や害虫防除および里山の荒廃などで生息環境が狭められている。

県内分布	宇佐市, 九重町, 大分市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	中国, シベリア東部, 濟州島
生息環境	平地から高原の乾燥地の地上, 草間, 石下など。
現 状	生息場所が狭められて個体数は少ない。
備 考	

キバネアシブトマキバサシガメ

学名	Prostemma kiborti (Jakovlev)	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	マキバサシガメ科	
科名学名	Nabidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし



[選定理由]

戦前から希な種とされてきた。県内の生息地ではリゾート開発や農地開発で生息地を狭められ、絶滅の危険性が高い。

県内分布	九重町, 竹田市
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	シベリア東部, 中国, 中国東北部, 朝鮮半島
生息環境	高原の未舗装の野道や裸地の畑。
現 状	野道は舗装されて車道となり, 畑では農業害虫の防除, 大型機械による土地の掘り起こしなどによって, 生息地が狭められている。
備 考	

ハリサシガメ

学名	Acanthaspis cincticus Stal	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	サシガメ科	
科名学名	Reduviidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：情報不足 (DD)



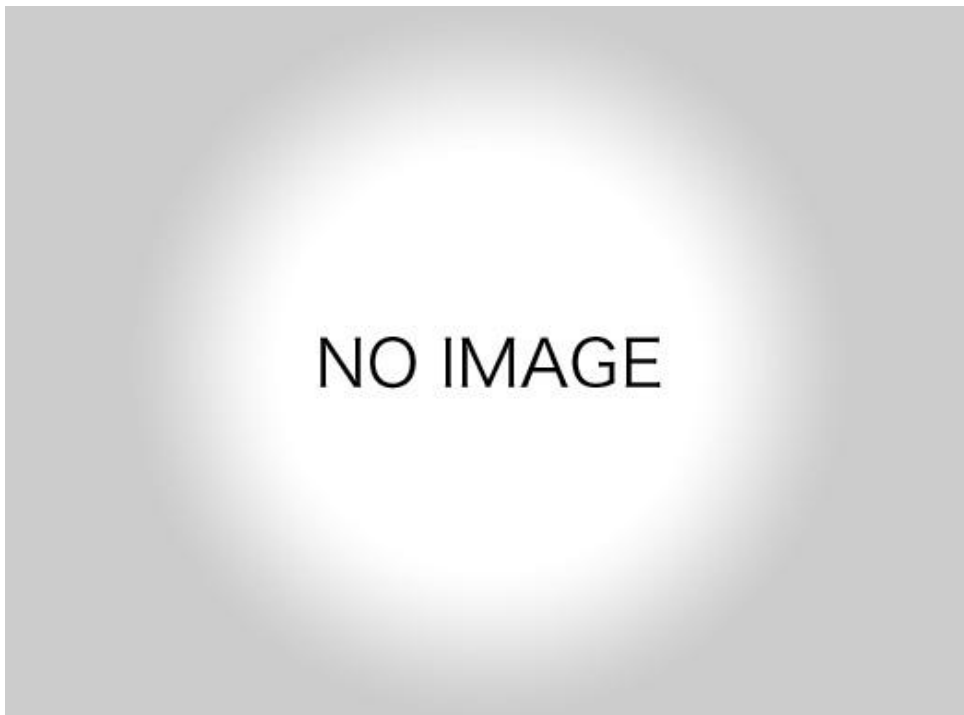
[選定理由]

畑地ではごく普通にみられた種であったが、近年著しく減少し、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	日田市, 九重町, 大分市
分布域	本州, 九州
世界的分布	中国
生息環境	ササ類やチガヤの生えた畑の畦畔や裸地。
現 状	圃場整備や宅地造成が行われていない地域に、わずかに生息地がある。
備 考	

オオカモドキサシガメ

学名	Empicoris brachystigma (Horvath)		
目名	カメムシ目		
目名学名	HEMIPTERA		
科名	サシガメ科		
科名学名	Reduviidae		
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：情報不足 (DD)	



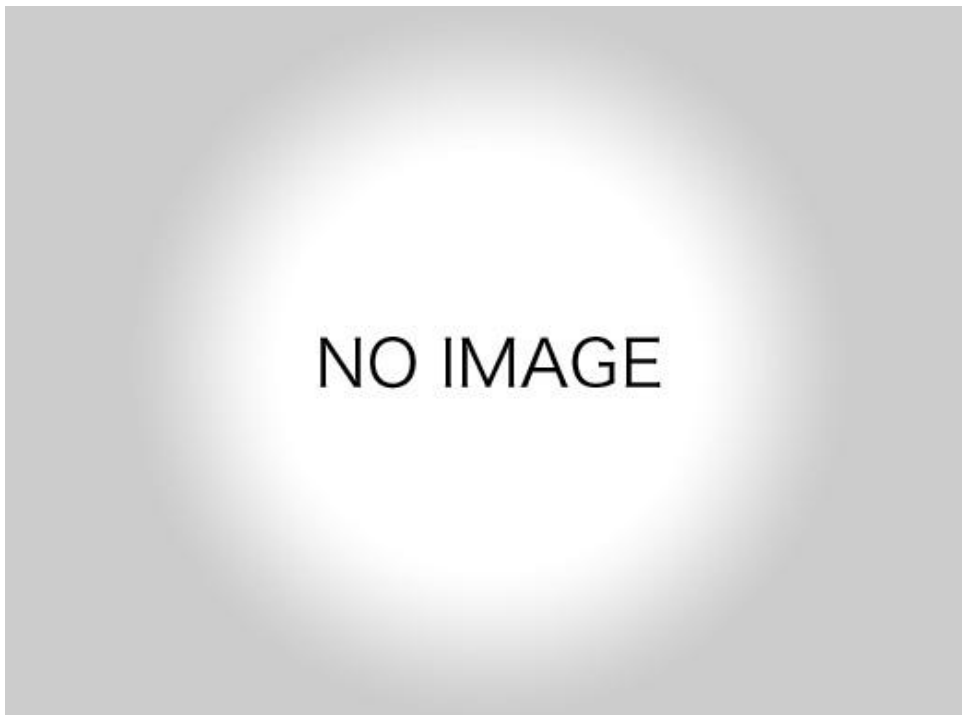
[選定理由]

現時点では絶滅の危険度は小さいが、農地や宅地造成および帰化植物の繁茂などで、生息環境が悪化している。

県内分布	日田市
分布域	本州,九州
世界的分布	日本固有種
生息環境	帰化植物やクズが進出していない草原や草地, 道路の法面, 河川の堤防など。
現 状	各地とも個体数の減少傾向がみられる。
備 考	

ビロウドサシガメ

学名	Ectrychotes andreae (Thunberg)		
目名	カメムシ目		
目名学名	HEMIPTERA		
科名	サシガメ科		
科名学名	Reduviidae		
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし	

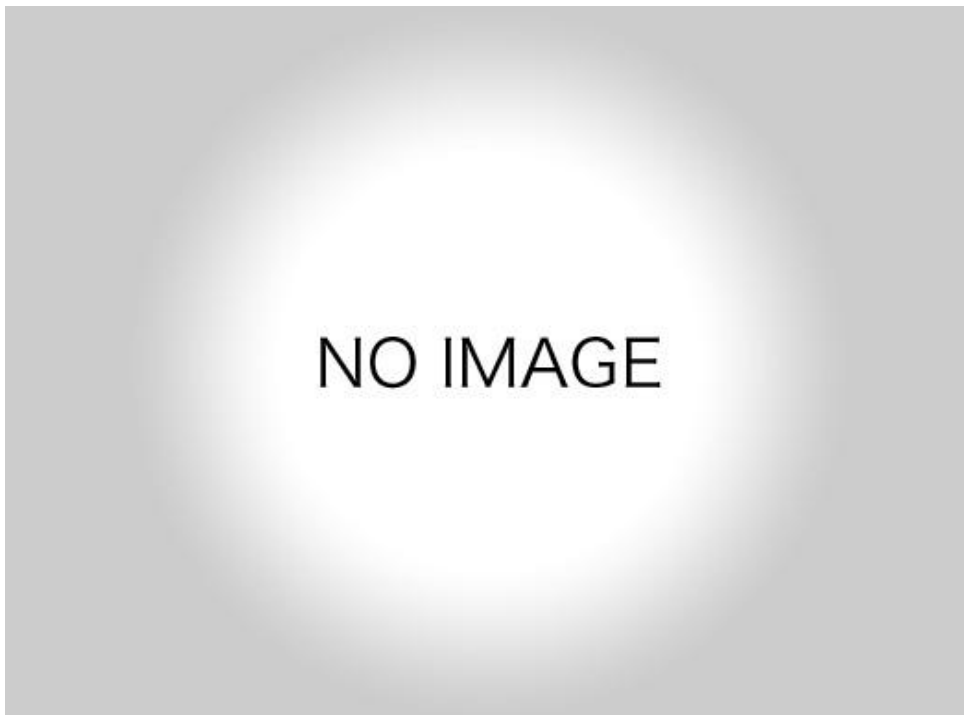


[選定理由]

県内分布	耶馬溪町, 安心院町, 国見町, 庄内町, 大分市
分布域	本州, 四国, 九州, 沖縄
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	低山地の畑や草地, 未舗装の道路沿い。
現状	ヤスデの天敵として知られ、道路の舗装や側溝の整備によって生息条件は悪化している。近年の調査では新たな生息地が確認されている。
備考	

クロバアカサシガメ

学名	Labidocoris insignis Distant	
目名	カメムシ目	
目名学名	HEMIPTERA	
科名	サシガメ科	
科名学名	Reduviidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

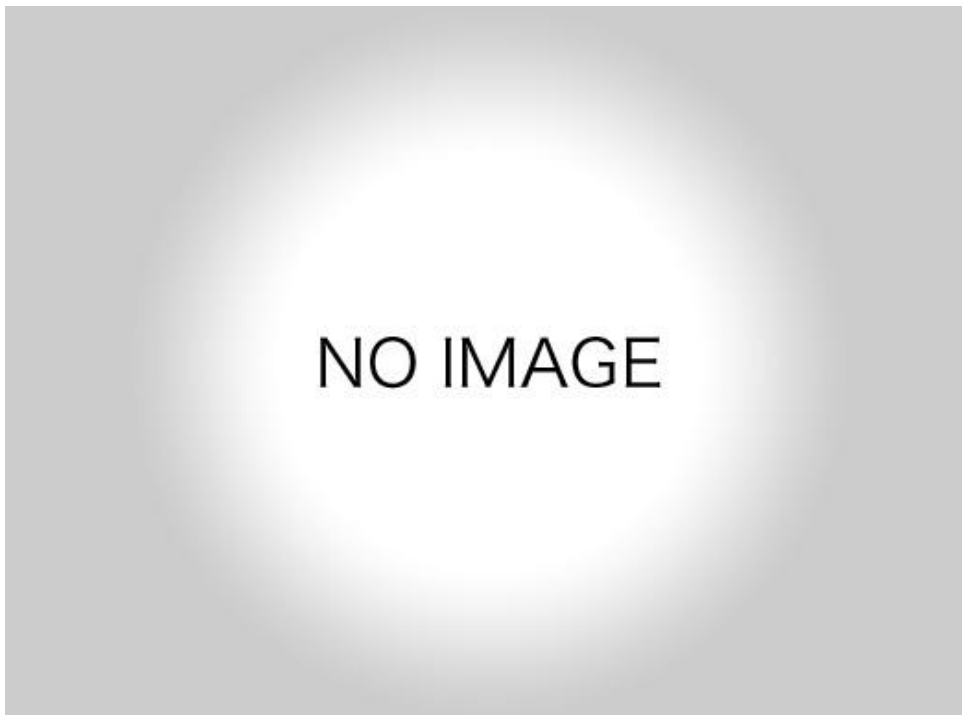


[選定理由]

県内分布	耶馬溪町, 玖珠町, 湯布院町, 庄内町, 大分市
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	日本固有種
生息環境	低山地の草むらや未舗装の道路沿い。
現 状	生態は明らかでないが, 非常に少ない種であり, 絶滅が懸念される。
備 考	

シロヘリツチカメムシ

学名	Canthophorus nivemarginatus (Scott)		
目名	カメムシ目		
目名学名	HEMIPTERA		
科名	ツチカメムシ科		
科名学名	Cydnidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)	



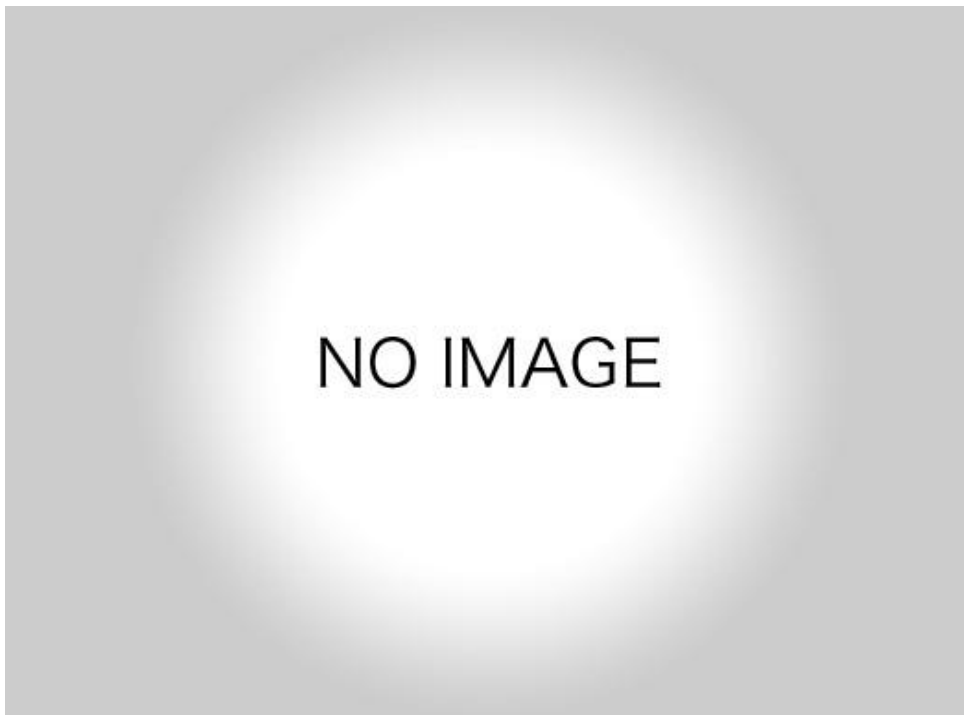
[選定理由]

火山性草原地帯のリゾート化, 牧野改良, 農耕地化, 宅地化などによって絶滅が懸念される。

県内分布	別府市, 湯布院町, 天瀬町, 玖珠町, 九重町, 庄内町, 直入町, 久住町, 竹田市, 荻町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	中国中・東北部, シベリア, 朝鮮半島, フィンランド
生息環境	県内の生息地は標高500m以上の火山性草原地帯。
現 状	近年, 野焼きが行われなくなり, リゾート化も進んだため, 安定した生息環境である草原が消滅しつつある。
備 考	

ベニツチカメムシ

学名	Parastrachia japonensis (Scott)		
目名	カメムシ目		
目名学名	HEMIPTERA		
科名	ツチカメムシ科		
科名学名	Cydnidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



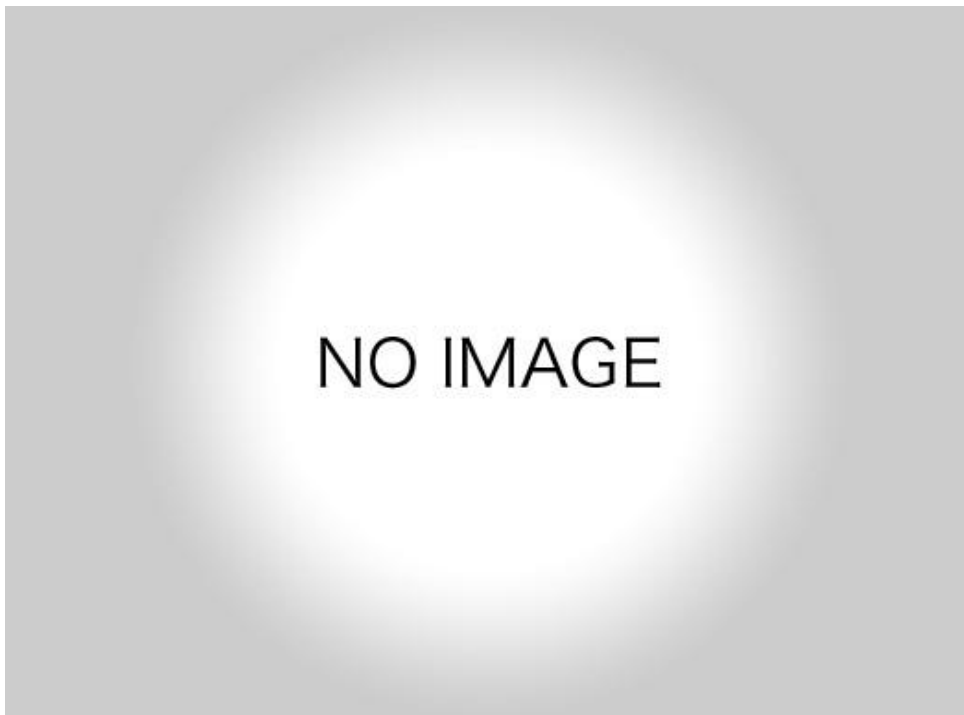
[選定理由]

平野部や低山地ではほとんど姿を消しつつあり、高標高の深山においても個体数が少なくなった。森林伐採ほか生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	日田市, 上津江村, 大山町, 玖珠町, 庄内町, 九重町, 大分市, 野津原町, 野津町, 大野町, 三重町, 緒方町, 清川村, 竹田市, 弥生町, 直川村, 本匠村, 宇目町
分布域	本州,九州
世界的分布	濟州島
生息環境	林中のシイ・ヒサカキなどの葉上に群生。
現状	近年平野部ではほとんど姿を認めず, 生息は照葉樹の自然林に限られ, 個体数も少ない。すう光性が強いが, 最近では飛来がみられない。
備考	

アカアシクチブトカメムシ

学名	Pinthaeus sanguinipes (Fabricius)		
目名	カメムシ目		
目名学名	HEMIPTERA		
科名	カメムシ科		
科名学名	Pentatomidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

近年、牧野改良や農地造成、シイタケ原木伐採などで著しく個体数が減少し、生息環境の悪化が目立っている。

県内分布	耶馬溪町, 山国町, 玖珠町, 湯布院町, 別府市, 九重町, 久住町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	朝鮮半島, 中国, シベリア, 欧州
生息環境	阿蘇・くじゅう火山性草原と疎林周辺および英彦山系の山頂部自然林。
現状	生息地ではカシワやコナラなどに寄生するチョウ目昆虫を食餌とし、個体数は少ない。
備考	

ズイムシハナカメムシ

学名 *Lyctocoris beneficus*

目名 カメムシ目

目名学名 HEMIPTERA

科名 ハナカメムシ科

科名学名 Anthocoridae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：I (CR+EN)

NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	大分市
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	朝鮮半島, 中国, ロシア極東
生息環境	ズイムシ(ニカメイガの幼虫)が生息する田園地域。
現 状	かつては里山の水田地帯に普通に見られたが、現在では限られた産地にわずかに見られる希な種となった。エサとなるニカメイチュウ(ズイムシ)が農薬によるニカメイガの駆除と里山環境の変化によって希少な種となった。近年の記録は大分市の1例だけである。
備 考	

イカリモンハンミョウ

学名 *Cicindela anchoralis* Chevrolat

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 ハンミョウ科

科名学名 Cicindelidae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： I (CR+EN)



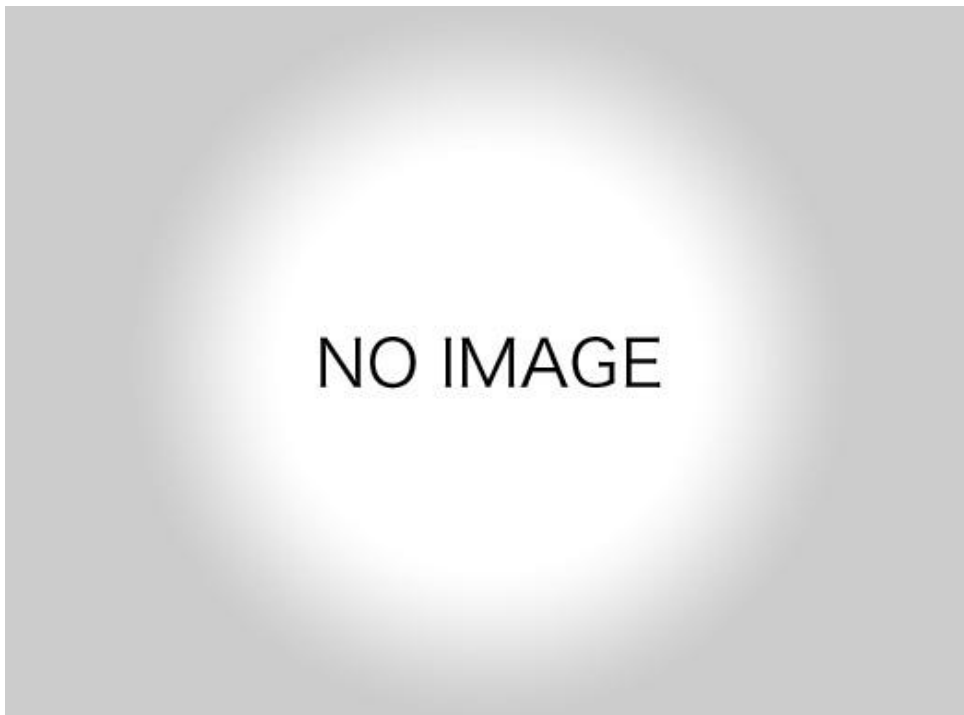
[選定理由]

県南地方の自然海岸の一部に僅かな生息地があるが、環境が悪化し、絶滅の危険性が高まっている。

県内分布	蒲江町
分布域	本州,九州(大分・宮崎・鹿児島),種子島
世界的分布	中国南部,台湾,ベトナム
生息環境	海岸の砂丘。
現状	蒲江町波当津が唯一の生息地となっている。
備考	九州の北限分布地である。

ホソハンミョウ

学名	Cicindela gracilis Pallas	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ハンミョウ科	
科名学名	Cicindelidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)



[選定理由]

生息地は火山のすそ野草原や疎林に散在する。観光開発や造成工事によって生息範囲が狭められ、絶滅が懸念される。

県内分布	別府市, 九重町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分)
世界的分布	シベリア, 朝鮮半島, 中国北東部
生息環境	明るい草原や疎林。
現 状	九重山群, 由布・鶴見山系のすそ野草原や疎林に局所的な生息地が見つまっている。個体数は少ない。
備 考	生息地では地表の草木の間を敏速に歩行し, 発見・採集は非常に難しい。

ヨドシロヘリハンミョウ

学名	<i>Cicindela inspecularis</i> W.Horn	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ハンミョウ科	
科名学名	Cicindelidae	
カテゴリー	大分県: I A (CR)	環境省: II (VU)



[選定理由]

分布は局地的で、生息地である河口域の生息地は消滅した所があり、絶滅に瀕している。

県内分布	大分市,(佐伯市)
分布域	本州(瀬戸内海沿岸),四国(瀬戸内海沿岸),九州(長崎・佐賀・大分・鹿児島),種子島
世界的分布	朝鮮半島,中国,台湾
生息環境	アシなどが自生する河口で、干潟ができる砂泥地。
現状	大分市大野川河口と乙津川河口に狭い範囲の生息地がある。
備考	瀬戸内海沿岸地域に特有の分布が知られているが、近年鹿児島県種子島でも発見された。

カワラハンミョウ

学名 *Cicindela laetescripta* Motschulsky

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 ハンミョウ科

科名学名 Cicindelidae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：II (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	(大分市)
分布域	北海道,本州,四国,九州(長崎・佐賀・福岡・大分・鹿児島)
世界的分布	シベリア南東部,モンゴル,中国,サハリン,朝鮮半島,済州島
生息環境	海岸や河原の砂丘。
現 状	大分市南大分で1960年頃採集されたが,その後確認されていない。堤防・河川工事によって,現状では絶滅に瀕している。
備 考	

ルイスハンミョウ

学名 *Cicindela lewisi* Bates

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 ハンミョウ科

科名学名 Cicindelidae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： II (VU)



[選定理由]

河口干潟に生息するが、分布域は狭く局地的。消滅した生息地があり、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	(別府市),大分市
分布域	本州(中部以西),四国,九州
世界的分布	朝鮮半島,濟州島,中国北部
生息環境	大きな川の河口の干潟。
現 状	大分市乙津川河口と大野川河口付近に狭い範囲の生息地がある。
備 考	九州での分布は非常に局地的。

カワラゴミムシ

学名	Omophron aequalis Morawitz	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カワラゴミムシ科	
科名学名	Omophronidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



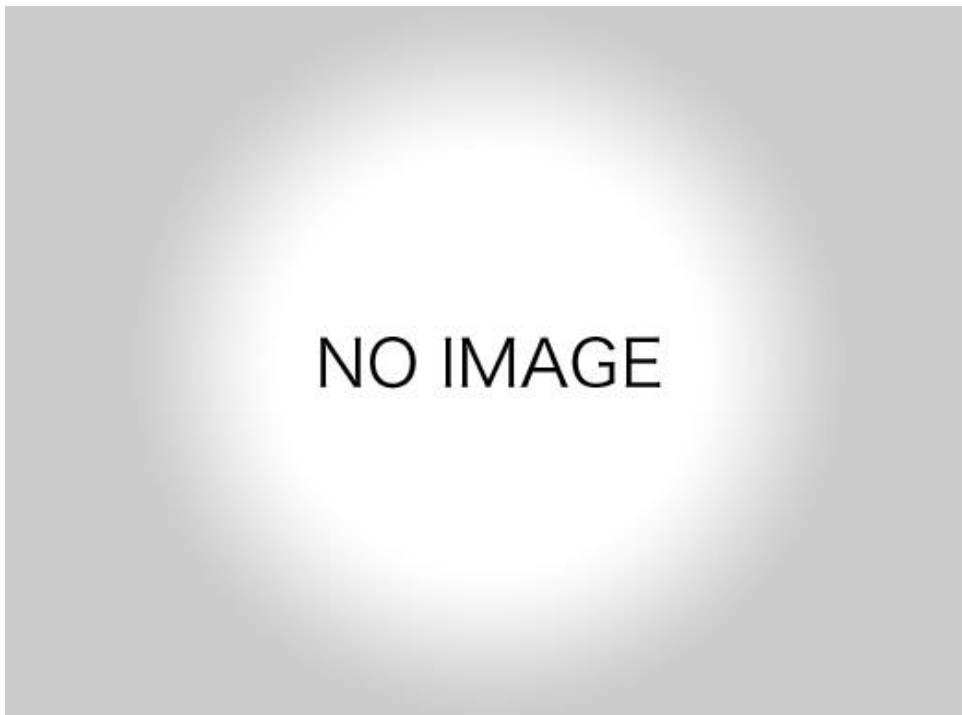
[選定理由]

全国的にも減少傾向が著しい種で、近年の河川改修が大きく影響していると考えられる。県内の生息地も生息環境の悪化によって絶滅が危惧される。

県内分布	国見町, 野津原町, 竹田市, 佐伯市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(佐賀・大分)
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	平地から丘陵地の砂礫質の多い河原。
現 状	既知産地4カ所のうち, 少なくとも2カ所はダム工事によって大きく生息環境が悪化しており, 絶滅が危惧される。
備 考	

クロカタビロオサムシ

学名	Calosoma maximowiczi (Morawitz)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	オサムシ科		
科名学名	Carabidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	



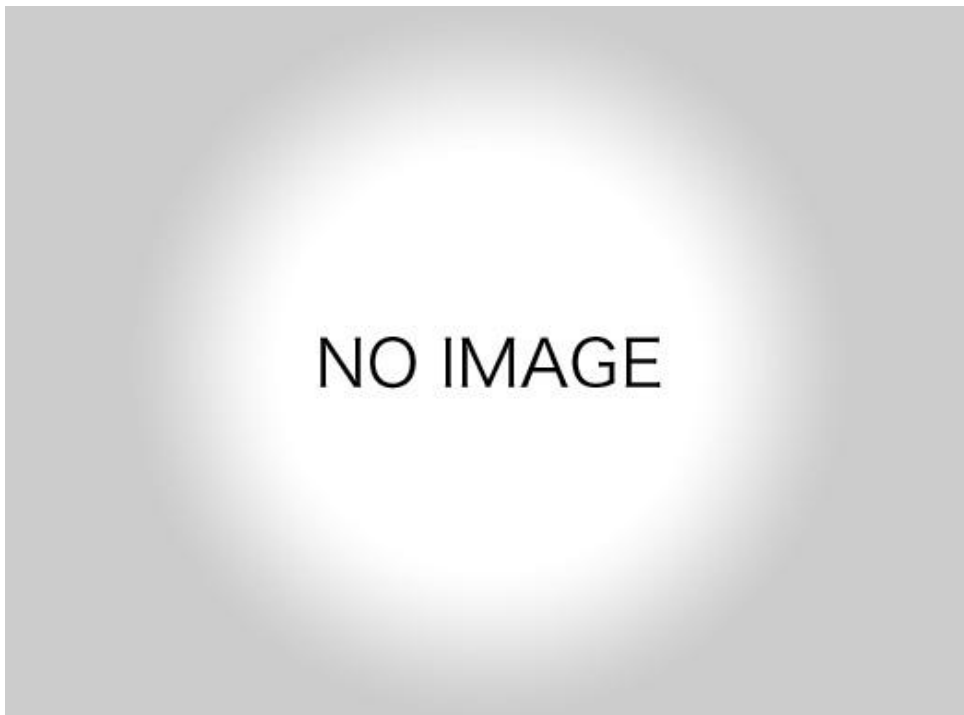
[選定理由]

非常に個体数の少ない種である。近年、減少傾向が見られる里山の昆虫の一種と考えられ、絶滅が懸念される。

県内分布	九重町, 別府市, 湯布院町, 緒方町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	シベリア東部, 朝鮮半島, 中国, 台湾
生息環境	森林の林縁部の樹上で主にチョウ目の幼虫を補食する。クヌギの樹液にも集まる。
現状	近年の採集記録がほとんどなく、個体数が激減していると思われる。
備考	

セアカオサムシ

学名	Hemicarabus tuberculatus (Dejean et Boisduval)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	オサムシ科	
科名学名	Carabidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

局地的な分布を示す種で、九州では、高原の草地や岩れき地の限られた生息地しかない。道路の開設や側溝の整備などの生息地の環境悪化により、絶滅が懸念される。

県内分布	九重町, 日出町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 久住町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	シベリア, 朝鮮半島, 中国
生息環境	高原地帯の草原, れき地。
現 状	由布・鶴見山系の裾野草原には、一部に比較的多産する場所もあるが、そのほかは非常に個体数が少ない。
備 考	後翅が退化した歩行性の甲虫。九重山群では山頂部に近い岩れき地でも発見されたことがある。

ウミホソチビゴミムシ

学名 Perileptus (Perileptus) morimotoi S.Ueno

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 オサムシ科

科名学名 Carabidae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：準 (NT)

NO IMAGE

[選定理由]

生息地の河口付近の河川改修工事や周辺の工業用地化によって、絶滅が懸念される種である。

県内分布	大分市, 蒲江町
分布域	本州, 四国, 九州, 奄美
世界的分布	南千島, 朝鮮半島南部
生息環境	河口付近の潮間帯の水辺。石下に潜む。
現 状	河口付近で僅かな個体が確認されており, 同属のほかのホソチビゴミムシ類に比べて非常に少ない種のようなのである。
備 考	

オオヒョウタンゴミムシ

学名	Scarites sulcatus Olivier	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	オサムシ科	
科名学名	Carabidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)



[選定理由]

河川敷や海浜の砂地を生息地とする本種は、現在全国でも僅かな産地しか残されていない。下の産地は僅か1カ所の河川敷であり、しかも常に草地利用ほか人為による環境変化が起こっており、生息環境のさらなる悪化が懸念される。

県内分布	大分市
分布域	本州, 四国, 九州(大分)
世界的分布	朝鮮半島, 中国, 台湾, 東南アジア, インド
生息環境	海岸や河川の砂地。
現 状	大分市の河川の河原に唯一の生息地がある。
備 考	

クチキゴミムシ

学名	Morion japonicum (Bates)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	オサムシ科	
科名学名	Carabidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



[選定理由]

平地、低山地の保存の良い暖帯森の古木が朽ちたところが発生地となるが、県内の既知産地3ヵ所とも安定しておらず、生息環境の悪化によっては絶滅の危険性が高い。

県内分布	清川村, 本匠村, 蒲江町
分布域	本州(奈良),九州(熊本・大分),屋久島,沖縄
世界的分布	日本固有種
生息環境	古木の多い自然林。
現 状	県内3ヵ所の生息地とも個体数は非常に少ない。
備 考	保存の良い照葉樹林に生息する南方系の種で、全国的に希である。

コゾノメクラチビゴミムシ

学名 Rakantrechus (Paratrechiamia) elegans S. Ueno

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 オサムシ科

科名学名 Carabidae

カテゴリー 大分県：絶滅(EX) 環境省：絶滅(EX)

NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	(津久見市)
分布域	大分県特産
世界的分布	日本固有種
生息環境	石灰岩の洞窟内。
現状	1955年に発見されたが、生息地は1960年代の開発により消失した。新種記載された津久見市の洞窟は石灰石鉱山の開発によって全山が姿を失い、再び本種を発見できるような生息環境はないと専門学会は判断している。
備考	生息する洞窟を含む山全体が消失した。

ウスケメクラチビゴミムシ

学名	Rakantrechus (Pilosotrechiama) mirabilis S. Ueno	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	オサムシ科	
科名学名	Carabidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： I (CR+EN)



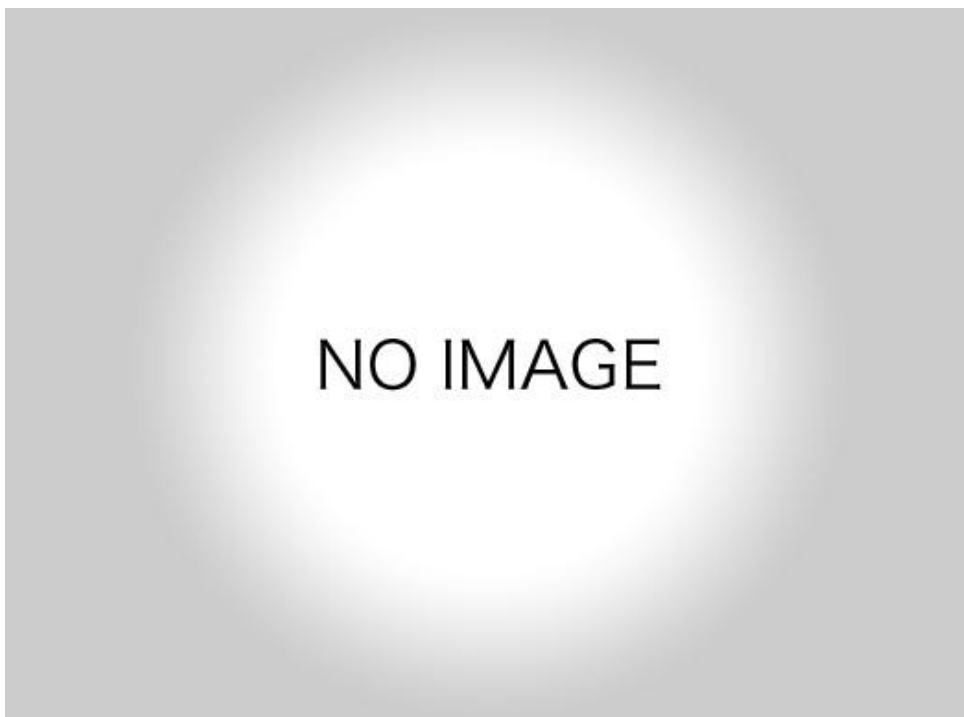
[選定理由]

新種記載された津久見市の洞窟は石灰石鉱山の開発によって環境破壊された。近年、再発見された山地の溪谷環境は県道に隣接しており、道路工事などの開発行為によっては生息環境を失って再び絶滅する危険性を秘めている。

県内分布	津久見市
分布域	大分県特産
世界的分布	日本固有種
生息環境	石灰岩の洞窟内及び地下浅層。
現 状	発見された生息地は1960年代の開発により消失したが、同じ地層の地下浅層に生息しているのが2007年に確認された。
備 考	

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

学名	Canthydrus politus (Sharp)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	コツブゲンゴロウ科	
科名学名	Noteridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



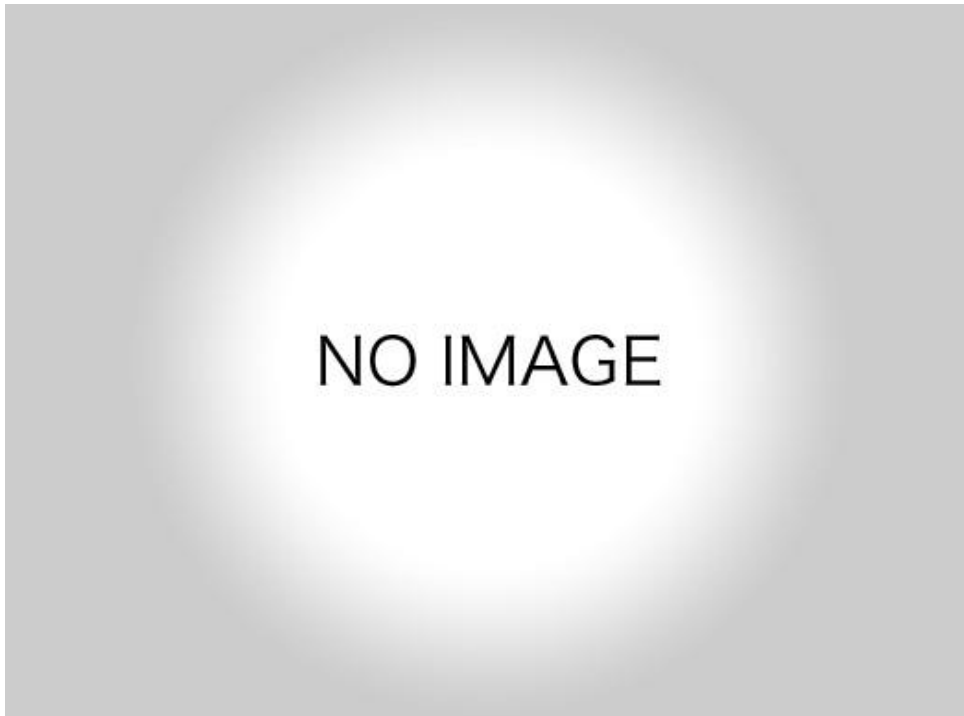
[選定理由]

生息地が浅い池のため、このような池は埋め立てられる可能性が高く、生息状態の悪化が懸念される。

県内分布	中津市, 宇佐市, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・鹿児島)
世界的分布	中国
生息環境	池沼の浅瀬の植物の多い水域に一年中見られる。
現状	中津市では、浅瀬の池で沢山の植物が見られ、多くの個体を見ることができる。宇佐市は、やや深い水域のためか個体数は少ない。県内で確認されているのは2か所の産地のみである。
備考	産地はきわめて局地的だが、生息地の個体数は多い。

ヒメケシゲンゴロウ

学名	Hyphydrus laeviventris Sharp		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ゲンゴロウ科		
科名学名	Dytiscidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



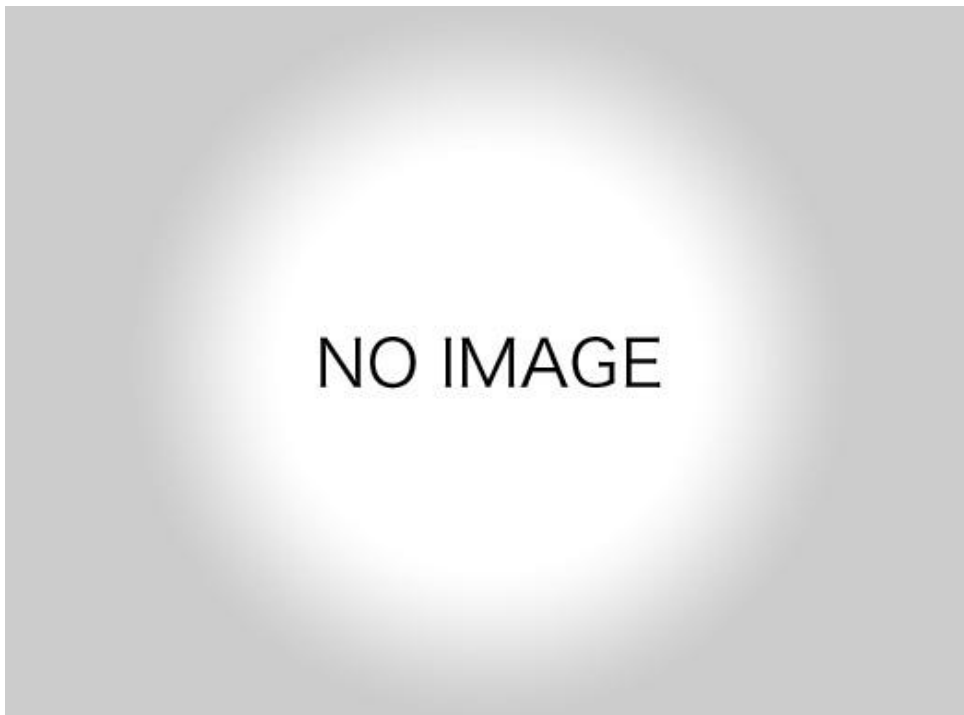
[選定理由]

産地はかなり局地的で個体数も少ない。平地の池が生息地となっているので、埋め立てられる恐れがある。

県内分布	中津市, 蒲江町
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	池沼, 放棄水田, 湿地などの止水域。
現 状	中津市と蒲江町の2か所の産地が確認されている。
備 考	

チャイロチビゲンゴロウ

学名	Liodessus megacephalus (Gschwendtner)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ゲンゴロウ科		
科名学名	Dytiscidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

生息地が海岸線のため、沿岸部の工事や開発による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	杵築市, 日出町, 大分市
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・長崎・大分・宮崎), 南西諸島
世界的分布	台湾, 中国南部
生息環境	海岸線の塩水の混じるようなタイドプールや荒地の水たまり, 湿地。
現 状	大分市の3か所に生息地がある。
備 考	

コクロマメゲンゴロウ

学名 *Agabus insolitus* Sharp

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 ゲンゴロウ科

科名学名 Dytiscidae

カテゴリー 大分県：準(NT)

環境省：掲載なし

NO IMAGE

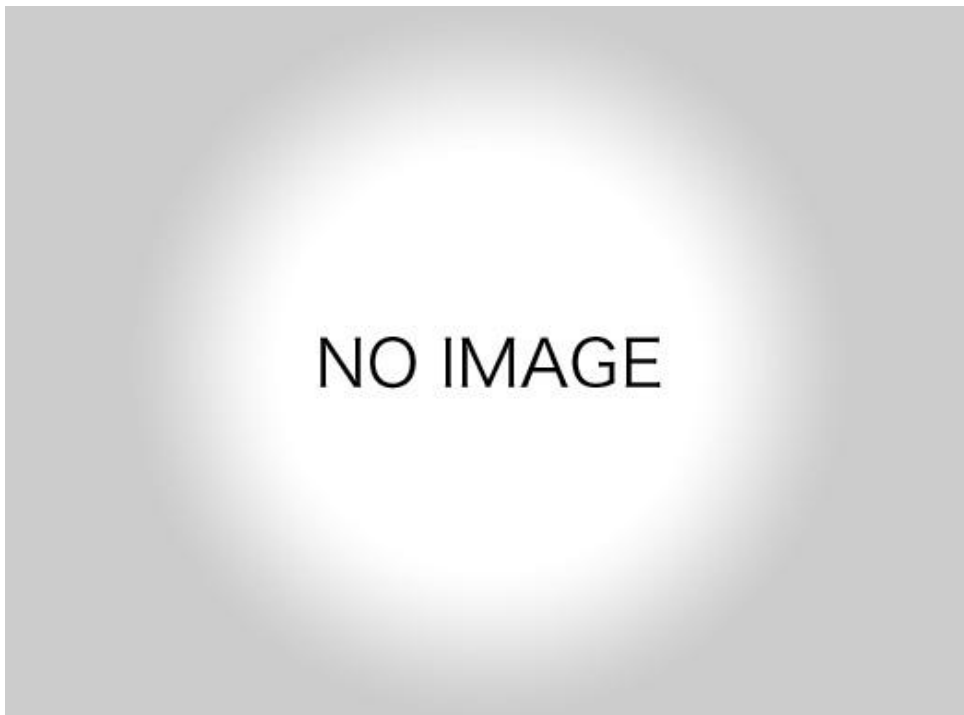
[選定理由]

山地の源流部に隔離分布する。

県内分布	緒方町, 庄内町
分布域	本州,九州(熊本・大分・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地の清流の小さな水たまり。
現状	緒方町の2か所で確認されており, 今の所安定している。
備考	九州では大変希らしく, 僅かな産地しか確認されていない。

ヒコサンセスジゲンゴロウ

学名	Copelatus takakurai M.Sato		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ゲンゴロウ科		
科名学名	Dytiscidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



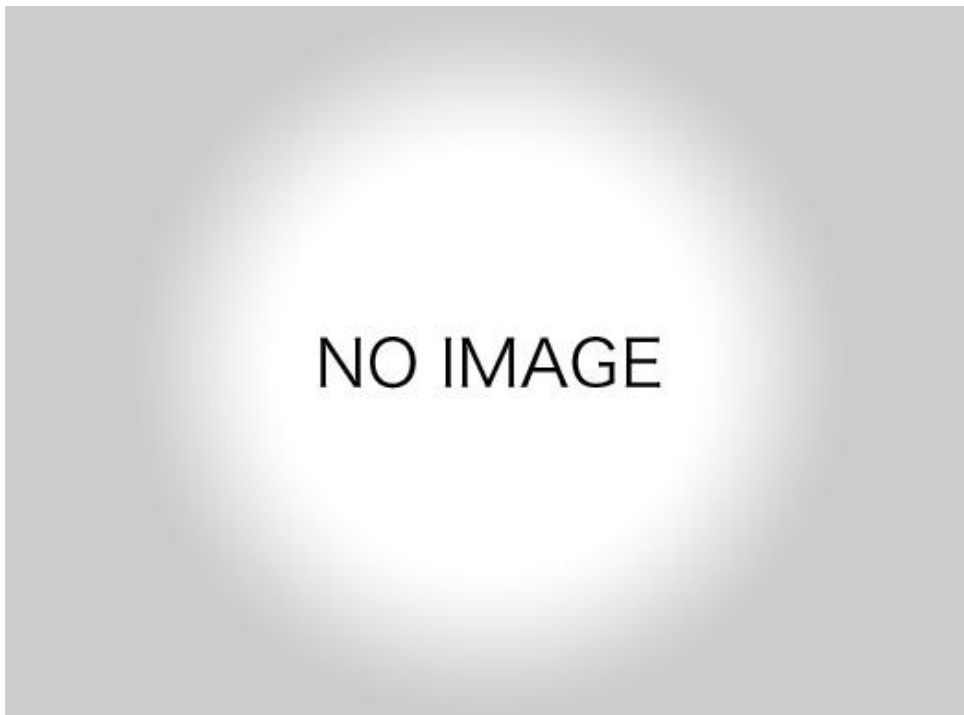
[選定理由]

九州のみに分布し、局地的で個体数が少ない。開発による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	中津市, 安心院町, 九重町, 日出町, 湯布院町, 竹田市
分布域	九州(福岡・佐賀・熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	荒れ地の水たまりや一時的に雨水が溜まった所などの不安定な水域。
現状	低山地から山地まで確認されている。
備考	

テラニシセスジゲンゴロウ

学名	Copelatus teranishii Kamiya		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ゲンゴロウ科		
科名学名	Dytiscidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



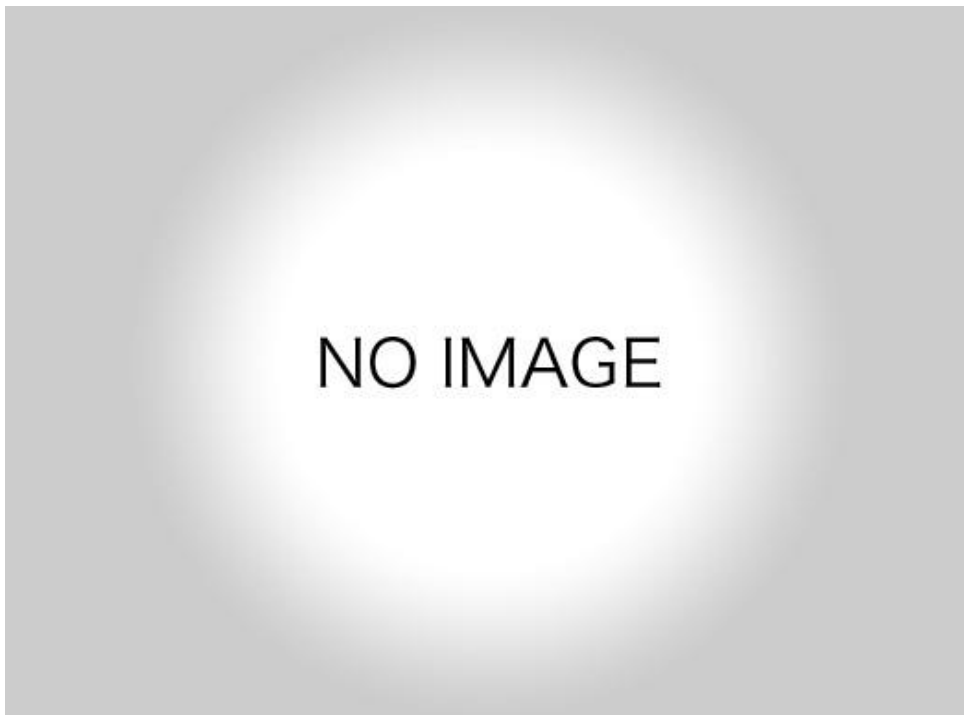
[選定理由]

分布は局地的隔離的で、九州本土では大分県が確実な産地である。

県内分布	中津市, 姫島村, 竹田市, 佐伯市
分布域	本州,九州(福岡・大分),対馬
世界的分布	日本固有種
生息環境	休耕田や一時的な水たまりなど。
現 状	中津市の休耕田と姫島村では,かなりの個体数を確認している。
備 考	

サワダマメゲンゴロウ

学名	Platambus sawadai (Kamiya)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ゲンゴロウ科		
科名学名	Dytiscidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

個体数が少なく、産地が局地的、隔離的である。

県内分布	庄内町, 緒方町, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	清流の石の間など。かなり上流部に偏る。
現状	緒方町(大野川), 宇目町(北川)では, 源流部に近い所にみられたが個体数は少ない。
備考	

ゲンゴロウ

学名	Cybister jaoinicus Sharp	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ゲンゴロウ科	
科名学名	Dytiscidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： 準 (NT)



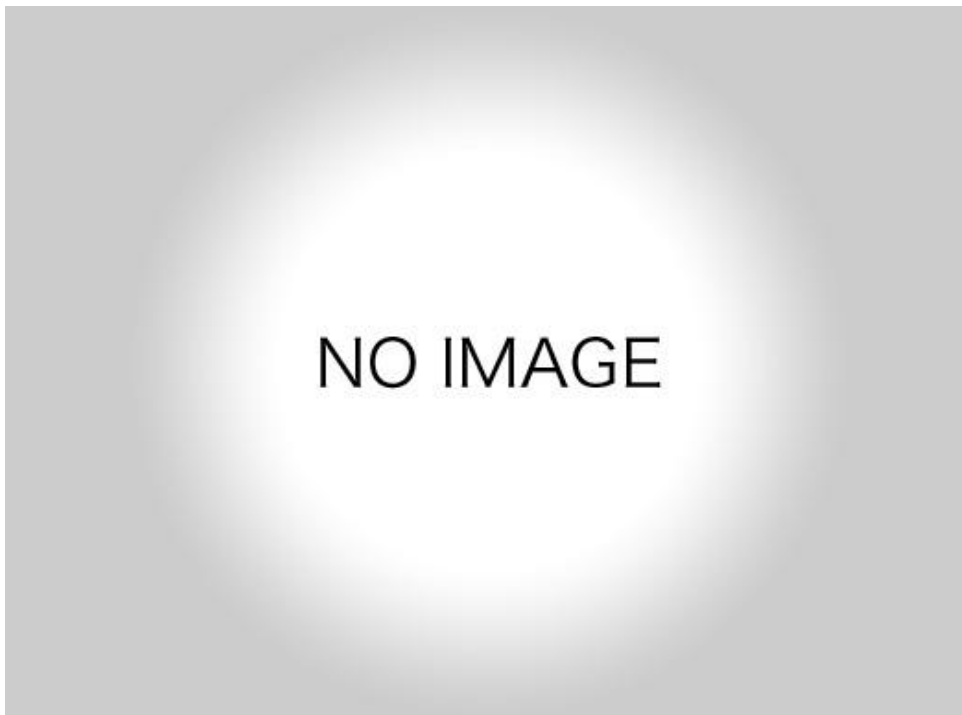
[選定理由]

主に水田地帯に生息し、食物連鎖の上位であることから、農薬汚染による影響をもっとも顕著に受け、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布	九重町, 玖珠町, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島, 壱岐
世界的分布	シベリア, 朝鮮半島, 中国, 台湾
生息環境	ヒルムシロ, オモダカなどの水生植物の生えた池沼や放棄水田, 湿地。
現 状	1960年代以降ほとんど確認できず, 1990年代後半わずかな個体を確認された。3~4年前に九重町で, その後玖珠町でも確認された。
備 考	

コガタノゲンゴロウ

学名	Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ゲンゴロウ科	
科名学名	Dytiscidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅰ (CR+EN)



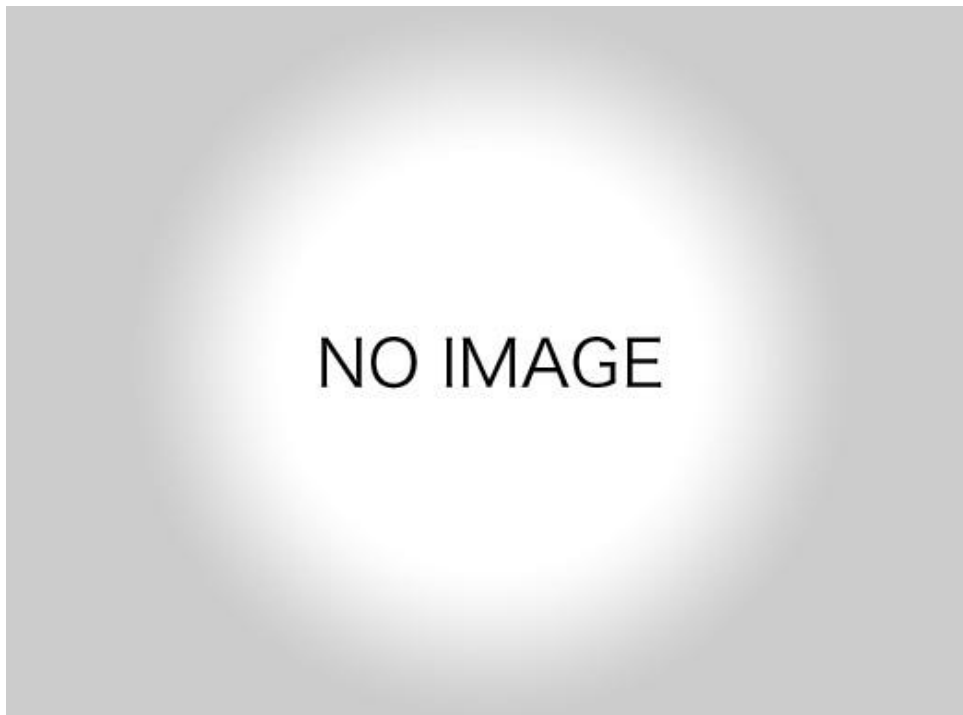
[選定理由]

かつては県内に広く分布していたが、池沼の減少と農薬による水質の悪化で生息地が狭まり、個体数の減少が懸念される。

県内分布	日田市, 上津江村, 玖珠町, 別府市, 日出町, 大分市, 野津原町, 犬飼町, 三重町, 野津町, 竹田市, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州, 南西諸島
世界的分布	台湾, 中国, 朝鮮半島
生息環境	殺虫剤や水田除草剤の影響をまぬがれた地域の水生植物の生えた池沼, 休耕田など。
現状	県内では主として山間部に生息地が点在する。
備考	

マルガタゲンゴロウ

学名	Graphoderus adamsii (Clark)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ゲンゴロウ科	
科名学名	Dytiscidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 準 (NT)

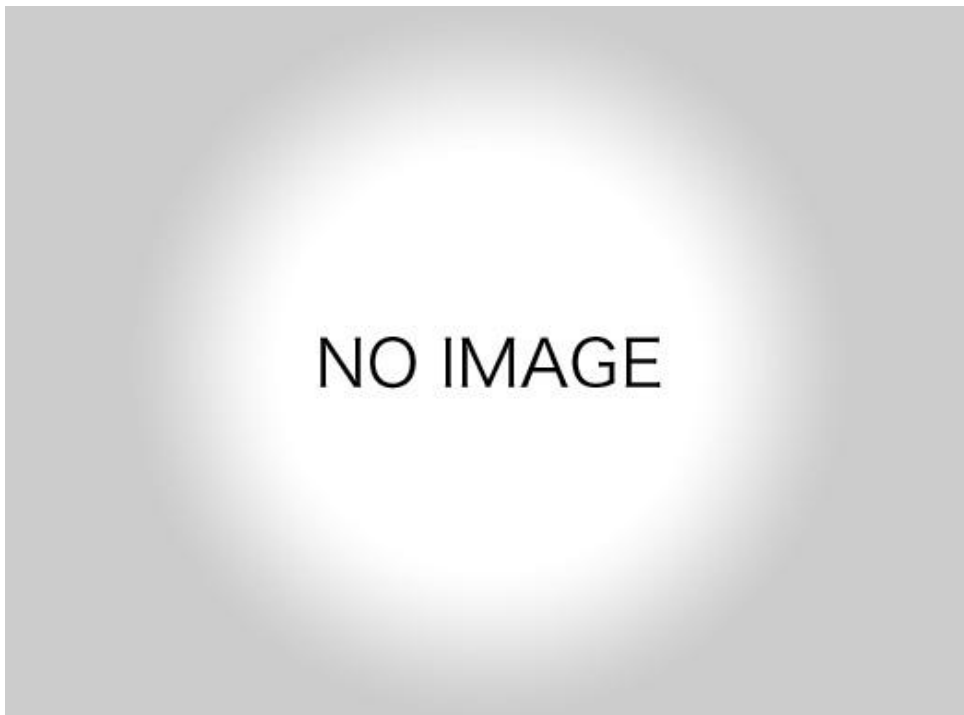


[選定理由]

県内分布	(大分県)
分布域	北海道,本州,四国,九州(福岡・熊本・大分)
世界的分布	朝鮮半島,中国
生息環境	平地や丘陵地の休耕田・池沼などの水域。
現 状	県内分布は文献記録のみで、近年の情報がなく、絶滅の可能性はある。
備 考	

スジゲンゴロウ

学名	Hydaticus satoi Wewalka	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ゲンゴロウ科	
科名学名	Dytiscidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：I (CR+EN)



[選定理由]

県内分布	(大分市, 野津町, 佐伯市, 宇目町)
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分・鹿児島), 対馬, 大隅諸島, トカラ列島
世界的分布	朝鮮半島, 中国, 台湾, フィリピン, ボルネオ, ミャンマー, ブータン, ネパール, インド, スリランカ
生息環境	ヒルムシロ, オモダカなどの水生植物の生えた池沼や休耕田, 湿地。
現 状	1959年に大分市で採集された標本が大分県唯一の記録。1970年代以降全国から姿を消していった。
備 考	1970年代以降全国から姿を消していった。近年では静岡県伊東市(秋山, 1988)の記録があるのみである。現在日本のゲンゴロウ類のなかでは, もっとも絶滅の危険性が高い種である。

ツヤヒラタガムシ

学名	Agraphydrus narusei (M.Sato)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ガムシ科		
科名学名	Hydrophilidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



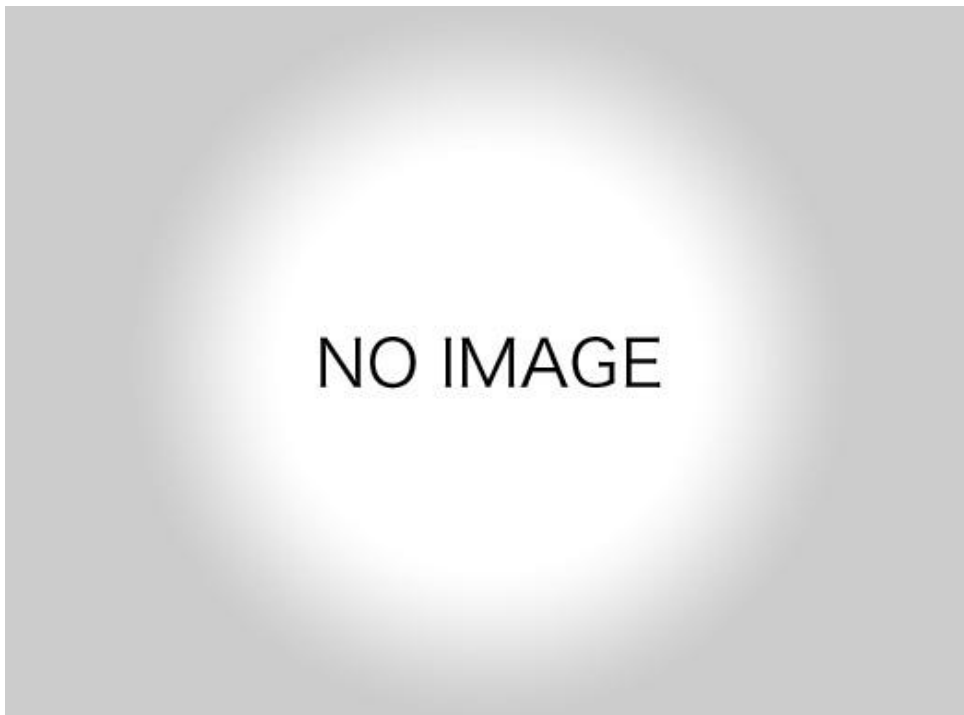
[選定理由]

局地的に川の上流域やダムで確認され、流域の森林伐採や河川工事などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	日田市, 耶馬溪町, 津久見市, 佐伯市, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	清流に生息し, 川の上流部に見られる。
現状	津久見市と佐伯市の池やダムで確認されているだけである。
備考	

マルヒラタガムシ

学名	Enochrus subsignatus (Harold)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ガムシ科	
科名学名	Hydrophilidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



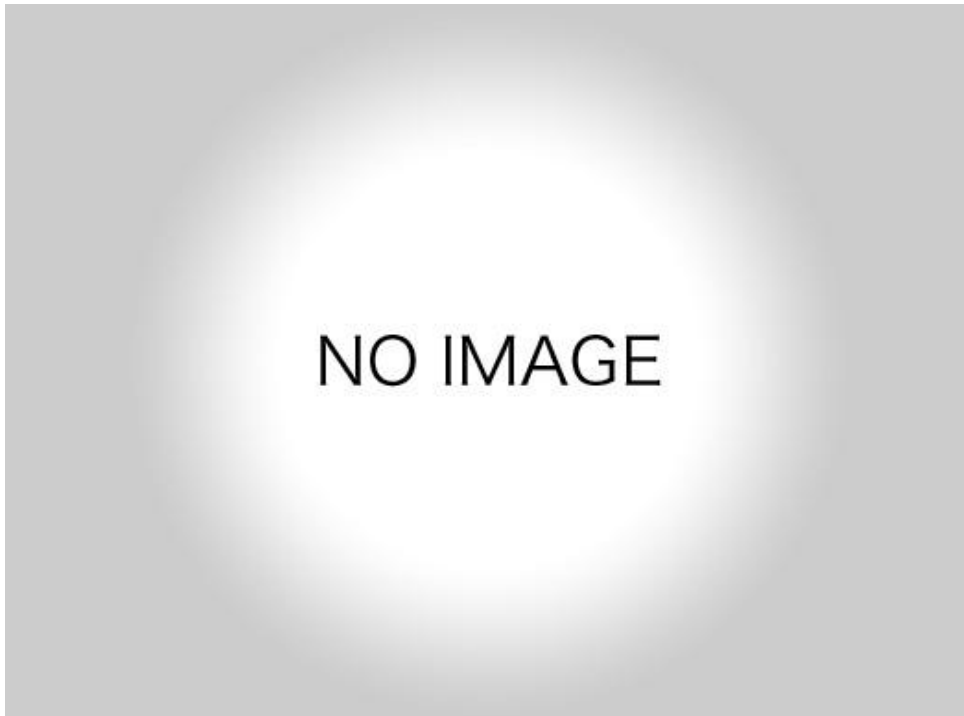
[選定理由]

生息地と同様な池はほかにもみられるが、県内の他の池では確認されず、環境の悪化によって追いつめられていると思われる。

県内分布	中津市
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分), 沖縄
世界的分布	台湾, 中国
生息環境	池沼の浅瀬に植物が繁茂している水域。
現状	中津市の池でみられる。
備考	全国的に少ない種である。湿地や池沼の減少により絶滅が危惧される。

マルチビガムシ

学名	Pelthydrus japonicus M.Sato		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ガムシ科		
科名学名	Hydrophilidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



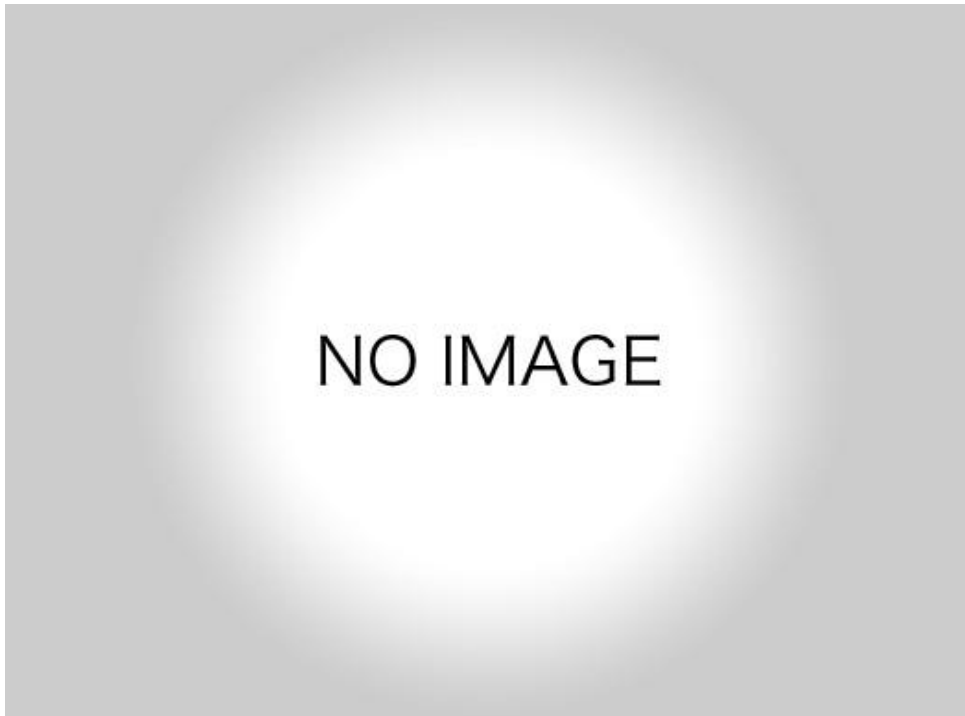
[選定理由]

県内での生息地はごく限られており、隔離的である。

県内分布	山香町, 湯布院町
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	池沼などの浅瀬に植物が繁茂している止水域。
現 状	山香町と湯布院町で1998年以降わずかな個体が採集されたのみ。
備 考	

コガタガムシ

学名	Hydrophilus hilineatus cashimirensis Redtenbacher		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ガムシ科		
科名学名	Hydrophilidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



【選定理由】

人での加わらない池沼や水辺の植物の繁茂した止水域に生息するが、県内ではわずか1か所で生息が確認された。河川工事による生息地の消滅が懸念される。

県内分布	宇目町
分布域	本州, 四国, 九州, 琉球
世界的分布	台湾, 中国, 東南アジア, カシミール, インド, スリランカ
生息環境	池沼などの浅瀬に植物が繁茂している止水域。
現 状	宇目町に県内唯一の生息地がある。
備 考	

エゾアリガタハネカクシ

学名 Paederus parallelus Weise

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 ハネカクシ科

科名学名 Staphylinidae

カテゴリー 大分県：準(NT)

環境省：掲載なし

NO IMAGE

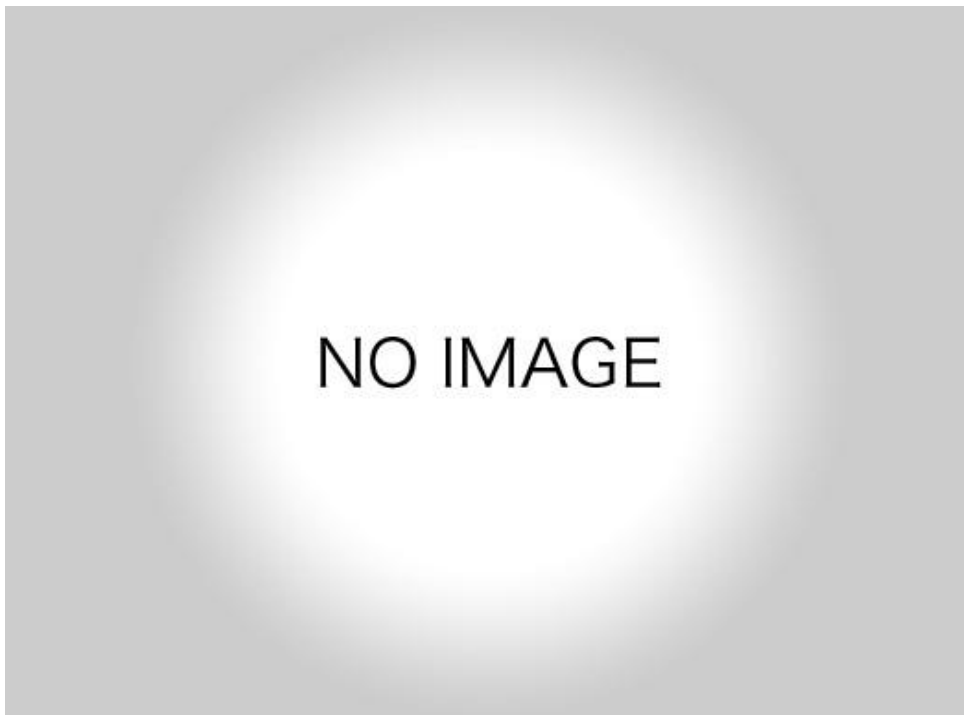
[選定理由]

限られた生息地が観光開発などによって脅かされ、個体数が減少している。

県内分布	山国町, 九重町, 庄内町, 久住町
分布域	北海道, 本州, 九州
世界的分布	南千島, 韓国
生息環境	深山地の溪谷周辺の、明るい空間を生活圏とし、アザミなどの葉上で発見されることが多い。
現 状	多産地であった九重山群では、近年の観光地化によって環境が様変わりしたため、本種はほとんど希にしかみられなくなった。
備 考	

シラフハイイロハネカクシ

学名	Phytolinus variegatus Sawada et Nakane		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ハネカクシ科		
科名学名	Staphylinidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



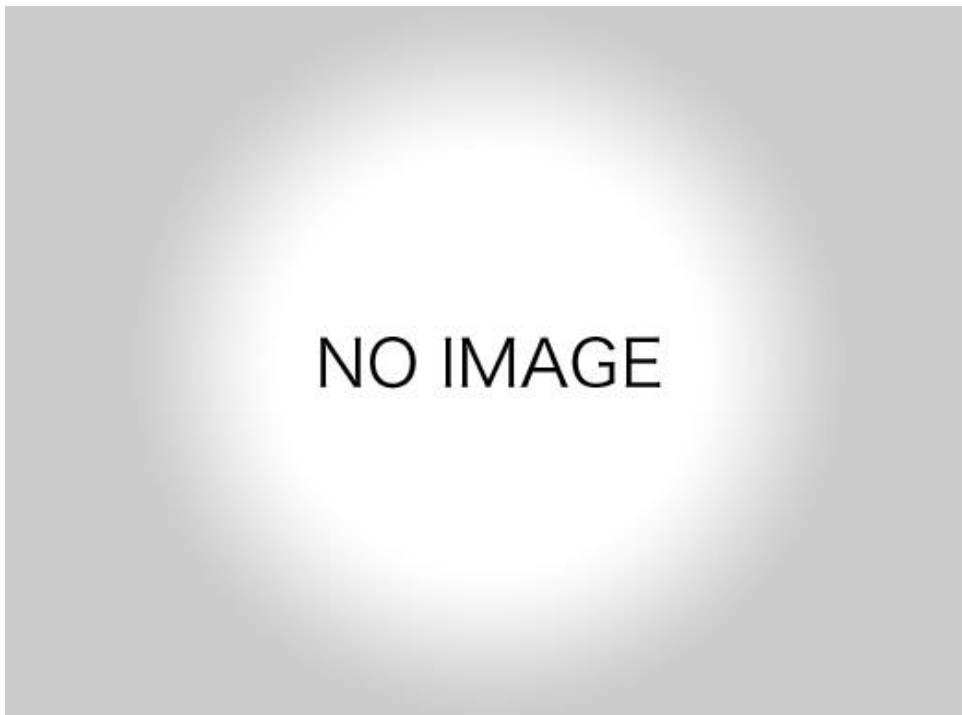
[選定理由]

祖母山と九重山の森林でわずかに採集されているが、個体数が非常に少ない。

県内分布	九重町, 久住町, 竹田市, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	高地の森林帯で発見されているが, 生態など詳しい観察例はない。近縁のハイイロハネカクシは山地の葉上に多い。
現状	祖母山と九重山に僅かな記録のほかには生息地が発見されず, 情報不足である。
備考	深山地に生息する珍種。

ネブトクワガタ

学名	Aegus laevicollis laevicollis E.Saunders		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	クワガタムシ科		
科名学名	Lucanidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



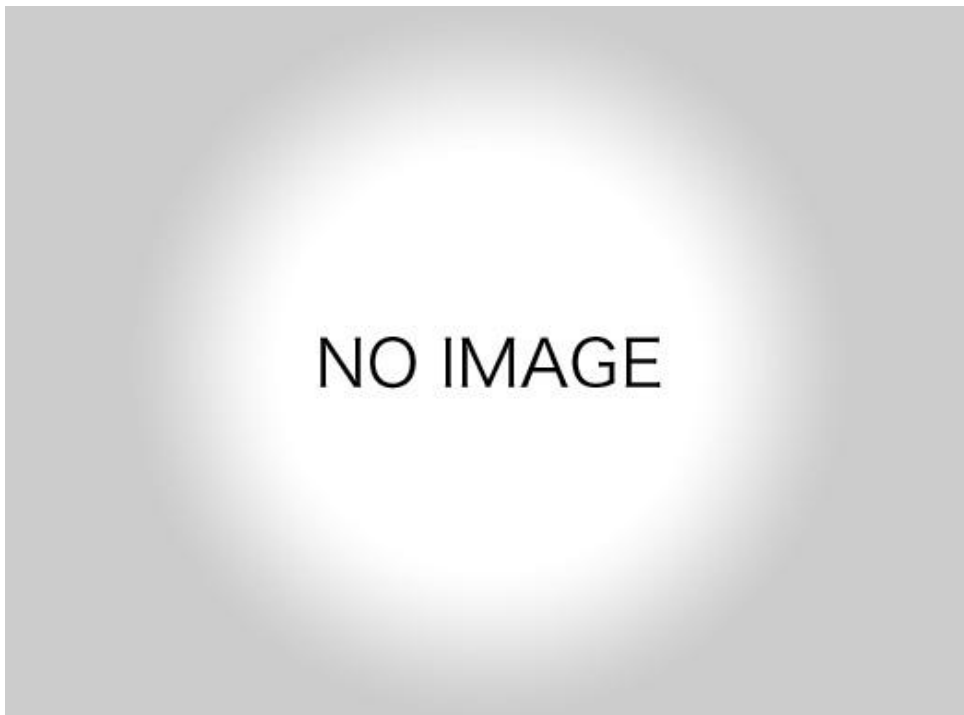
[選定理由]

県内の分布域は限られ個体数も少ない。マツの枯死による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	臼杵市, 緒方町, 三重町, 佐伯市, 鶴見町, 蒲江町
分布域	本州, 四国, 九州, 伊豆諸島, 対馬, 屋久島, 種子島, トカラ列島, 奄美諸島
世界的分布	中国
生息環境	幼虫はマツや常緑広葉樹の赤褐色に腐食土化した中に入り, 成虫になると各種樹木の樹液のある場所に生息する。
現 状	低山地の昆虫であり, 森林破壊の影響を強く受けている。
備 考	

オオクワガタ

学名	Dorcus hopei (E.Saunders)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	クワガタムシ科	
科名学名	Lucanidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)



【選定理由】

主に平地の里山を生息地としており、樹木の伐採により大木が少なくなって個体数が減少し、絶滅の危険性が高い。

県内分布	三光村, 宇佐市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	幼虫は平地の腐朽した広葉樹の朽ち木に入り, 成虫になると広葉樹の樹液のある場所に生息する。
現 状	宇佐市にわずかな生息地がある。個体数は非常に少ない。
備 考	

ムネアカセンチコガネ

学名	Bolbocerosoma nigroplagiatum (Waterhouse)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ムネアカセンチコガネ科		
科名学名	Bolboceratidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

里山の都市化と牧草地や草原の荒廃により生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	日田市, 上津江村, 九重町, 湯布院町, 国見町, 別府市, 日出町, 庄内町, 大分市, 佐賀関町, 久住町, 犬飼町, 佐伯市
分布域	北海道, 本州(伊豆諸島を含む), 四国, 九州(壱岐を含む)
世界的分布	朝鮮半島
生息環境	山地の放牧場が隣接する草原地帯。
現 状	採草地など草原の管理が本種の生活環境に影響を及ぼしている。生息地での個体数は少ない。
備 考	

アカマダラセンチコガネ

学名	Ochodaeus maculatus maculalus Waterhouse	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	アカマダラセンチコガネ科	
科名学名	Ochodaeidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



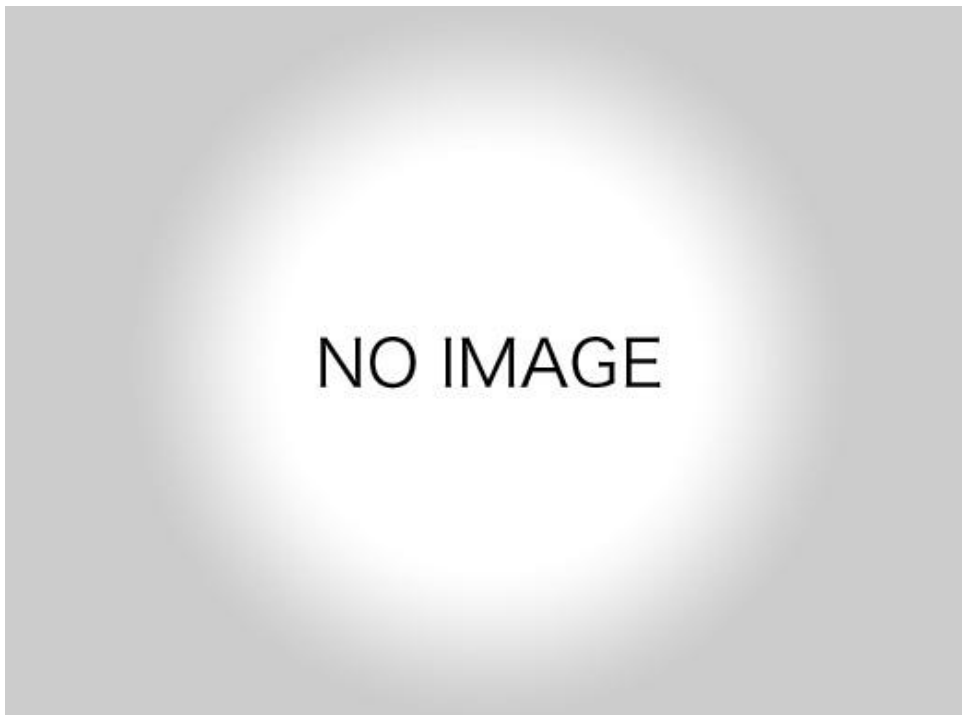
【選定理由】

黄昏時の飛翔活動など生態は非常に特異であり、森林伐採や草地改良など環境の変化による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	耶馬溪町, 日田市, 中津江村, 上津江村, 九重町, 豊後高田市, 山香町, 湯布院町, 別府市, 庄内町, 挾間町, 緒方町, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地の草地が隣接する森の, 木漏れ日が差し込むような場所。
現 状	獣糞または植物のいずれを食すのか食性が不明であり, 生息地においても個体数は極端に少ない。
備 考	全国的に各地とも希な種とされる。

ゴホンダイコクコガネ

学名	Copris acutidens Motschulsky		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	コガネムシ科		
科名学名	Scarabaeidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

放牧場などの減少により個体数が減った。生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	耶馬溪町, 日田市, 上津江村, 玖珠町, 九重町, 湯布院町, 別府市, 庄内町, 竹田市, 久住町, 緒方町, 直川村, 蒲江町, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 五島
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	山地, 低山地の獣糞(牛・犬)のある場所。
現状	放棄される牧草地などが増え, 糞虫である本種の生息域がかなり減少した。
備考	

ダイコクコガネ

学名 *Copris ochus* Motschulsky

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 コガネムシ科

科名学名 Scarabaeidae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：準 (NT)

NO IMAGE

【選定理由】

主に牧場の牛馬糞に依存していた種であるため、放牧場の減少により生息地の減少と個体数の減少が懸念される。

県内分布	日田市, 玖珠町, 九重町, 湯布院町, 別府市, 久住町, 庄内町, 直入町, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 伊豆諸島, 壱岐, 口永良部島, 屋久島
世界的分布	済州島, 朝鮮半島, シベリア東部, 中国, モンゴル
生息環境	山地の放牧場の牛糞のある場所。
現 状	放棄される牧草地が増え, 糞虫である本種の生息域がかなり減少した。
備 考	

クロモンマゲソコガネ

学名	<i>Aphodius (Aphodaulacus) variabilis</i> Waterhouse	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	コガネムシ科	
科名学名	Scarabaeidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)



【選定理由】

30～40年以前には全国各地の里山に普通に生息していた本種が急速に衰退している。県下の2か所の産地はいずれも脆弱な生息環境で、かろうじて個体数を維持している現状である。

県内分布	宇佐市, 大分市, 野津原町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬
世界的分布	シベリア, 朝鮮半島, 中国, トルキスタン
生息環境	里山環境や河川堤防などの草地の獣糞。
現 状	宇佐市と大分市の河川堤防で犬糞に依存して僅かな個体が生息している。
備 考	全国で現在生息が確認されているのは数県にすぎない。

ツヤマグソコガネ

学名 *Aphodius (Aphodiellus) impunctatus* Waterhouse

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 コガネムシ科

科名学名 Scarabaeidae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU)

環境省：掲載なし



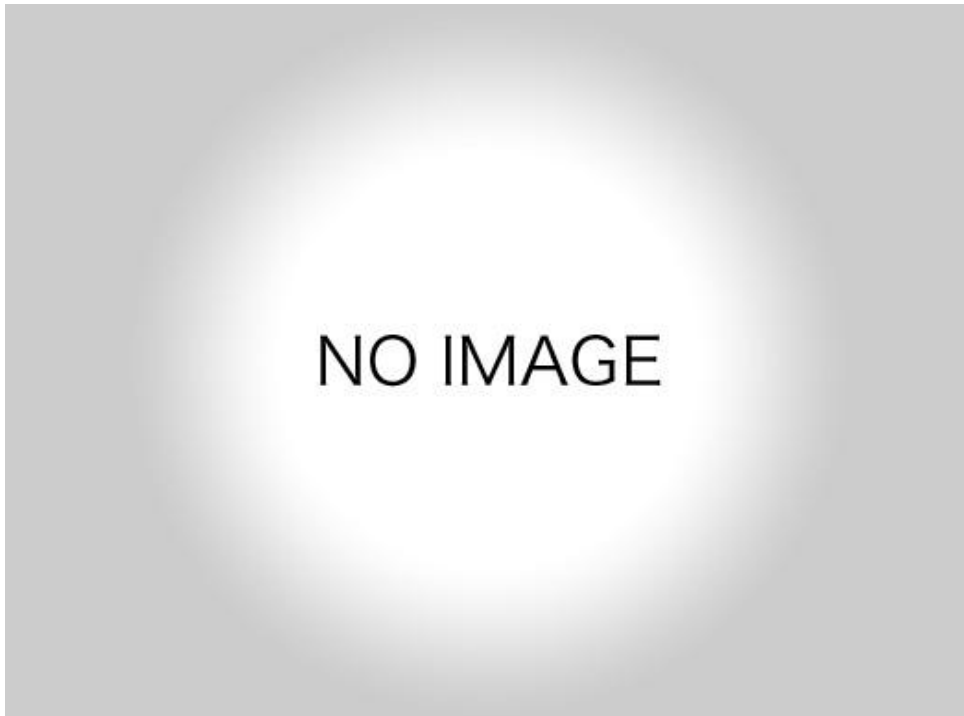
【選定理由】

ダイコクコガネが牛糞を土中に掘ったトンネルに育児球として運ぶその糞の一部を本種の幼虫が食べて育つという、寄生性の生態をもつ。寄主であるダイコクコガネが絶滅の危険性が増しているため、本種も生息環境を失いつつある。

県内分布	玖珠町, 久住町, 九重町, 朝地町, 庄内町
分布域	本州(山口)・九州(佐賀・長崎・熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	放牧地となっている高原草地。
現 状	県中西部に広がる高原草地で生息が確認されているが、近年はダイコクコガネの衰退とともに個体数を減じている。
備 考	九州特産の希少種である。

ヒゲコガネ

学名	Polyphylla laticollis Lewis	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	コガネムシ科	
科名学名	Scarabaeidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

河川敷などで多数生息していたが、河川改修工事などにより個体数が減少してきた生息地が多い。

県内分布	中津市, 三光村, 山香町, 天瀬町, 玖珠町, 別府市, 大分市, 野津原町, 臼杵市, 三重町, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	おもに河原の草地。
現 状	河川改修や宅地化により, 極端に個体数が減少している。
備 考	

オオチャイロハナムグリ

学名	Osmoderma opicum Lewis	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	コガネムシ科	
科名学名	Scarabaeidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)



[選定理由]

幼虫は樹洞内の腐食土中で生活するため、大木の伐採により生息範囲がかなり狭められている。

県内分布	別府市, 湯布院町, 九重町, 庄内町, 竹田市, 久住町
分布域	本州, 四国, 九州, 屋久島
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地の樹洞や立ち枯れの木の中。
現 状	保存の良い森林に生息しているが、大木の伐採が進み、近年かなり生息域が狭められている。
備 考	

アカマダラコガネ

学名	Poecilophilides rusticola (Burmeister)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	コガネムシ科	
科名学名	Scarabaeidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：情報不足 (DD)



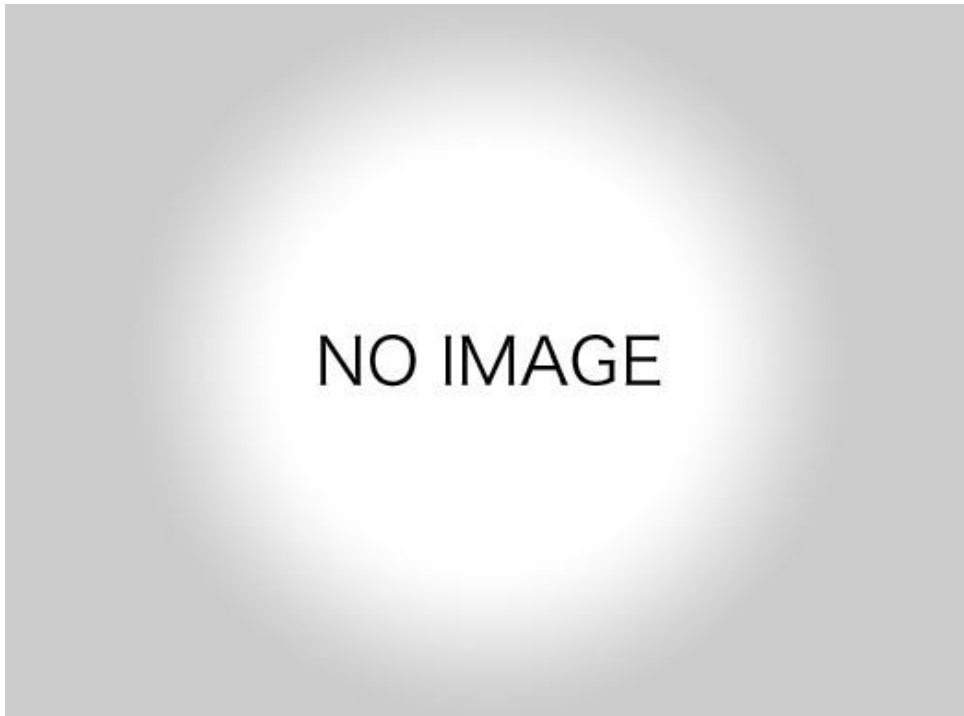
[選定理由]

里山の昆虫であり堆肥中で生育するため、堆肥の生産が著しく減少し極端に数を減らした種である。生息地は明らかに減少している。

県内分布	中津市, 三光村, 宇佐市, 玖珠町, 山香町, 別府市, 大野町, 三重町, 竹田市, 緒方町, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	済州島, 朝鮮半島, シベリア東部, 中国, モンゴル
生息環境	低山地の雑木林。(幼虫期を堆肥中で過ごす)
現状	以前は, ごく普通種であったが, 近年ほとんど見られなくなった。
備考	

コカブトムシ

学名	Eophileurus chinensis chinensis Faldermann	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	コガネムシ科	
科名学名	Scarabaeidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



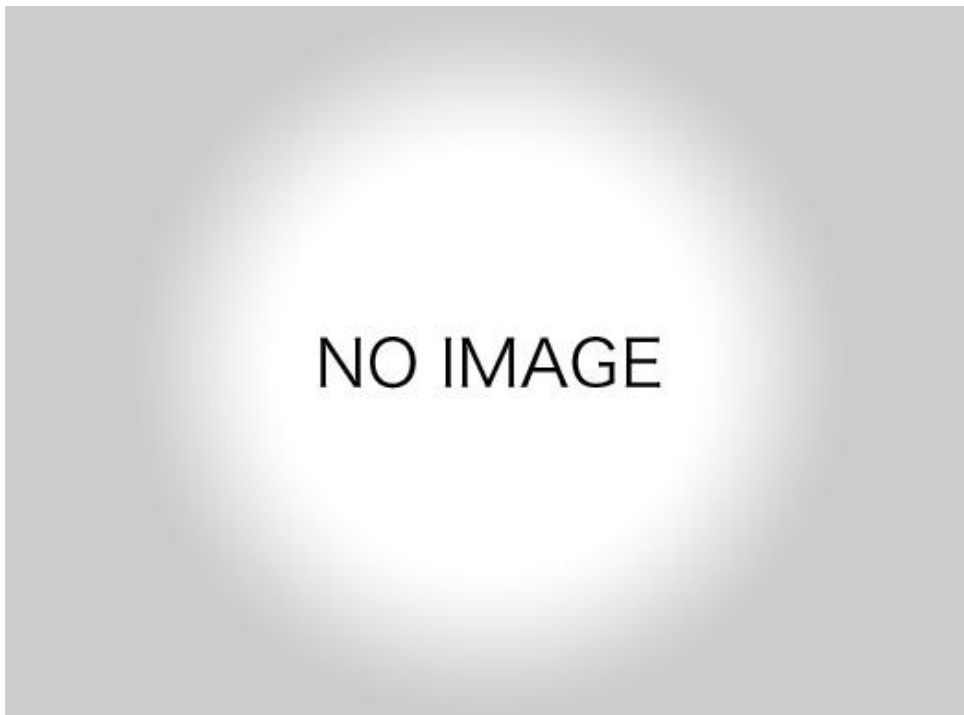
[選定理由]

森林伐採により、生息環境が悪化している。

県内分布	宇佐市, 豊後高田市, 山香町, 日出町, 玖珠町, 大分市, 挾間町, 犬飼町, 大野町, 三重町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 琉球列島
世界的分布	朝鮮半島, 中国, 台湾
生息環境	朽ち木や腐食土の中。
現 状	植林のため生息に適した朽ち木などが減り, 個体数の減少をきたしている。
備 考	

クロサワドロムシ

学名	Neoriohlmis kurosawai Nomura	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ヒメドロムシ科	
科名学名	Elmidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



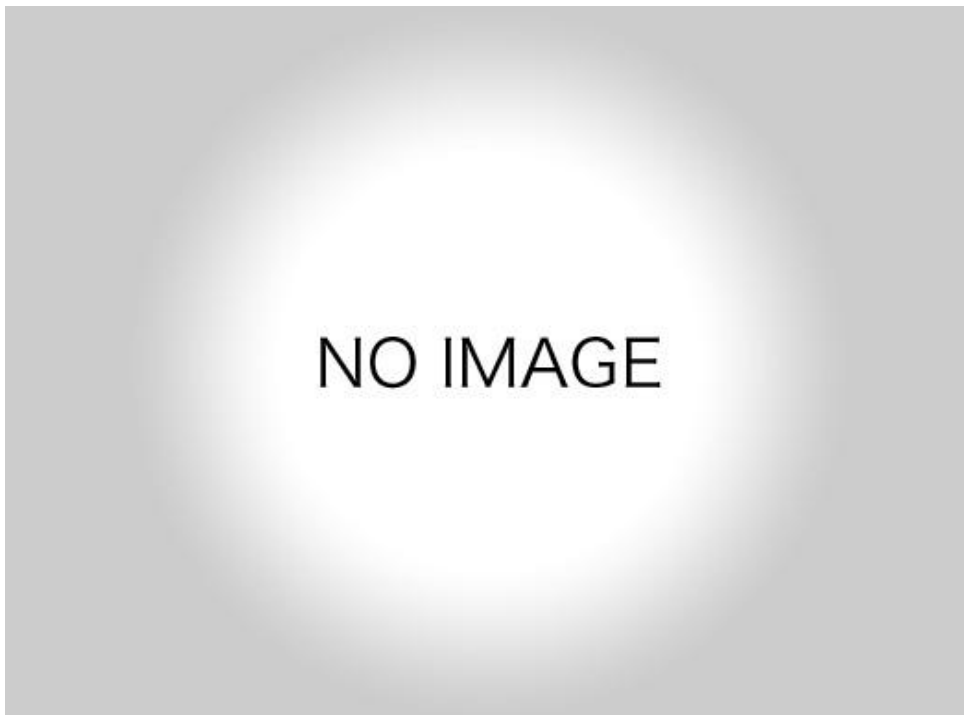
[選定理由]

九州では、近年確認された種で大変少ない。護岸工事などにより生息地の環境悪化の可能性が強い。

県内分布	九重町, 庄内町, 久住町, 野津原町
分布域	本州,九州(大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	川の上流部, 清流の浅瀬。
現状	九重山一帯の源流部付近の小川で見られる。
備考	

ゴトウミゾドロムシ

学名	Ordobrevia gotoi Nomura	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ヒメドロムシ科	
科名学名	Elmidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

九州では宮崎県五ヶ瀬町と大分県の2か所しか確認されていない。護岸工事などにより生息地の環境悪化の可能性が強い。

県内分布	宇目町
分布域	本州,九州(大分・宮崎),対馬
世界的分布	日本固有種
生息環境	清流の浅瀬の水中。
現 状	宇目町の小川にみられる。
備 考	

ケスジドロムシ

学名 *Pseudamophilus japonicus* Nomura

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 ヒメドロムシ科

科名学名 Elmidae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：準(NT)



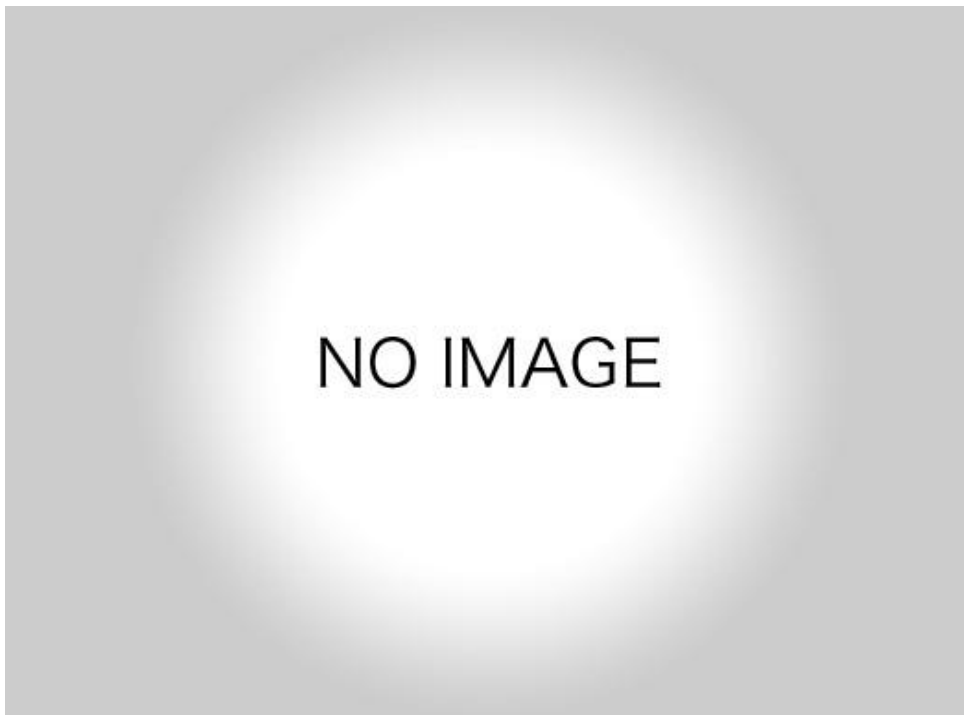
【選定理由】

河川中上流域に生息しているが、河川改修などによって全国的に減少している。九州では唯一の産地である直川村でも、その生息環境の変化による衰退が懸念される。

県内分布	直川村
分布域	本州(神奈川),九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	河川中流域の豊かな自然林を背景にした流域。
現 状	発見された河川域は現在大きな環境改変はない。
備 考	全国で現在生息が確認されているのは数県にすぎない。

フチトリヒメヒラタタマムシ

学名	Anthaxia primorjensis Obenberger	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	タマムシ科	
科名学名	Buprestidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし



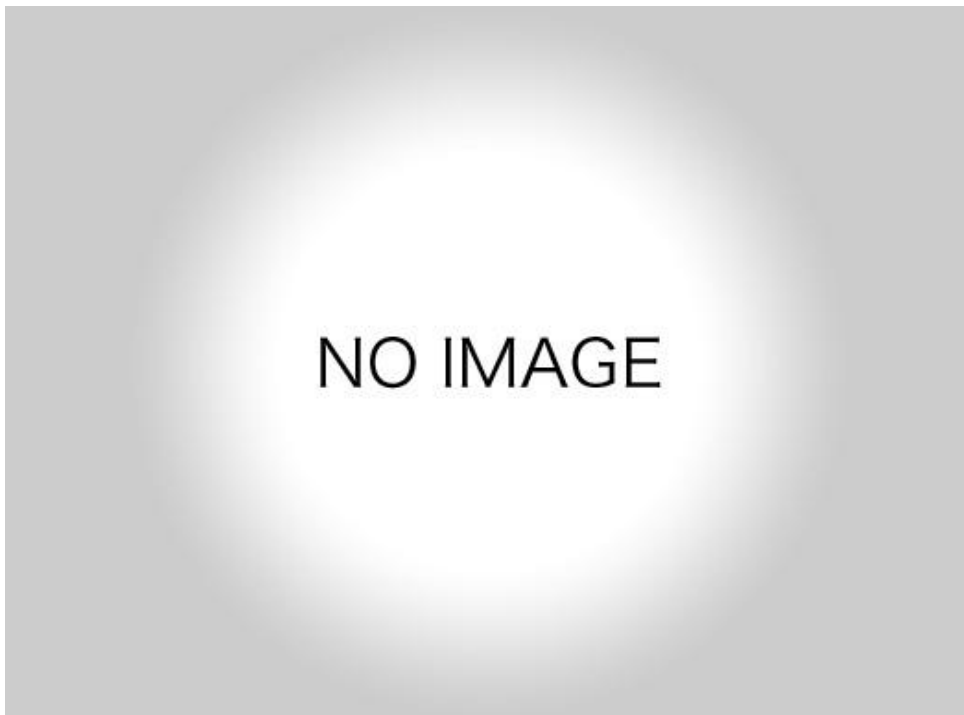
[選定理由]

大分県が九州唯一の記録地である。日田地方での調査によって再発見されたが、狭小な範囲の里山環境であり個体数が少なく、環境改変の可能性もあり、生息条件の悪化が懸念される。

県内分布	日田市
分布域	北海道,本州,九州(大分),対馬
世界的分布	朝鮮半島,東シベリア
生息環境	コナラ・クヌギなどナラ類を食樹とし、ノイバラやクヌギの花に飛来する。
現状	1965年に採集されて以来、長い間確認されていなかったが、2008年に再発見された。
備考	

サツマウバタムシ

学名	Chalcophora yunnana satzumae Lewis	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	タマムシ科	
科名学名	Buprestidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

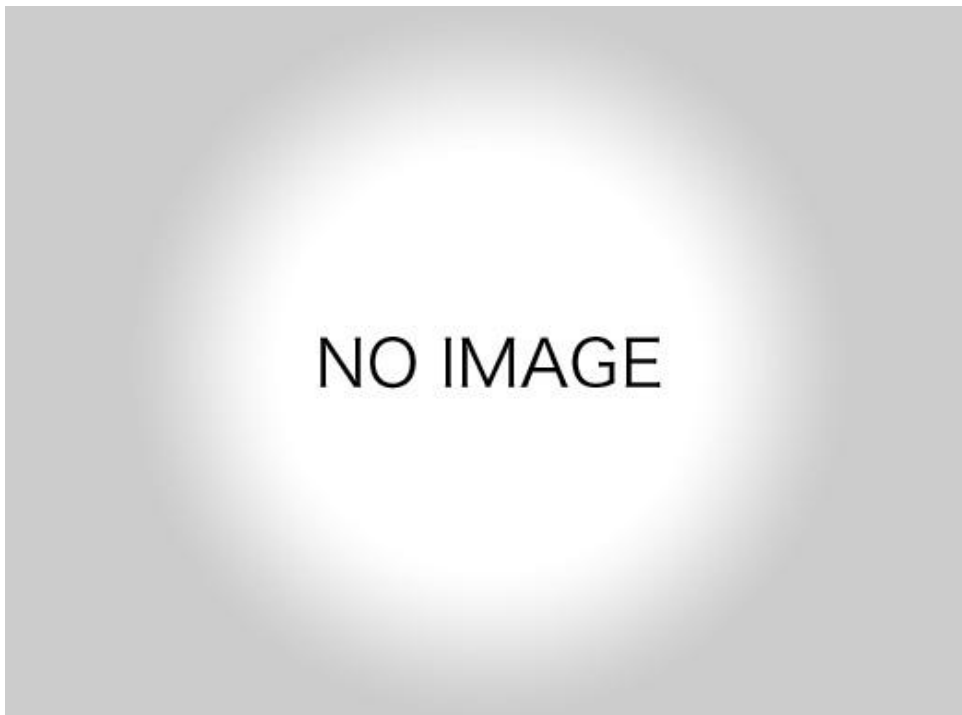


[選定理由]

県内分布	前津江村, 宇佐市, 佐賀関町, 臼杵市
分布域	本州, 四国, 九州, 甌島, 種子島, 屋久島, 北大東島
世界的分布	日本固有種
生息環境	平地のマツ林。
現 状	昔は普通に見られたが, 最近全国的に少なくなっている。佐賀関町(1978年), 臼杵市(1981年), 宇佐市(1985年)に記録があるが, その後記録が途絶えている。マツの枯死, 殺虫剤の空中散布が減少の一因と考えられる。
備 考	

アヤムネスジタマムシ

学名	Chrysodema lewisii E.Saunders		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	タマムシ科		
科名学名	Buprestidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

海岸線沿いに分布しているため、生息地であるウバメガシを主体とするカシ類の林の減少が懸念される。

県内分布	宇佐市, 津久見市, 米水津村, 蒲江町
分布域	本州, 四国, 九州, 琉球
世界的分布	台湾
生息環境	海岸線沿いの林。
現 状	宇佐市, 津久見市, 米水津村, 蒲江町のそれぞれ1か所で確認されている。
備 考	南方系の種で, 北上するに従い少なくなっている。

アオタマムシ

学名	Eurythyrea tenuistriata Lewis	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	タマムシ科	
科名学名	Buprestidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

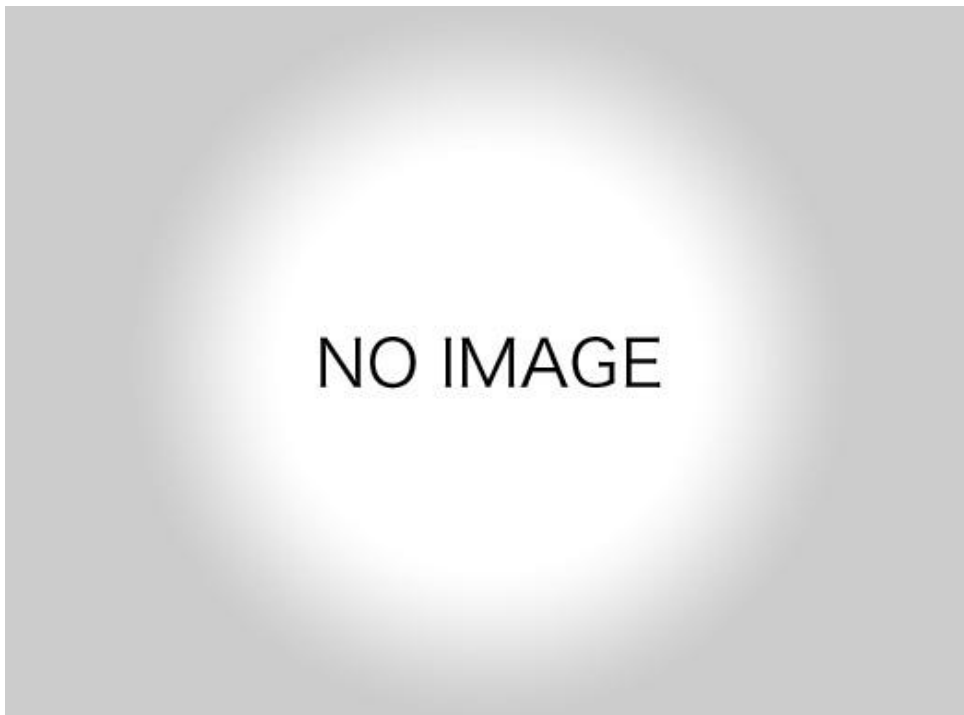


[選定理由]

県内分布	緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	アカマツ・モミ・ツガの針葉樹林帯。
現状	緒方町で1979年に採集されて以来, 今日まで確認されていない。九州では極めて希な種である。モミ・ツガ帯に分布し, 過去の大規模な伐採により個体数は激減しており, 生息地の減少, 消滅が懸念される。
備考	九州では極めて希な種である。

ツメアカナガヒラタタマムシ

学名	Melanophila obscurata Lewis	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	タマムシ科	
科名学名	Buprestidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	(杵築市)
分布域	北海道,本州,九州(大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	シベリア東部,サハリン,中国,朝鮮半島
生息環境	マツ科の針葉樹の枯れ枝。
現 状	1924年に山香町のエノキで採集され,その後確認されていない。近年,全国的に採集記録がない。マツクイムシ防除のための殺虫剤の空中散布も本種の衰亡の一因と考えられる。
備 考	近年,全国的に採集記録がない。マツクイムシ防除のための殺虫剤の空中散布も本種の衰亡の一因と考えられる。

クロマダラタマムシ

学名	Nipponobuprestis querceti (E.Saunders)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	タマムシ科	
科名学名	Buprestidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし



[選定理由]

生息地が少なく、個体数も非常に少ない種である。近年採集例がほとんどなく、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	安心院町, 豊後高田市, 別府市, 山香町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	中国中部
生息環境	平地から低山地の河川周辺のエノキ。
現状	山香町では1927年に採集され, その後採集記録がない。別府市では近年, 上翅のみ見つかっている。
備考	各県とも非常に希な種である。

クロチビタマムシ九州亜種

学名	Trachys pseudoscrobiculata shirozui Y. Kurosawa	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	タマムシ科	
科名学名	Buprestidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし



【選定理由】

生息域は里山の草地や河川堤防など明るい環境にスマレ類が生育する場所であるが、近年の急速な里山荒廃や河川域工事などによって生息環境が失われつつある。確認された産地はいずれも生息環境は脆弱で、絶滅の危険性が高い。

県内分布	日田市, 玖珠町, 九重町, 湯布院町, 野津町
分布域	九州(福岡・熊本・大分・鹿児島)
世界的分布	中国
生息環境	スマレ類が繁茂する日当たりの良い草地。
現 状	最近大分県で謎の生態が解明されたが、個体数は少ない。
備 考	過去に九州4県でいずれも僅かな個体が採集されており、幻のタマムシといわれていた希な種である。

ギョウトクテントウ

学名	Hyperaspis gyotokui H.kamiya	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	テントウムシ科	
科名学名	Coccinellidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省：掲載なし



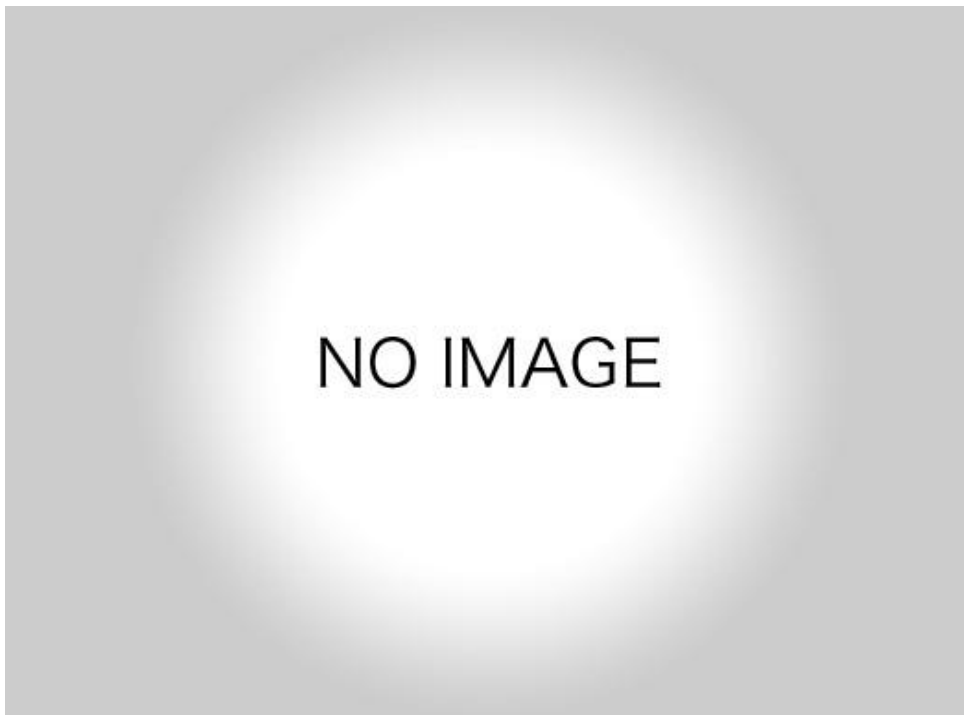
[選定理由]

県内の生息地は2か所のみであり、個体数も極めて少ない。生息環境が限られ、絶滅に瀕している。

県内分布	玖珠町, 上津江村
分布域	本州,九州(福岡・大分)
世界的分布	朝鮮半島
生息環境	里山の湿地周辺。
現 状	玖珠町の湿原で、水草の葉上にみられた。
備 考	日本では、広島県と福岡県および大分県に分布する。

クロスジチャイロテントウ

学名	Micraspis kiotoensis (Nakane et M.Araki)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	テントウムシ科		
科名学名	Coccinellidae		
カテゴリ	大分県：準 (NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

生息地は狭小な範囲に限られており、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	玖珠町,九重町
分布域	本州,九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	草原の湿地帯。幼虫はアケボノソウの葉を食べて成長する。
現 状	九重町と玖珠町の湿原にのみ確認されている。
備 考	

クビアカナガクチキ

学名	Perakianus hisamatsui Nakane	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ナガクチキムシ科	
科名学名	Melandryidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

全国的に希少な種であり、生息域は里山の落葉樹林の雑木林であることから、産地の環境変化が進み、絶滅の危険性が増している。

県内分布	宇佐市, 安心院町, 湯布院町
分布域	本州・四国・九州(福岡・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	里山環境のやや平坦な地形の落葉樹林。
現状	雑木林の中のエノキ衰弱木に依存しており、分布は局地的で個体数も少ない。
備考	

トゲウスバカミキリ

学名 *Megopis formosana nipponica* Matsushita

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 カミキリムシ科

科名学名 Cerambycidae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	(佐伯市)
分布域	四国(愛媛・高知),九州(大分・鹿児島)
世界的分布	台湾
生息環境	平地, 低山地のカシ類を主体とした照葉樹林。
現 状	1952年に佐伯市で一死体が採集され, 九州初記録になったが, その後採集記録はない。九州ではほかに鹿児島県しか知られていない。
備 考	九州では大分県と鹿児島県の2例しか知られていない。

ケブカヒラタカミキリ

学名	Nothorhina punctata (Fabricius)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし



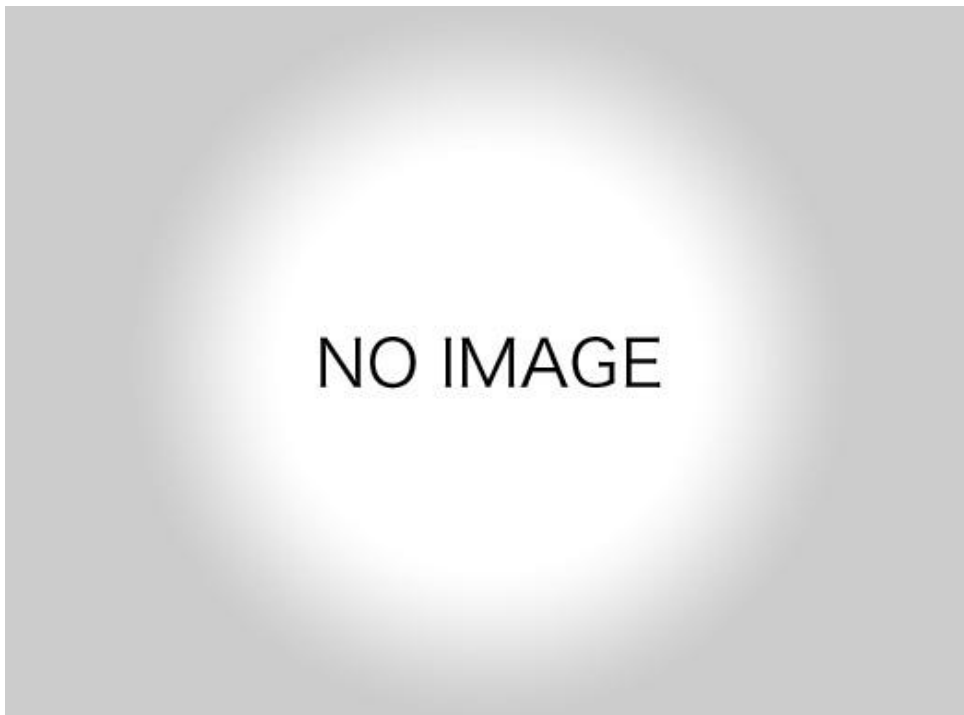
[選定理由]

高原の観光地化とマツ林の伐採による減少により、絶滅の危険性が高まっている。

県内分布	別府市, 久住町, 庄内町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	旧北区一帯
生息環境	高原の松並木の古木の樹幹。
現 状	クロマツの生木の樹皮下より得られている。発生地では個体数は少なくない。
備 考	

イガブチヒゲハナカミキリ

学名	Stictoleptura igai (Tamanuki)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



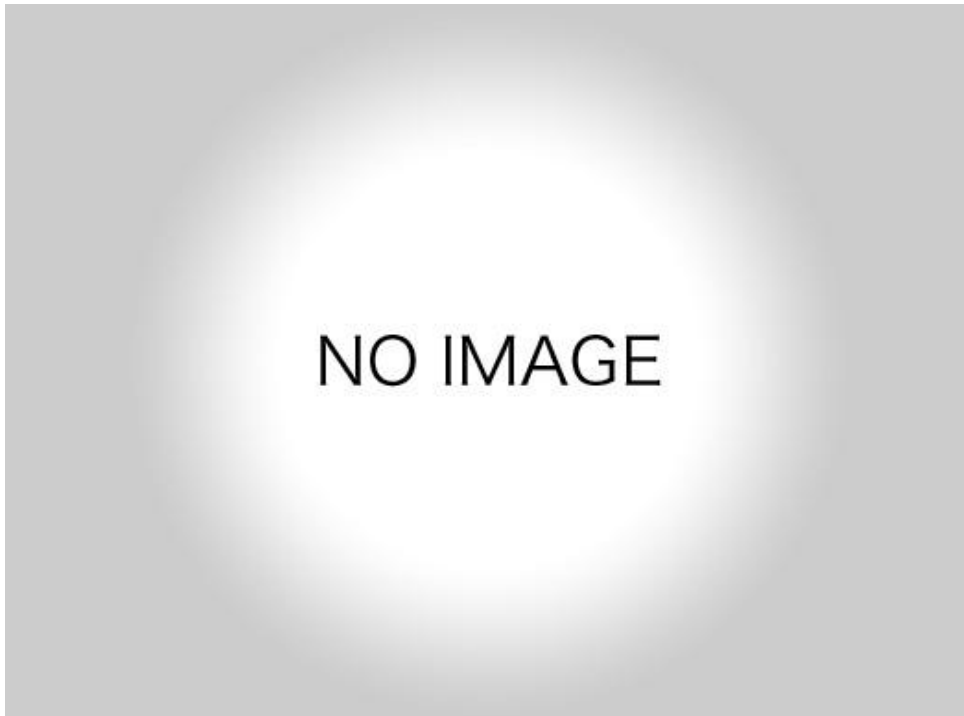
[選定理由]

ブナ・ツガ帯の森林伐採によって古木が減少し、生息地が狭められている。山地に局地的に分布し、個体数は少ない。

県内分布	竹田市, 緒方町, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	自然林のブナ・ツガ帯森林。
現状	ノリウツギの花に飛来する個体が祖母・傾山系で、僅かに得られている。
備考	

ヒラヤマコブハナカミキリ

学名	Enoploderes bicolor Ohbayashi		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	



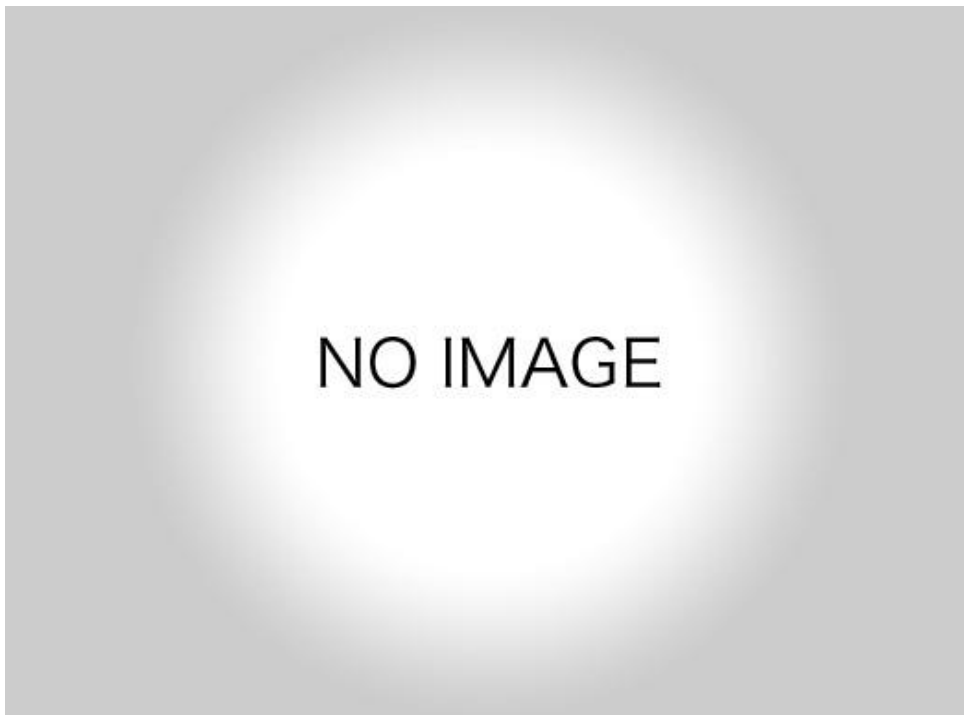
[選定理由]

本種が発生する大木のウロのある木は自然林以外見られなくなっている。生息地は限られており個体数も少ない。

県内分布	庄内町, 九重町, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	樹洞内。
現 状	九重町ではカエデの花上で採集され, 庄内町と緒方町では樹洞の中で採集された。
備 考	

クロサワヘリグロハナカミキリ

学名	Eustrangalis anticereductus Hayashi	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし

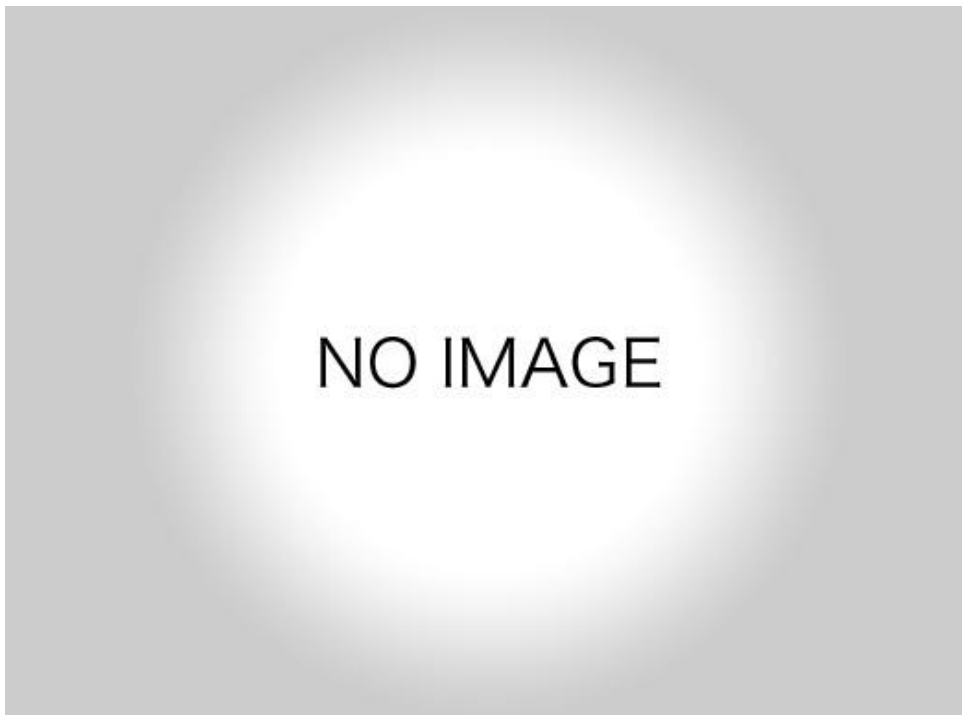


[選定理由]

県内分布	九重町
分布域	北海道,本州,四国,九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	渓谷で,ゴトウヅル・ミズキなどの花に訪花する。幼生期は不明。
現状	九重町で1頭採集されている。全国的に非常に少ない種である。
備考	

ヒメヨツスジハナカミキリ四国九州亜種

学名	Leptura kusamai keiichi N. Ohbayashi		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



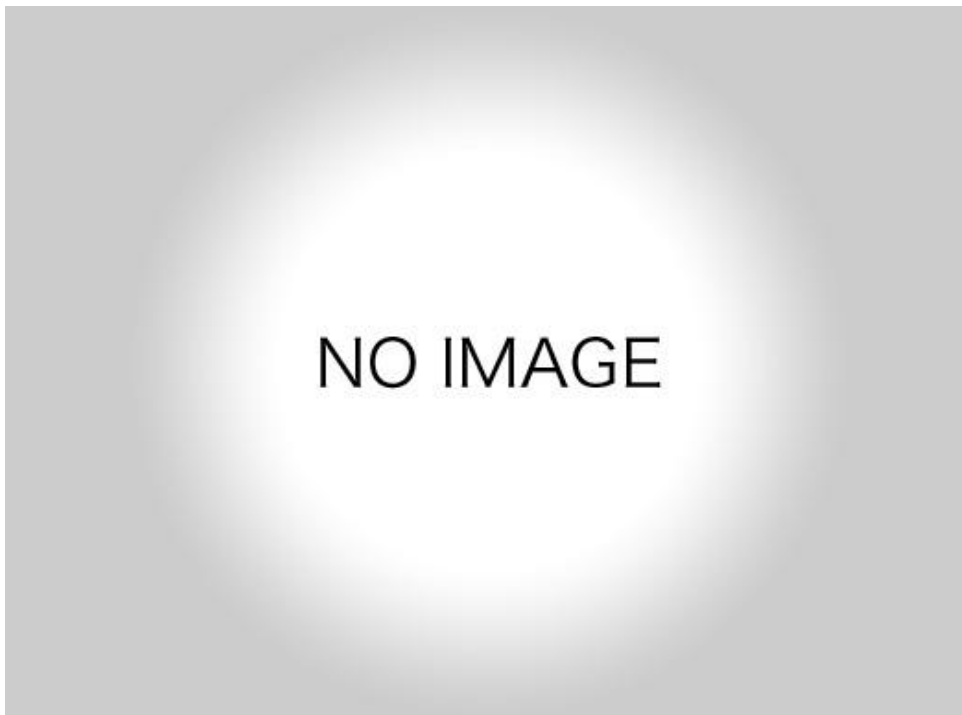
[選定理由]

九州では非常に希な種である。分布は山地に点在する。

県内分布	久住町, 竹田市, 緒方町, 宇目町
分布域	本州,九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	ブナ帯に生息し, ノリウツギの花に飛来する。
現状	緒方町と宇目町で僅かな個体が採集されている。
備考	

キュウシュウヒメコブハナカミキリ

学名	Pseudosieversia amanoi Hayashi	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

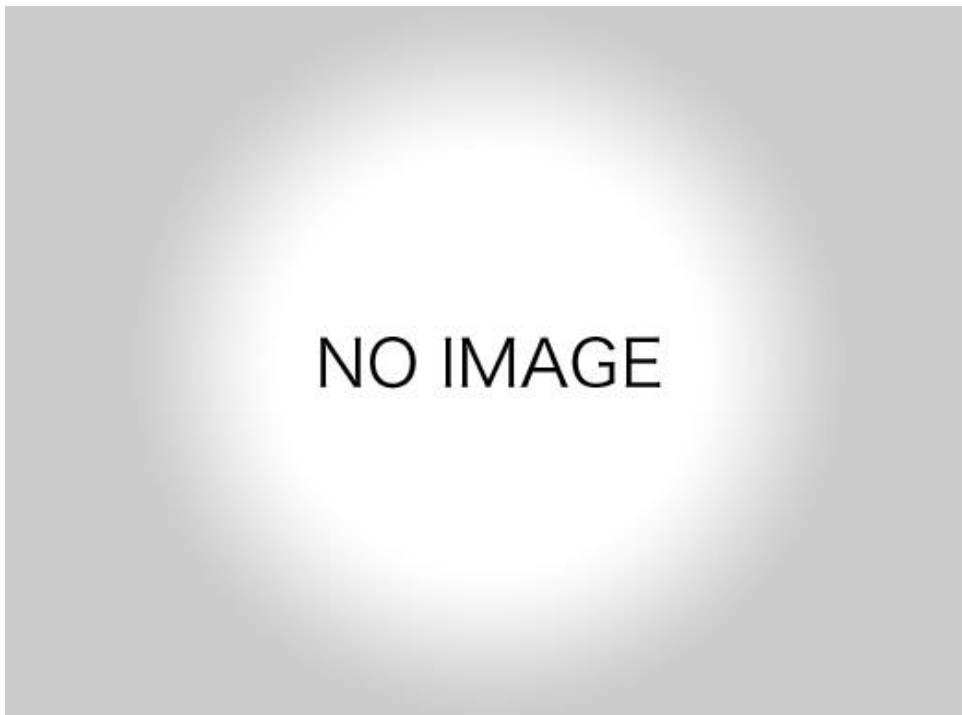


[選定理由]

県内分布	竹田市
分布域	九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	カツラの古木が自生する山地帯の溪谷部が発生地。
現 状	国内分布は祖母山のみで非常に希な種。近年の記録がなく、生息環境の悪化が懸念される。
備 考	

ヒゲブトハナカミキリ

学名	Pachypidonia bodemeyeri (Pic)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



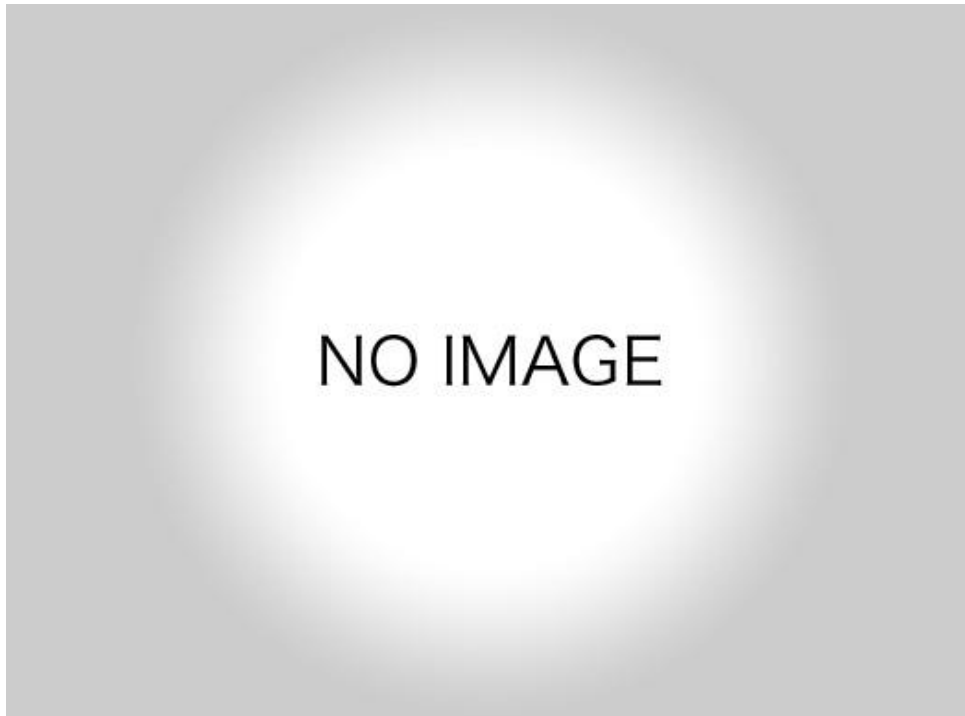
[選定理由]

自然林で見られるが、九州では非常に個体数が少ない種である。分布は山地帯に限られ、隔離分布する。

県内分布	久住町, 庄内町, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	朝夕にノリツギほかを訪花中や, ブナ大木の幹を這っている個体が発見されている。
現 状	山頂では吹き上げによる個体が採集されている。
備 考	

オニホソコバネカミキリ

学名	Necydalis gigantea gigantea Kano	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	耶馬溪町
分布域	北海道,本州,四国,九州(福岡・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	幼虫の発生はクワの古木。
現 状	耶馬溪町で1976年に1頭記録されたのみである。自然林以外の大木(クワ・ケヤキ)の減少によって、発生木がほとんどなくなり、絶滅に瀕している。
備 考	

クロサワヒメコバナカミキリ

学名	<i>Epania septentrionalis</i> Hayashi	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



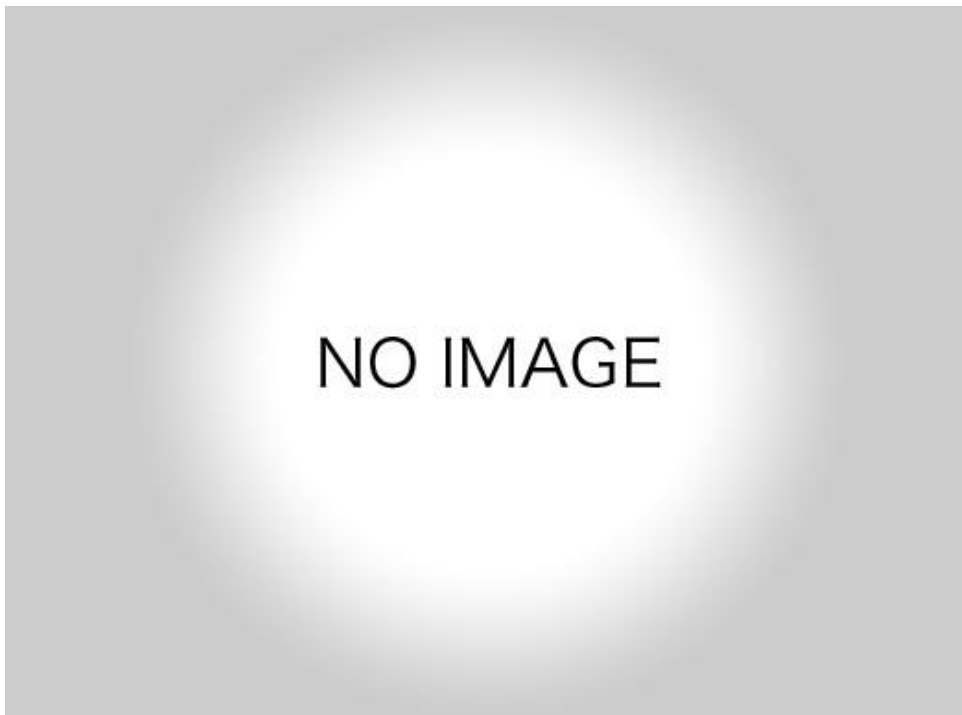
[選定理由]

広葉樹林の自然林に局地的に分布するが、生息環境の悪化した生息地がある。

県内分布	湯布院町, 庄内町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	自然林内やその周辺に生息し, クリほかの花に飛来する。ミズキ・クマノミズキが食樹。
現状	湯布院町ではクマノミズキの立ち枯れで発生した。庄内町では2頭得られただけである。
備考	

ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ

学名	Glaphyra nitida adachii (Takakuwa et Fujita)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

九州にのみ点在分布し、非常に希である。伐採による発生地環境悪化が懸念される。

県内分布	別府市, 庄内町, 緒方町, 宇目町
分布域	九州(福岡・熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	食草のエゾエノキが自生する低山地から山地。
現状	別府市では最近得られていないが、緒方町は少ないながら得られている。
備考	

スネケブカヒロコバナカミキリ

学名 Merionoeda hirsuta (Mitono et Nisimura)

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 カミキリムシ科

科名学名 Cerambycidae

カテゴリー 大分県：準(NT)

環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

全国的に局地的な分布を示す種であり、生息環境の悪化した生息地がある。

県内分布	日田市, 天瀬町, 玖珠町, 日出町, 緒方町, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎), 対馬
世界的分布	台湾
生息環境	山麓の谷筋のネムノキ。
現 状	リョウブやカラスザンショウなどの花を訪れるが、非常に少ない。
備 考	

ムラサキアオカミキリ

学名	Schwarzerium viridicyaneum (Hayashi)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)	



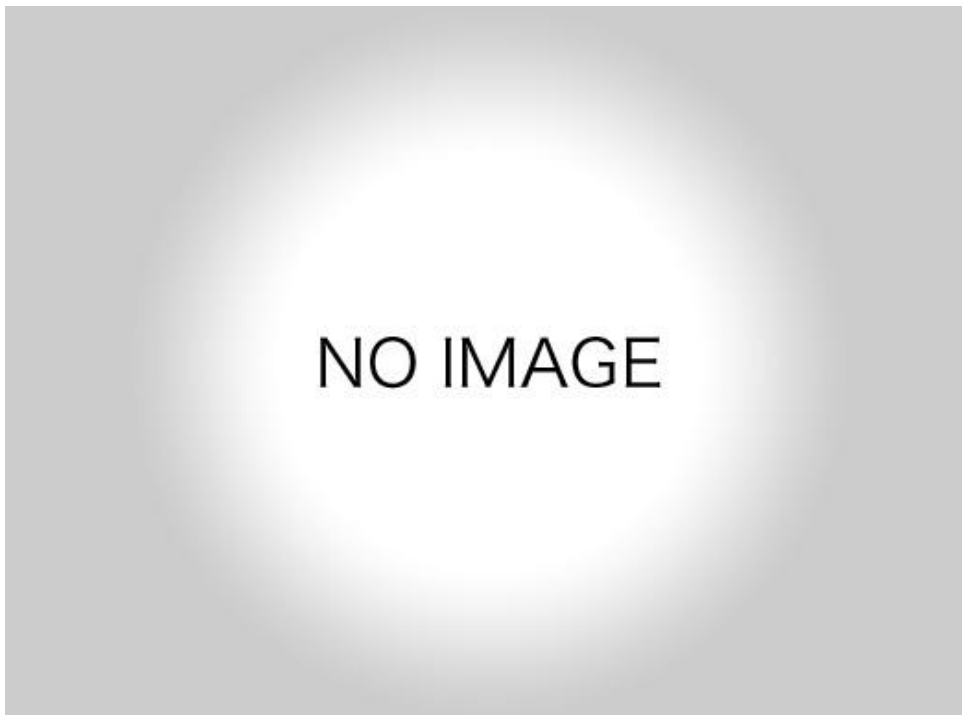
[選定理由]

低山地から山地の明るい環境のカエデ類を食害するが、少ない種である。害虫として駆除の対象にされれば個体数はさらに減少する恐れがある。

県内分布	日田市, 安心院町, 別府市, 湯布院町, 九重町, 久住町, 直入町, 大分市, 野津原町, 臼杵市, 竹田市, 緒方町, 宇目町
分布域	九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地の林道沿いや樹林が豊富な公園のカエデ類に依存している。
現状	広域に分布しているが、各地とも個体数は少ない。
備考	

アカアシオオアオカミキリ

学名	Chloridolum japonicum (Harold)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

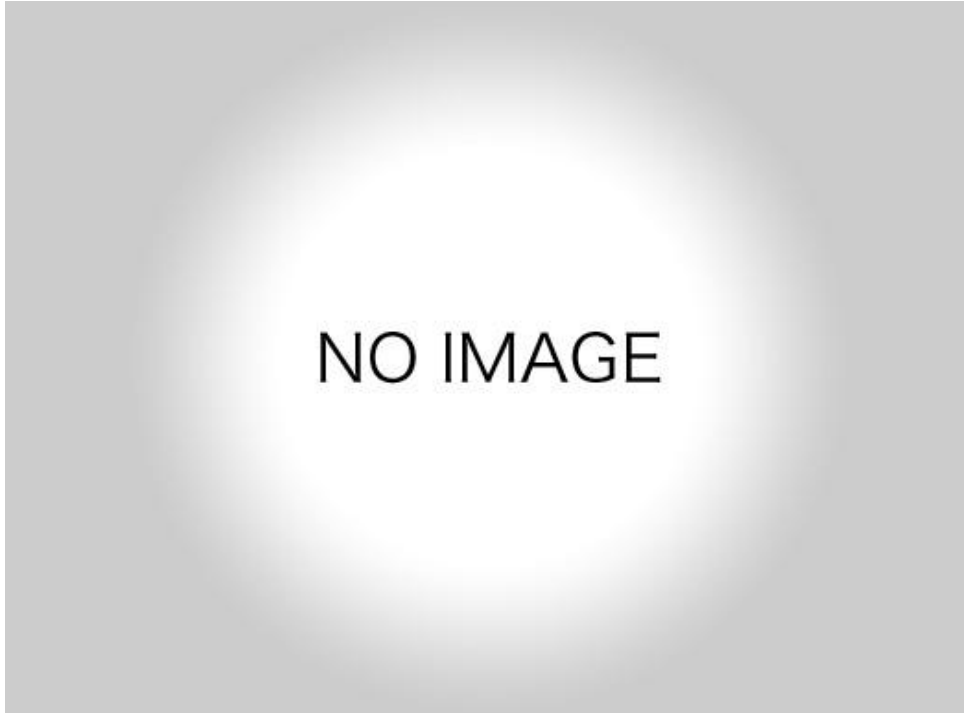


[選定理由]

県内分布	日田市, 大分市, 朝地町, 竹田市
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分・宮崎)
世界的分布	朝鮮半島, 中国東北部
生息環境	クヌギなどの雑木林。
現 状	食樹がクヌギで人為的影響を受けやすい。低山地の観光開発, 宅地開発などにより生息地が奪われたケースがある。最近全く得られていない。
備 考	

オオアオカミキリ

学名	Chloridolum thaliodes Bates		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



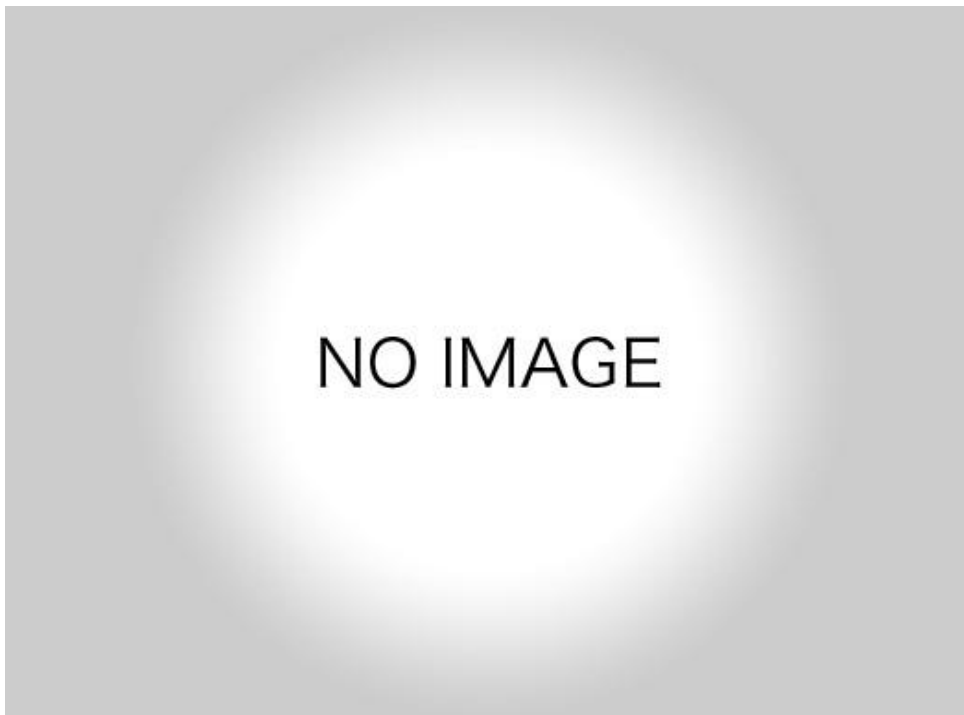
[選定理由]

発生源である山地溪谷部のサワグルミが伐採により少なくなり、県内でも僅か1か所に局地的な生息地がある。

県内分布	宇目町
分布域	北海道,本州,四国,九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎),対馬
世界的分布	朝鮮半島,中国北部
生息環境	幼虫の発生は山地帯のサワグルミなどの衰弱木や伐採木。
現 状	宇目町で僅かに得られているだけ。
備 考	

ヨコヤマトラカミキリ

学名	Epiclytus yokoyamai (Kano)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



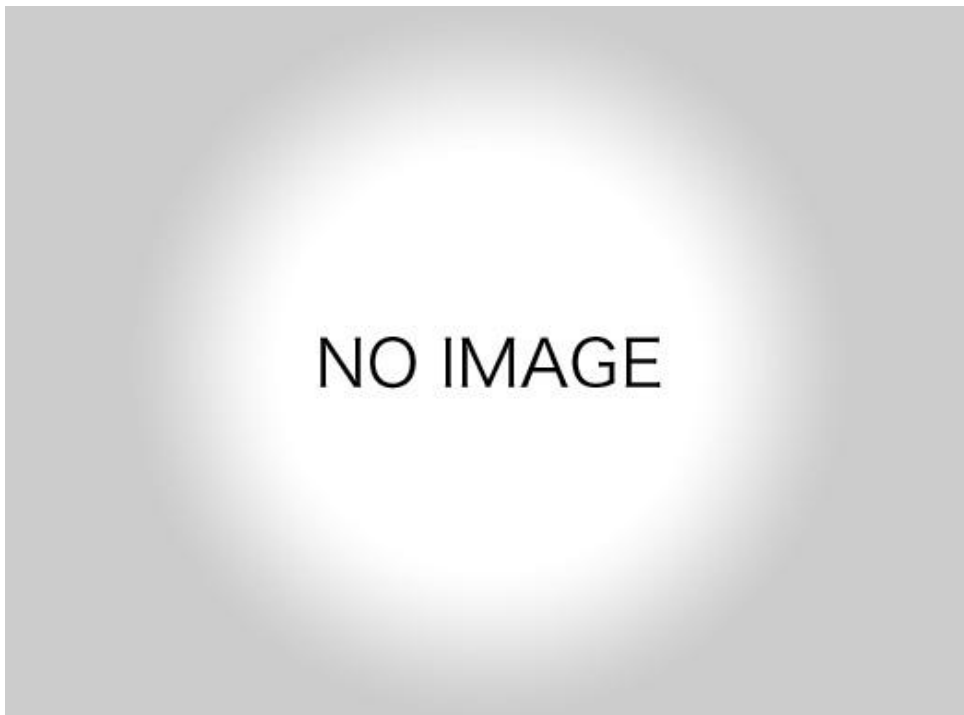
[選定理由]

非常に個体数が少ない種。全国的にも分布が限られている。

県内分布	九重町, 別府市, 庄内町, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地の広葉樹林。
現状	個体密度は低く, 成虫は野外で目撃されることは希。
備考	

ヤマトシロオビトラカミキリ

学名	Kazuoclytus lautoides (Hayashi)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

九州では大分県と鹿児島県にのみ隔離分布する。

県内分布	緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(大分・鹿児島)
世界的分布	朝鮮半島
生息環境	モミ・ツガが自生する針葉樹林帯。
現 状	緒方町で確認されているが、非常に少なく今まで数頭しか記録されていない。
備 考	鹿児島県では発見されて以来採集記録がない。

キジマトラカミキリ

学名	Xylotrechus zebratus Matsushita	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

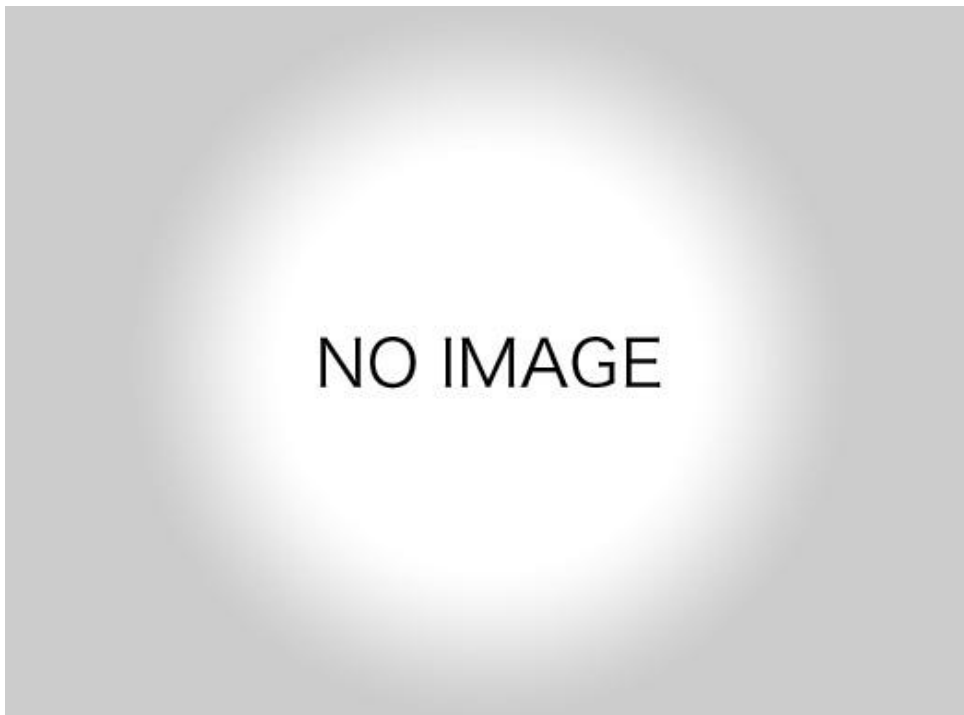


[選定理由]

県内分布	久住町
分布域	本州,九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	ツガやコメツガの衰弱木や伐採木に飛来するほか, 花に訪れることもある。
現 状	九州では1973年に大分県久住町で1頭採集されただけの希な種である。
備 考	

エゾトラカミキリ

学名	Oligoenoplus rosti rosti (Pic)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

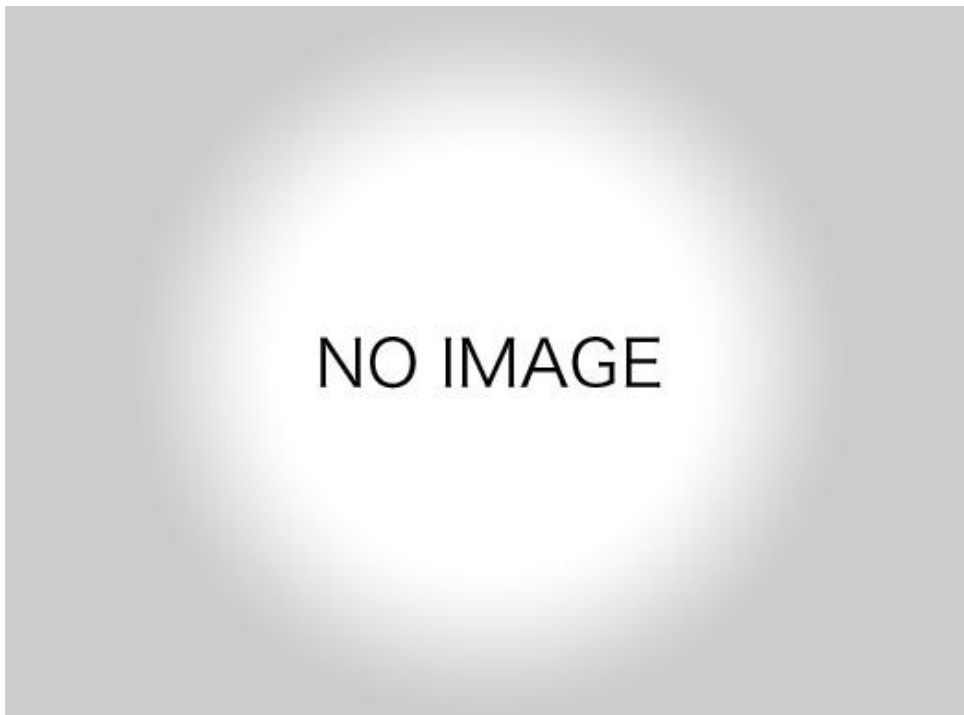


[選定理由]

県内分布	緒方町
分布域	北海道,本州,四国,九州(熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	ブナ帯でセンノキが自生する森。ゴトウヅル・カエデなどの花に飛来する。
現 状	九州では最近, 熊本県泉村で2頭, 大分県緒方町で1頭得られている。非常に希な種。
備 考	

モンクロベニカミキリ

学名	Purpuricenus lituratus Ganglbauer		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

個体数が激減しており、絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	日田市, 中津市, 九重町, 久住町, 別府市, 湯布院町, 三重町, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分), 対馬
世界的分布	朝鮮半島, 中国, シベリア
生息環境	クヌギの切り株から出た新芽を好んで食し, またクヌギなどの伐採木にも集まる。
現 状	別府市では, 以前多くの個体が見られたが, 最近ほとんど見られない。
備 考	全国的に少ない種である。

ヨツボシカミキリ

学名	Stenygrinum quadrinotatum Bates	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：Ⅱ(VU)



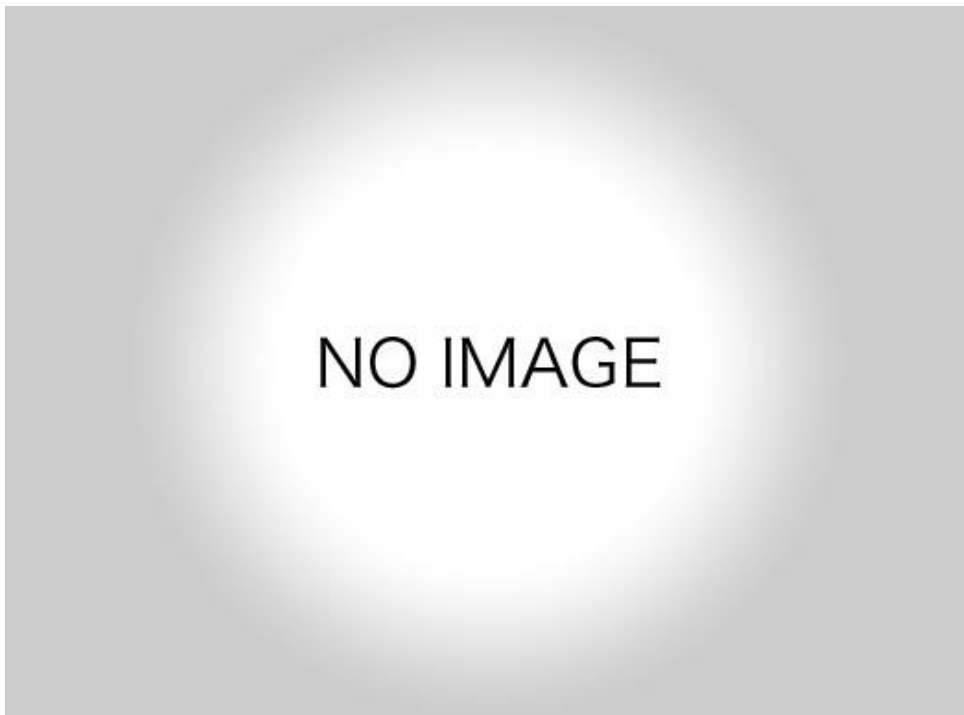
【選定理由】

近年全国で急激に個体数が減少している。本種の幼虫は各種広葉樹の倒木で生育することから、近年の里山の荒廃によって雑木林の活用再生が滞っているのも衰退の要因のひとつではないかと考えられる。

県内分布	三光村, 玖珠町, 中津江村, 庄内町, 大分市, 野津原町, 臼杵市, 直川村, 宇目町, 竹田市, 緒方町, 鶴見町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 各離島
世界的分布	台湾, 朝鮮半島, インドシナ半島
生息環境	各種広葉樹の豊富な里山環境。
現状	広域に分布しているが, 各地とも近年急速に個体数を減じている。
備考	

マダラゴマフカミキリ

学名	Japanomesosa poecila Bates		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



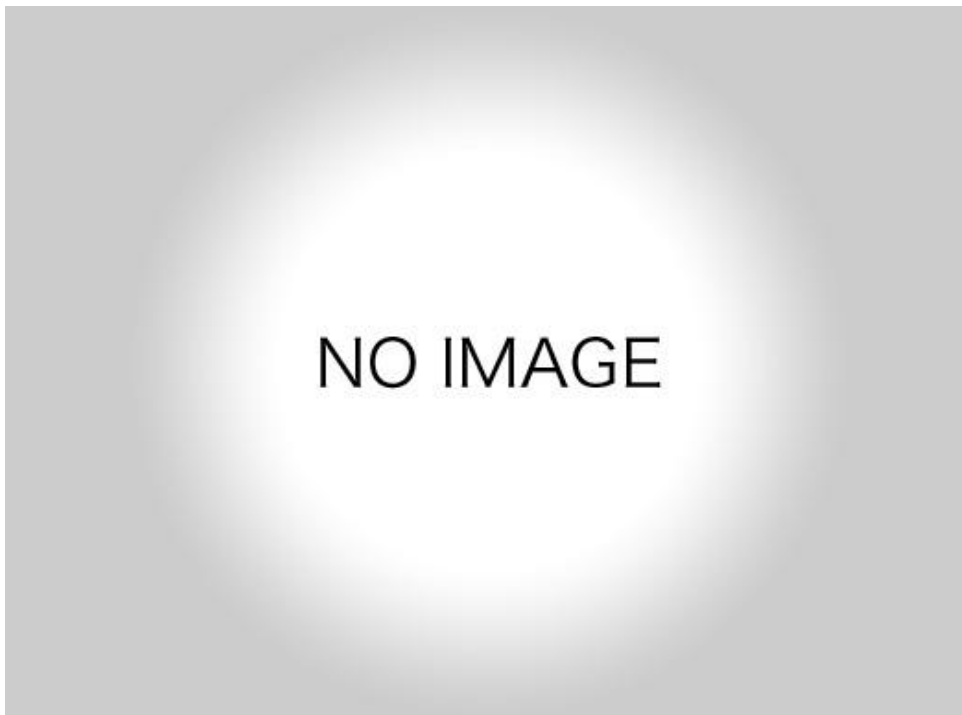
[選定理由]

九州では大分県と熊本県のみで非常に少ない種。自然林に局地的に分布する。

県内分布	久住町, 庄内町, 緒方町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(大分・熊本)
世界的分布	日本固有種
生息環境	ブナ帯の自然林内。
現 状	九重山群の山頂と森林内で採集されている。
備 考	

ヒメビロウドカミキリ

学名	Acalolepta degener (Bates)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	



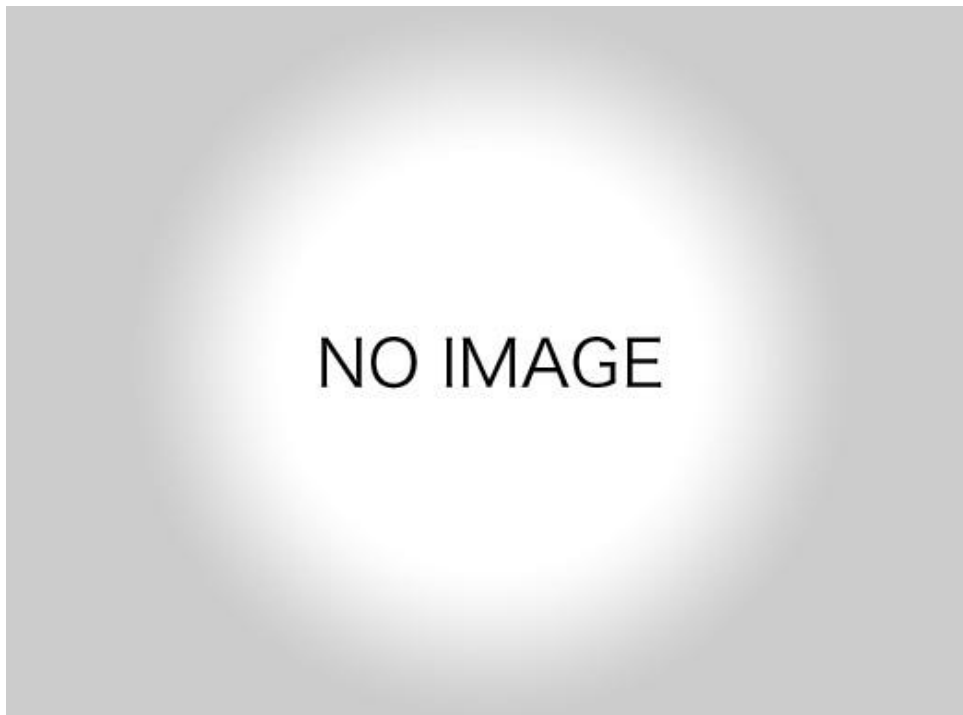
[選定理由]

開発による湿原や湿地の減少で、生息地が狭められ、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	玖珠町, 久住町, 湯布院町, 三重町, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	台湾, 朝鮮半島, 中国
生息環境	荒地や湿地草原。
現 状	湿地帯の草原に生息している。個体数は少ない。
備 考	

カラフトヒゲナガカミキリ

学名	Monochamus saltuarius (Gebler)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(大分)
世界的分布	旧北区北部
生息環境	山地のアカマツ林。
現状	九州では大分県緒方町のみ。生息範囲が限られ、山地帯に隔離分布する。最近確認されていない。
備考	

ムネホシシロカミキリ

学名 *Olenecamptus clarus* Pascoe

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 カミキリムシ科

科名学名 Cerambycidae

カテゴリ 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

クワ畑の減少によって、本種の生息域は非常に狭められ、個体数は少なくなった。

県内分布	大山町, 庄内町, 清川村, 緒方町
分布域	北海道, 本州, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分)
世界的分布	シベリア東部, 朝鮮半島, 中国東部北部
生息環境	放置されたクワ畑や里山のクワの古木が発生源。
現 状	生息地は狭い範囲に限られ, 最近少なくなっている。
備 考	

エゾナガヒゲカミキリ

学名	Hirtaeschopalaea nubila (Matsushita)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

九州では非常に局地的な分布をしている。生息地が二次林のため、伐採などの人為的影響を受けやすい。

県内分布	緒方町, 三重町, 野津町, 臼杵市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	二次林のニガキの自生地。
現 状	石灰岩台地のニガキを食草としており, 生息範囲は狭い。
備 考	

ジュウジクロカミキリ

学名 *Clytosemia pulchra* Bates

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 カミキリムシ科

科名学名 Cerambycidae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省：掲載なし



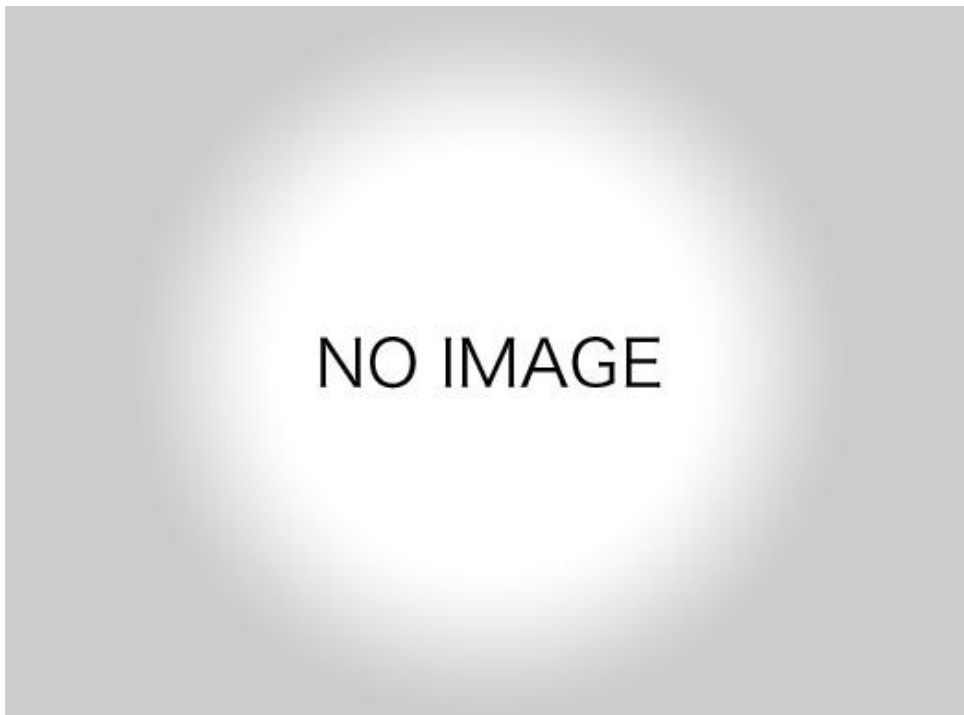
[選定理由]

大分県には食草のオニグルミは少ないながらあるものの、渓谷部では雑木として伐採される恐れが強い。絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	緒方町
分布域	北海道,本州,四国,九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	千島
生息環境	山地のクルミ類の枯れ枝上。
現 状	緒方町で1本のオニグルミに見られるだけである。
備 考	

フタモンアラゲカミキリ

学名	Rhopaloscelis maculatus Bates	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

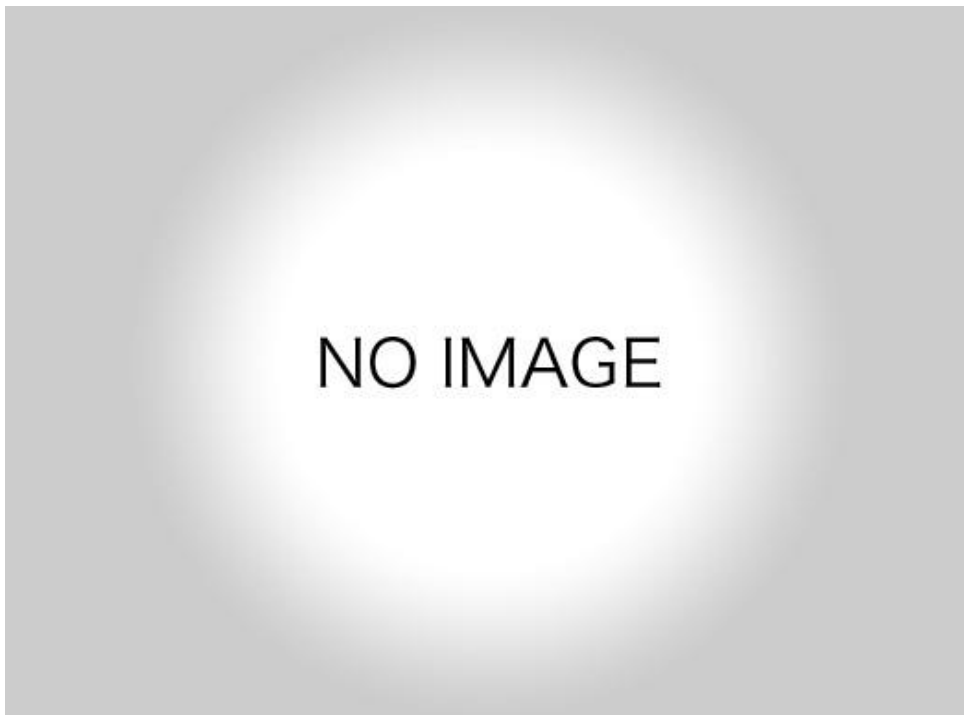


[選定理由]

県内分布	緒方町
分布域	北海道,本州,四国,九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地で各種の広葉樹の枯枝。
現 状	九州では緒方町傾山で1984年に1頭採集された希な種である。自然林に隔離分布する。
備 考	

イッシキキモンカミキリ

学名	Glenea centroguttata Fairmaire		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



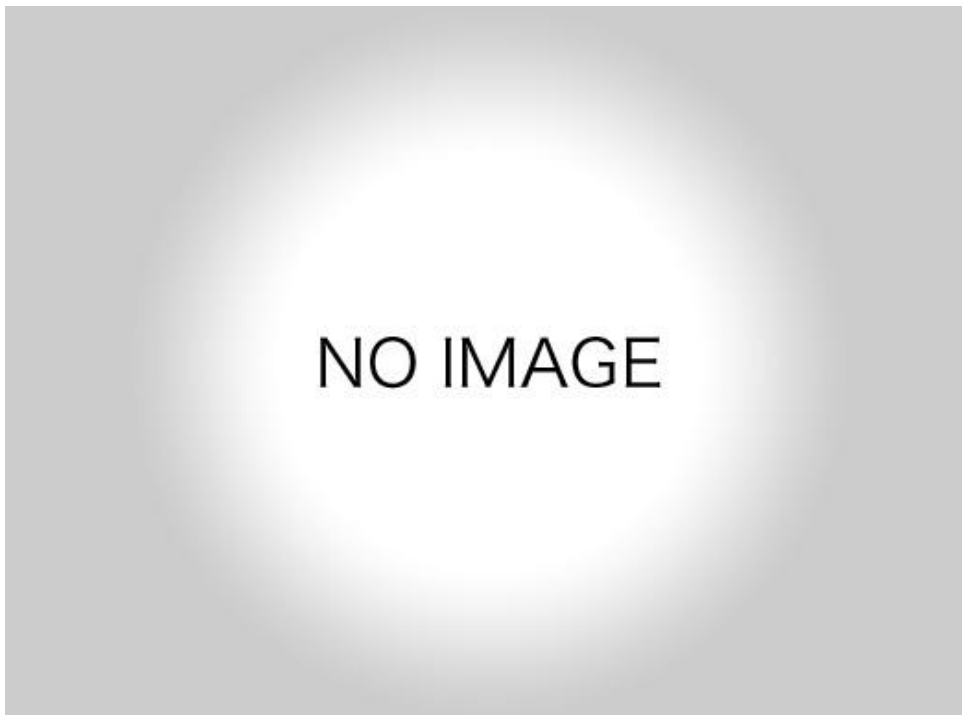
[選定理由]

里山がおもな産地のため、人為的影響を受けやすく、生息環境が悪くなった生息地がある。

県内分布	九重町, 久住町, 庄内町, 直入町, 野津町, 犬飼町, 三重町, 緒方町, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	台湾, 中国西部
生息環境	成虫は里山のクワに見られる。幼虫はヌルデを食草とする。
現 状	生息地では, 各地とも個体数は少ない。
備 考	

ホソツツリンゴカミキリ

学名	Oberea nigriventris Bates		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	カミキリムシ科		
科名学名	Cerambycidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

生息地は伐採などの人為的影響を受けやすく、生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	湯布院町, 庄内町, 上浦町, 鶴見町, 米水津村
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分・宮崎・鹿児島), 対馬, 屋久島
世界的分布	台湾, 中国, インドシナ, マレーシア
生息環境	海岸線から山地に分布し, 林縁のサカキカヅラやイケマ, ツクシガシワが食草。
現状	局地的な分布をし, 生息地の環境も変わりやすい。
備考	県下での食草は海岸部でサカキカヅラ, 山地でツクシガシワが確認されている。

ブロイニングカミキリ

学名 *Saperda ohbayashii* Podany

目名 コウチュウ目

目名学名 COLEOPTERA

科名 カミキリムシ科

科名学名 Cerambycidae

カテゴリー 大分県： I B (EN)

環境省：掲載なし



[選定理由]

九州では大分県のみで、極めて希な種。生息地は狭い範囲の溪谷部であり、絶滅の危険性が高い。

県内分布	九重町, 緒方町
分布域	北海道, 本州, 九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	溪谷部の落葉広葉樹林のケヤキの細枝。
現状	九重町ではケヤキの枯枝より得られている。
備考	

アサカミキリ

学名	Thyestilla gebleri (Faldermann)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	カミキリムシ科	
科名学名	Cerambycidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)



[選定理由]

全国的に分布域が狭く、希な種であり、生息地が観光開発や道路整備などによって絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	湯布院町, 緒方町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・大分・熊本・宮崎)
世界的分布	東アジア
生息環境	草原の湿地のアザミ類が生育する場所。
現 状	緒方町では発見後の記録がない。湯布院町では少ないながら、最近も確認されている。
備 考	

カツラネクイハムシ

学名	Donacia katsurai Kimoto	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ハムシ科	
科名学名	Chrysomelidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省：掲載なし



[選定理由]

湿原の減少により絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布	玖珠町, 九重町
分布域	本州(兵庫),九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	湿原にスゲ・ホタルイ・サヤヌカグサなどが繁茂している止水域。
現状	玖珠町の湿原に生息している。
備考	

キヌツヤミズクサハムシ

学名	Plateumaris sericea (Linnaeus)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ハムシ科	
科名学名	Chrysomelidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省：掲載なし



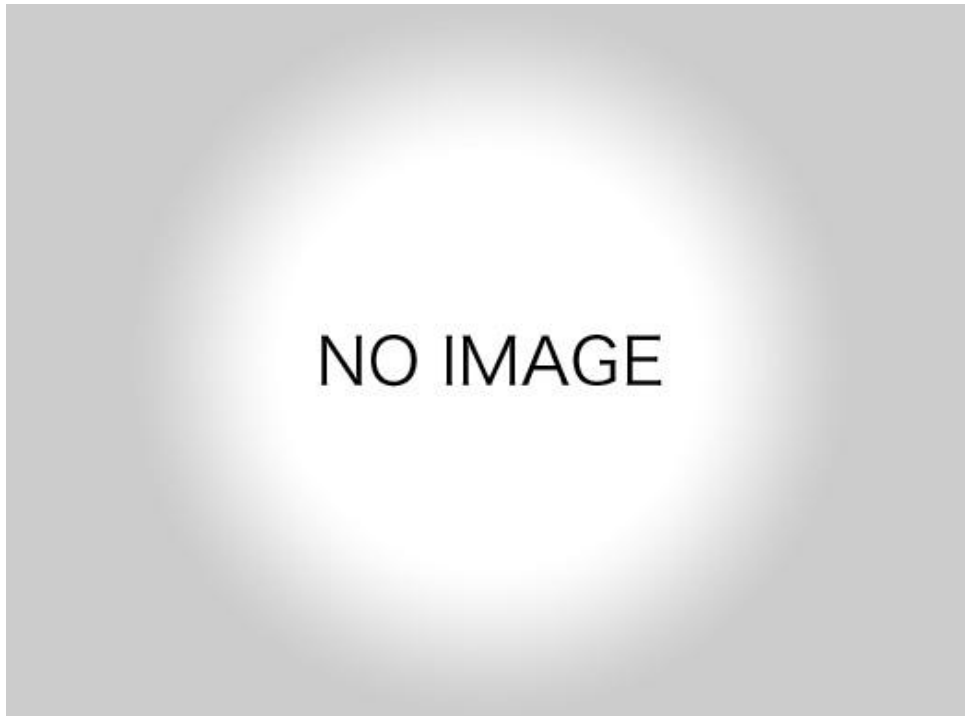
[選定理由]

湿原の減少により、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布	玖珠町
分布域	北海道,本州,九州
世界的分布	南千島,サハリン,朝鮮半島,シベリア,中央アジア,ヨーロッパ
生息環境	湿原にスゲが繁茂している止水域。
現 状	玖珠町の湿原に生息している。
備 考	

イネネクイハムシ

学名	Donacia provostii Fairmaire		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ハムシ科		
科名学名	Chrysomelidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

平地～低山地の湖沼に局地的な産地があるが、開発等による生息環境の消滅が懸念される。

県内分布	中津市, 玖珠町, 日出町, 別府市, 大分市, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	シベリア, 中国, 台湾, 朝鮮半島, インドシナ半島
生息環境	平地から低山地にかけての抽水植物が豊富な池沼。
現 状	大分県では比較的広域に分布しているが、いずれも個体数は多くない。
備 考	

オオルリハムシ

学名	Chrysolina virgata (Motschulsky)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ハムシ科	
科名学名	Chrysomelidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：情報不足 (DD)

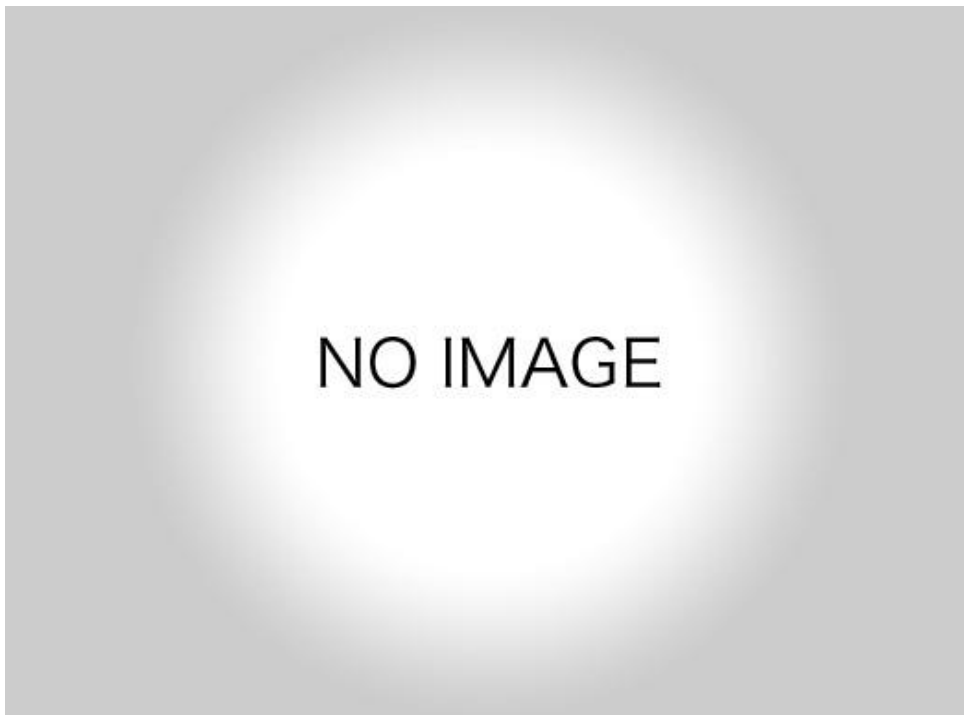


[選定理由]

県内分布	九重町
分布域	本州・九州(大分)
世界的分布	朝鮮半島, 中国, ロシア極東
生息環境	山地の湿原。
現状	九重山群の高原湿地で2か所, 局地的な生息地が確認されているが, おもに観光を目的にした開発の進行で生息環境が脅かされている。大陸系の遺存種と考えられ, 九州本土での既知産地は大分県のみ。
備考	大陸系の遺存種と考えられ, 九州本土での既知産地は大分県のみ。

クロカメノコハムシ

学名	Cassida mongolica Boheman	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ハムシ科	
科名学名	Chrysomelidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



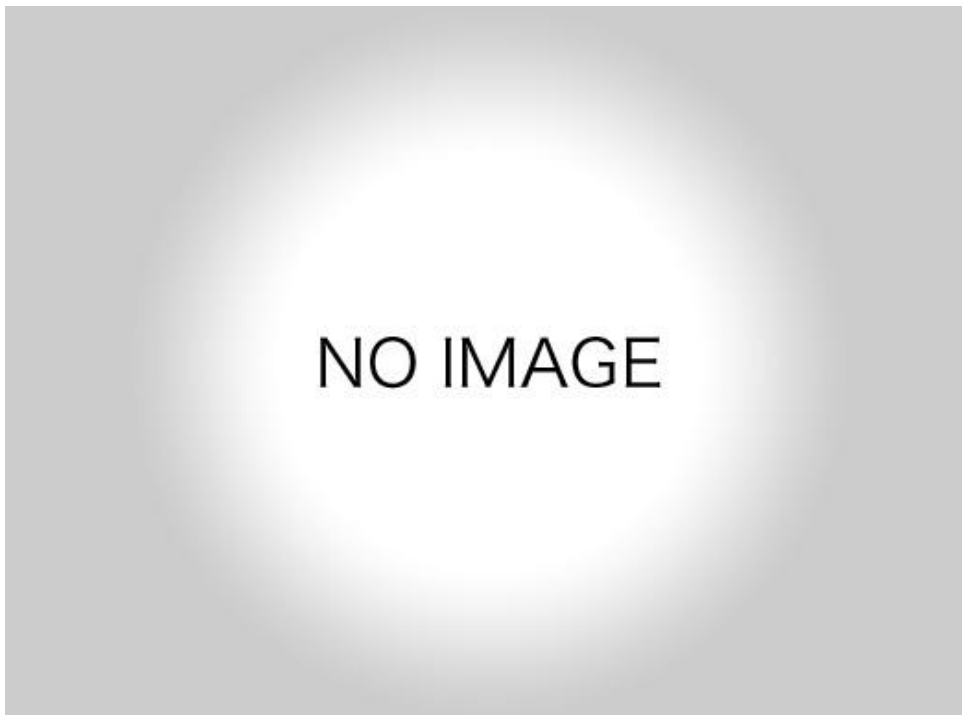
[選定理由]

非常に希少な種であり、観光開発の影響が懸念される。

県内分布	庄内町
分布域	本州(岡山),九州(熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	草原のノアザミ。
現 状	庄内町で数例の記録がある。
備 考	

エノキミツギリゾウムシ

学名	Eterozemus celtis (Lewis)		
目名	コウチュウ目		
目名学名	COLEOPTERA		
科名	ミツギリゾウムシ科		
科名学名	Brentidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



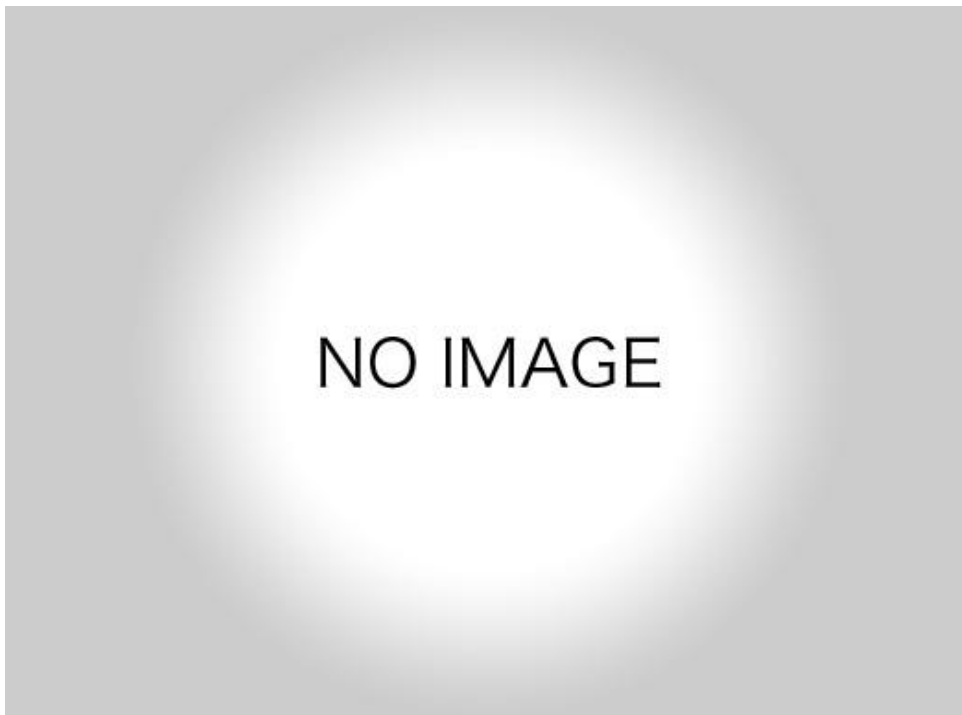
[選定理由]

九州のほか最近本州でも発見されたが、非常に希な種である。

県内分布	佐賀関町, 臼杵市, 緒方町, 蒲江町
分布域	本州(福井),九州(大分・熊本・鹿児島),対馬,屋久島
世界的分布	日本固有種
生息環境	低山地のエノキの枯木。
現状	最近エノキ立枯木より得られた。
備考	

タカハシトゲゾウムシ

学名	Dinorhopala takahashii (Kono)	
目名	コウチュウ目	
目名学名	COLEOPTERA	
科名	ゾウムシ科	
科名学名	Curculionidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

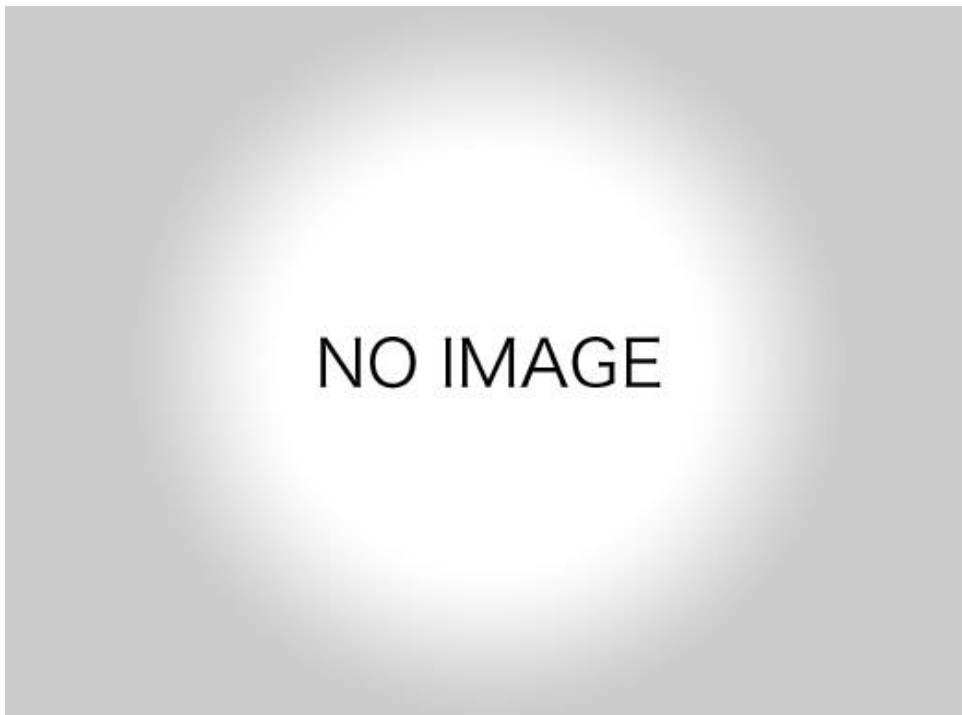


[選定理由]

県内分布	緒方町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	日本固有種
生息環境	林内のサクラほかのバラ科植物の葉を幼虫が食ることが判っている。
現 状	県内に知られる産地は1か所のみ。分布は局地的で、全国的に個体数の非常に少ない種である。
備 考	

ハラアカマルセイボウ

学名	Hedychrum japonicum Cameron	
目名	ハチ目	
目名学名	HYMENOPTERA	
科名	セイボウ科	
科名学名	Chrysididae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



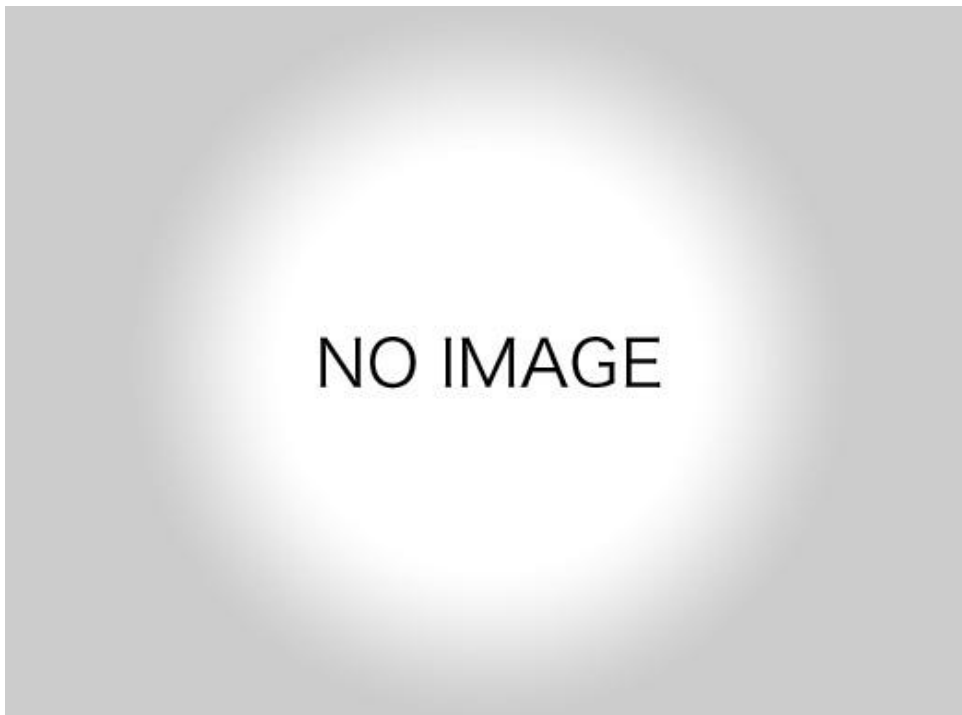
[選定理由]

かつては、藁屋根の家の板壁や柱の節穴、またはシノ竹の穴などを伺う姿がよく見られたが、近年、生息環境が激変して滅多に見られなくなった。

県内分布	県内広域
分布域	北海道,本州,九州
世界的分布	中国北部,朝鮮半島
生息環境	板やシノ竹の多く使われた藁屋と広葉樹の薪を何年も積み重ねて備蓄した環境。
現 状	好適な生息環境は人の文化的生活と相反し、現在では山村でごく希に見かける。しかし、その存続は非常に難しい。
備 考	

オオセイボウ本土亜種

学名	Stilbum cyanurum pacificum Linsenmairer		
目名	ハチ目		
目名学名	HYMENOPTERA		
科名	セイボウ科		
科名学名	Chrysididae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

里山の生息環境が変化して、餌となるスズメバチの生息環境が狭められ、さらに危険が人命に及ぶとして駆除されることが多い。

県内分布	三光村, 日田市, 耶馬溪町, 別府市, 挾間町, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	本土亜種
生息環境	スズメバチに寄生。
現 状	スズメバチは危険なものだと必要以上に駆除が強調されがちであるが, 本種の存続はスズメバチに依存している。
備 考	

ハマダラハルカ

学名	Haruka elegans	
目名	ハエ目	
目名学名	DIPTERA	
科名	ハルカ科	
科名学名	Cramptonomyiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：情報不足 (DD)

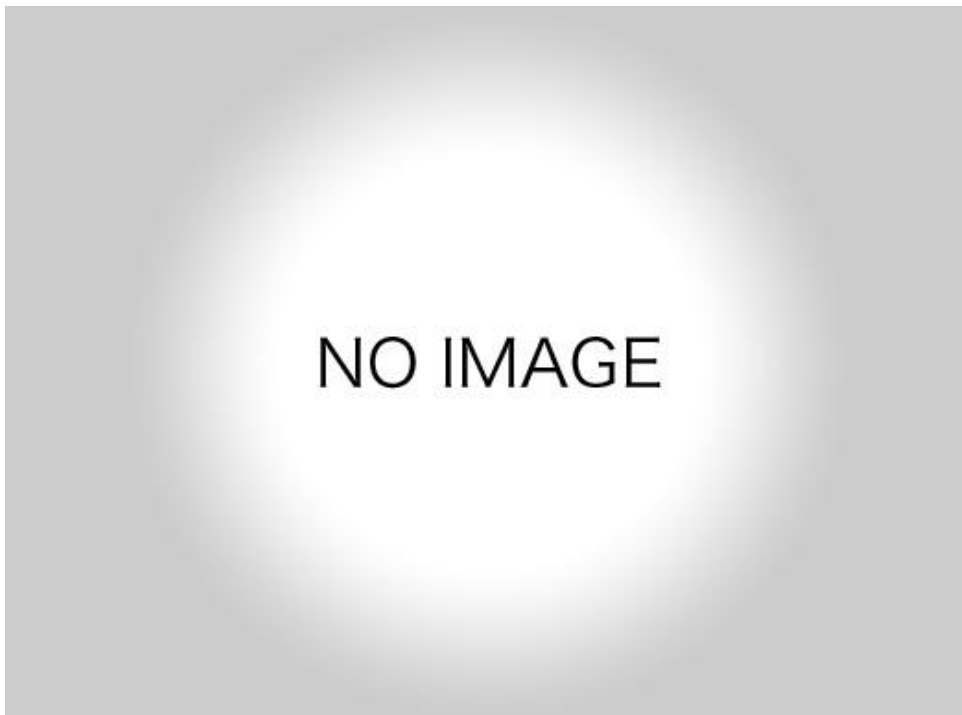


[選定理由]

県内分布	九重町, (山香町)
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	日本固有種
生息環境	里山の雑木林。
現状	春季に見られ、よく保存された雑木林に生息するが、大分県では僅か2か所の産地が知られている。この内、山香町では開発により産地が失われた。分布は局地的であり、雑木林の消滅によって生息地を失う危険性が増している。九重町の生息環境は保全されている。
備考	

クロバネツリアブ

学名	Ligyra tantalus (Fabricius)		
目名	ハエ目		
目名学名	DIPTERA		
科名	ツリアブ科		
科名学名	Bombyliidae		
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：掲載なし	



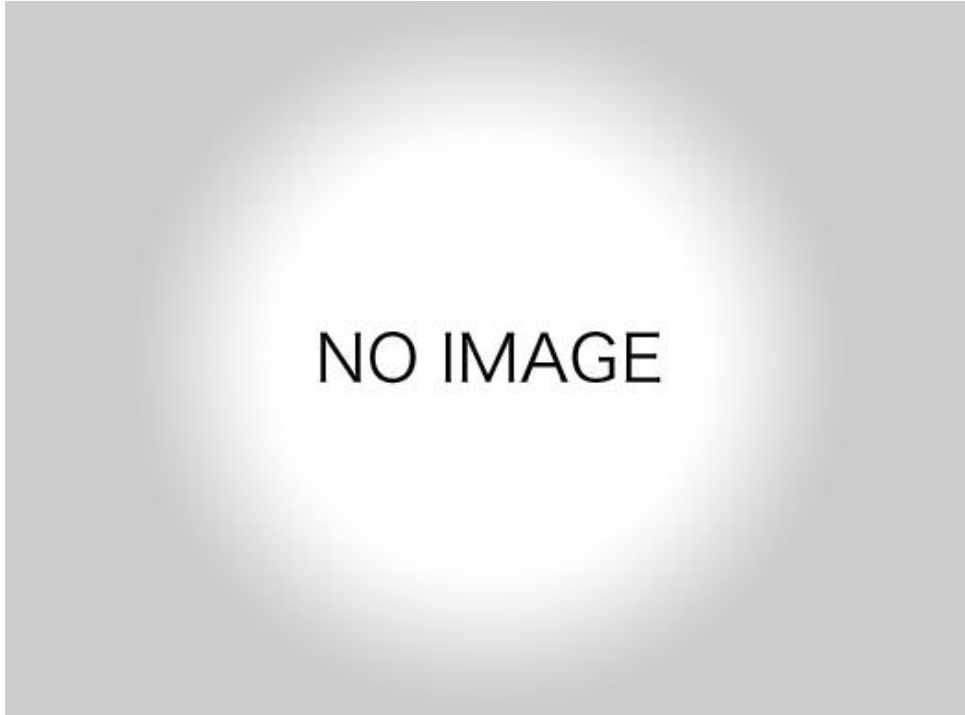
【選定理由】

現時点での絶滅危険度は小さいが、以前に比べて個体数がかなり少なくなっており、今後の生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	本耶馬溪町, 日田市, 大分市, 佐賀関町, 野津原町, 竹田市, 直川村, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州, 沖縄
世界的分布	朝鮮半島, 中国, 台湾, 東南アジア
生息環境	各種昆虫の天敵であり, 里山環境の水辺に生息する。
現状	ワラ屋根の減少ほか里山の環境の変化は大きく, 本種の生息に影響していると考えられる。
備考	

ベッコウハナアブ

学名	Volucella jeddona Bigot		
目名	ハエ目		
目名学名	DIPTERA		
科名	ハナアブ科		
科名学名	Syrphidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



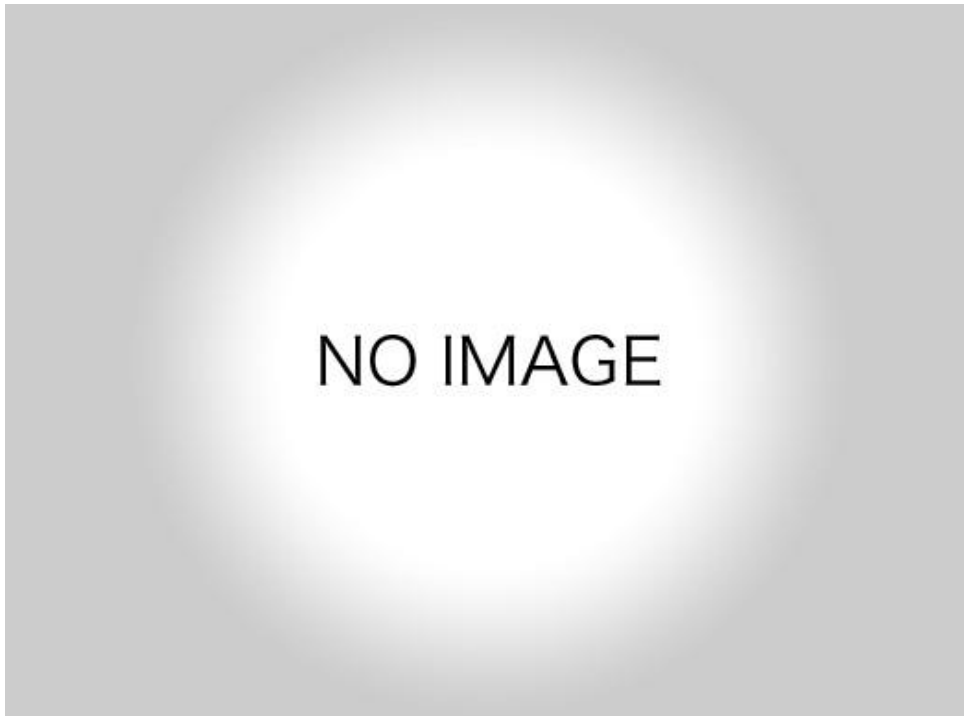
[選定理由]

高原の農地改良やリゾート開発によって生息環境が悪化し、個体数の減少傾向が強い。

県内分布	庄内町, 野津原町, 九重町, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	ロシア極東部
生息環境	火山性原野の林辺。
現 状	観光開発による生息環境の悪化で個体数が減少している。
備 考	

ネグロクサアブ

学名	Coenomyia basalis	
目名	ハエ目	
目名学名	DIPTERA	
科名	クサアブ科	
科名学名	Coenomyiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：情報不足 (DD)

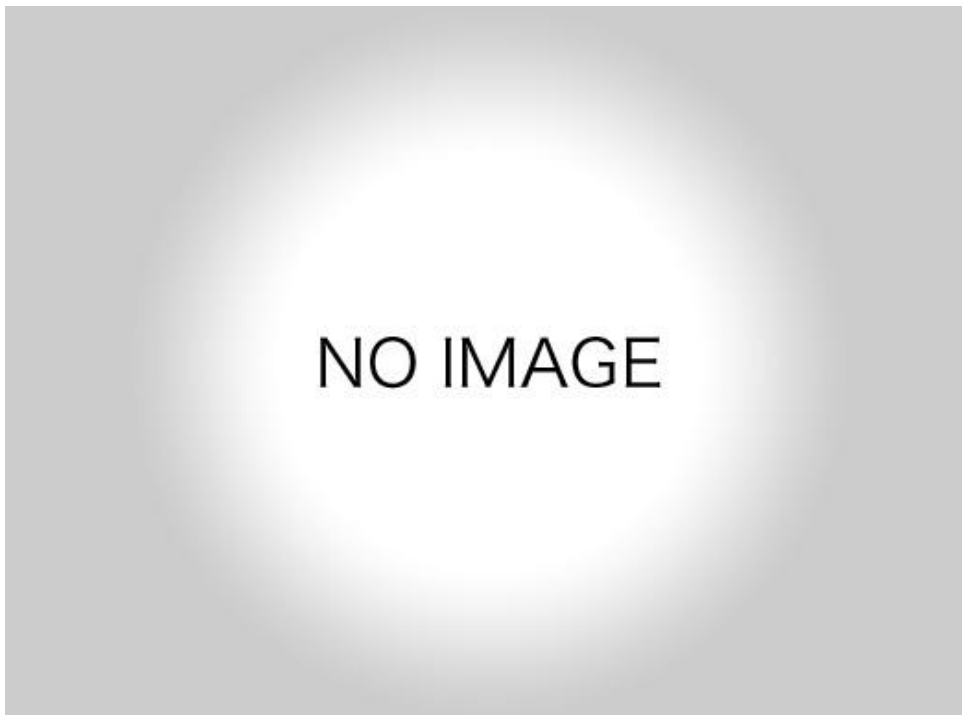


[選定理由]

県内分布	山香町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	サハリン, 千島
生息環境	自然林内の朽木。
現 状	保存のよい森林の朽木に生息するが、希少である。2005年に県北の里山で確認されたが、ほかに情報がなく、良好な里山環境が失われつつある現状が懸念される。
備 考	

エサキマダラ

学名	Clelea esakii Inoue		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	マダラガ科		
科名学名	Zygaenidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



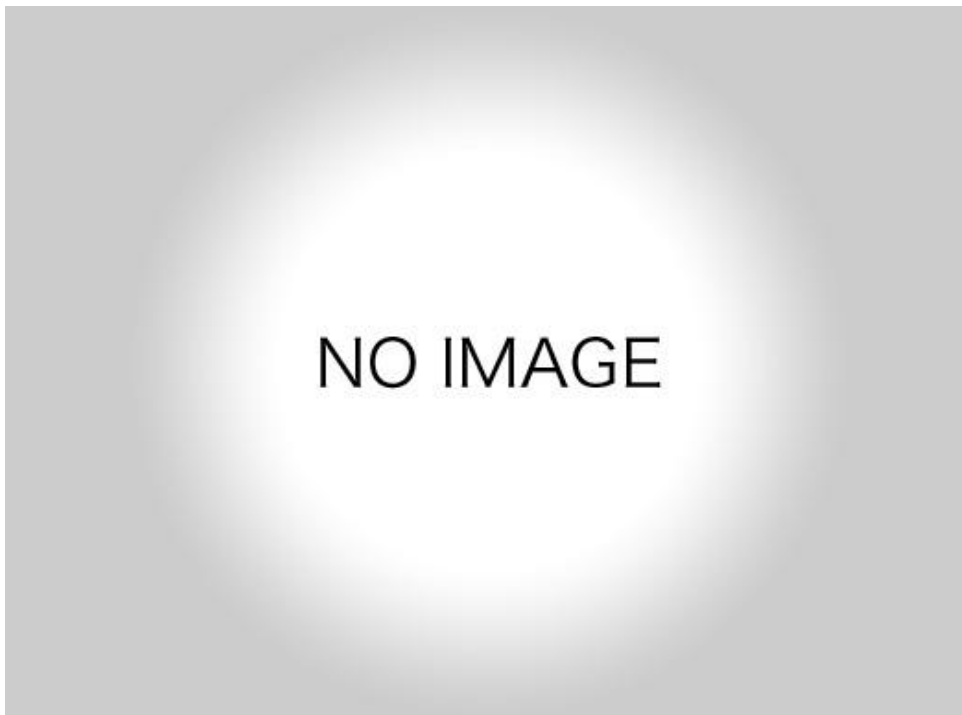
[選定理由]

日本特産種で、既知産地が全国に数か所と限られている。

県内分布	蒲江町
分布域	本州(和歌山・大阪),四国(香川),九州(大分),対馬
世界的分布	日本固有種
生息環境	海岸部の暖帯林。
現状	海岸に接近した低山地斜面に今も細々と生息していると推定されるが、食草は不明(ブドウ科?)であり、今後詳しい調査が必要である。
備考	

ベニイラガ

学名	Demonarosa rufotessellata issiki (kawazoe et Ogata)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	イラガ科	
科名学名	Limacodidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

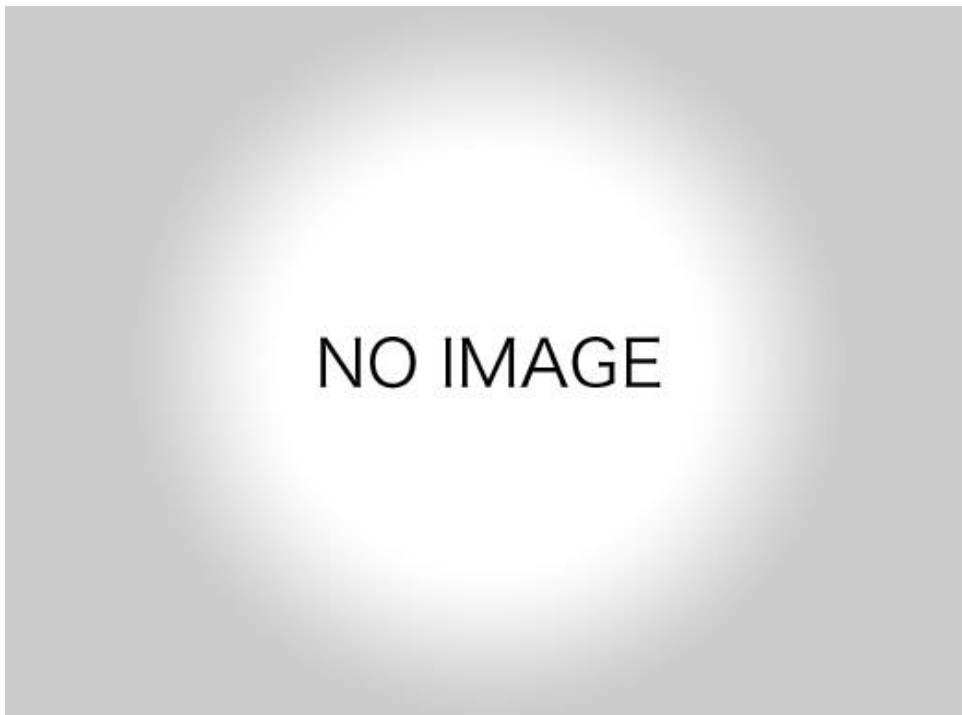


[選定理由]

県内分布	佐伯市
分布域	四国,九州(熊本・大分・鹿児島),屋久島,トカラ列島(中之島),沖縄本島,西表島
世界的分布	日本固有種
生息環境	海岸に近い暖帯林。
現状	暖帯林の蛾で、大分県では1950年代に佐伯市内でただ一度採れただけで、1980年代に繰り返し行われた調査では再発見出来なかった。絶滅の危険性が高くなっている。しかし近辺の海岸林にはまだ生息している可能性がある。
備考	別亜種が台湾に分布。

ギンイチモンジセセリ

学名	Leptalina unicolor (Bremer et Grey)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	セセリチョウ科		
科名学名	Hesperiidae		
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：準 (NT)	



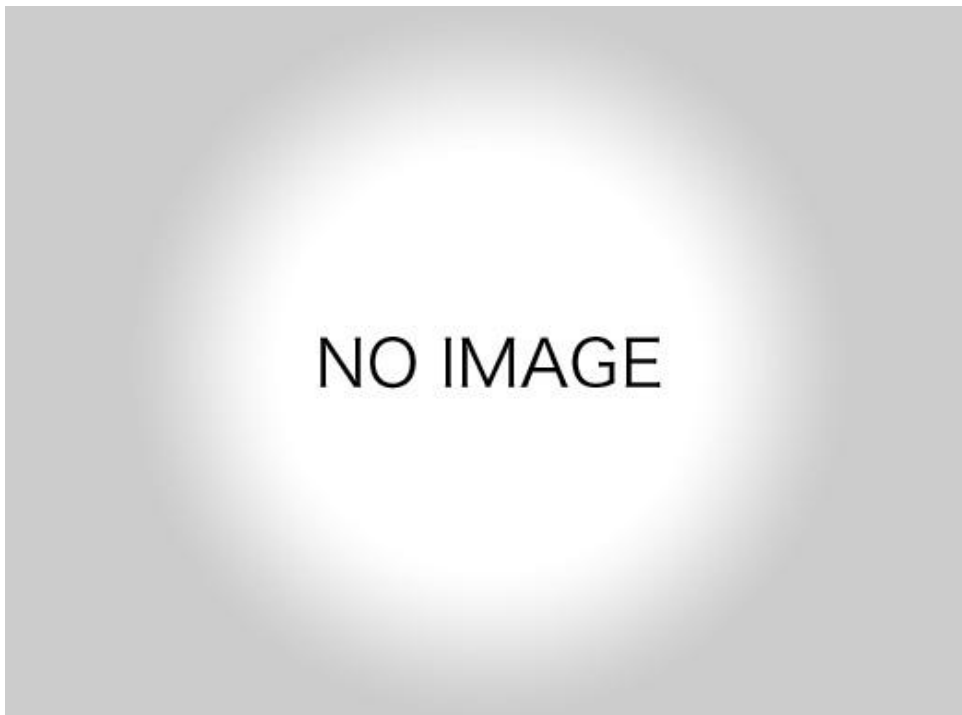
[選定理由]

生息地が開発や河川改修工事などによって狭められ、個体数が減少している。

県内分布	前津江村, 日田市, 天瀬町, 本耶馬溪町, 玖珠町, 九重町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 直入町, 竹田市, 朝地町, 大野町, 清川村
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州 (福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	シベリア, アムール, ウスリー, 朝鮮半島, 中国北部
生息環境	火山草原や低山地丘陵部の草原, 河川周辺の草地など, いずれも明るい乾燥草原。イネ科植物を食草としている。
現状	火山性草原では開発によって草原が狭められ, 河川部では改修工事のほか河川敷の多面利用などで草刈りをするような草地が減少し, 各地とも個体数が減少している。
備考	

スジグロチャバネセセリ

学名	Thymelicus leoninus leoninus (Butler)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	セセリチョウ科		
科名学名	Hesperiidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)	



[選定理由]

分布が限られ、個体数も少ない種である。とくに九重山群では、生息地が開発によって狭められている。

県内分布	前津江村, 九重町, 庄内町, 久住町, 竹田市, 緒方町
分布域	北海道, 本州, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	アムール, 朝鮮半島, 中国
生息環境	山地の樹林と草地の境にあたる環境の, 林縁部のイネ科植物を食草とする。広い草原や暗い林内では見られない。
現状	津江山系, 九重山群, 祖母・傾山系のごく一部に生息地が点在する。
備考	

ツマグロキチョウ

学名	Eurema laeta betheseba (Janson)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シロチョウ科	
科名学名	Pieridae	
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：II (VU)



[選定理由]

従来は普遍的な種とされていたが、最近10数年、急激に個体数が減少し、全国的に絶滅が危惧されている。県内でも安定した生息地は少なくなった。

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 南西諸島
世界的分布	朝鮮半島, 中国, 台湾
生息環境	河川敷, 堤防の草地や荒地。カラケツメイを食草とする。
現 状	河川改修工事, 草地の開発等により, 発生数が減少している所がある。
備 考	

スジボソヤマキチョウ

学名	Gonepteryx aspasia nipponica Bollow	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シロチョウ科	
科名学名	Pieridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省：掲載なし



【選定理由】

九重山群と祖母山の限られた高地に分布し、九州では最も個体数の少ない種であり、絶滅寸前と思われる。

県内分布	九重町, 久住町, 竹田市
分布域	本州, 四国, 九州(熊本?・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	クロウメモドキ科を食草とする。西南日本では山地の溪流沿いや樹林の林縁に生息する。
現状	祖母山, 九重山群で1950年代に採集され, その後記録は跡絶えたが, 1986年に竹田市祖母山で1♂が採集された。
備考	本州ではかなり広く分布する。九州では分布が局限され, 個体数も極めて少ない。

ヒメシロチョウ

学名	Leptidea amurensis (Ménétriès)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シロチョウ科	
科名学名	Pieridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)



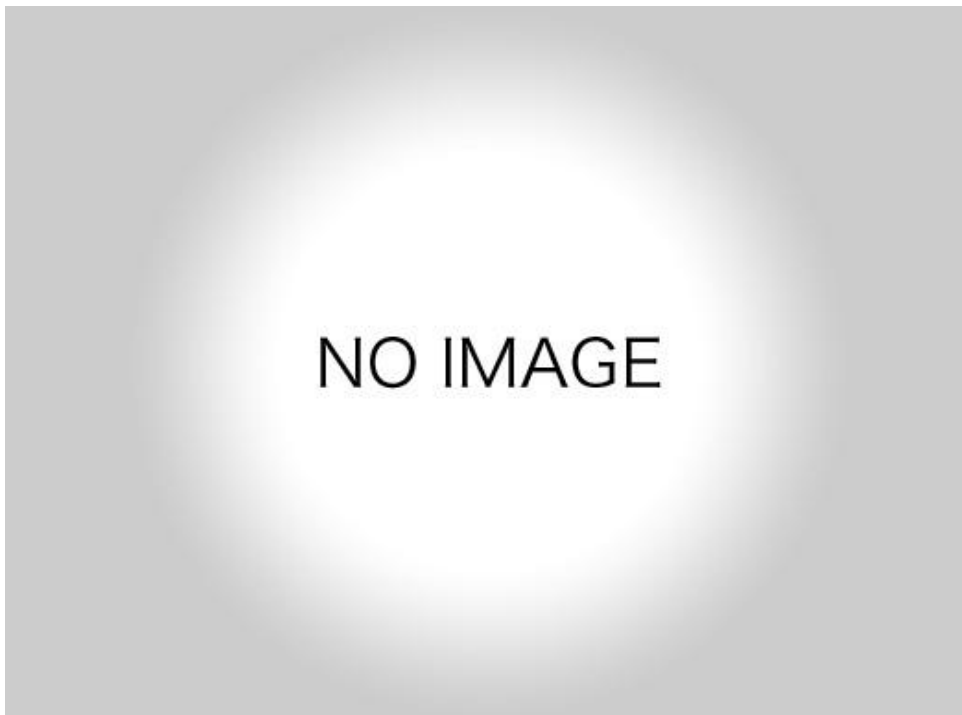
【選定理由】

高原草地の観光開発, 草地改良などによって, 本来の火山性一次草原が失われたため, 生息地が著しく狭められ, 絶滅の危険性が高くなっている。

県内分布	天瀬町, 玖珠町, 九重町, 久住町, 直入町, 湯布院町, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 九州(熊本・大分)
世界的分布	アムール, 朝鮮半島, 中国
生息環境	九州では阿蘇・九重の火山性一次草原。ツルフジバカマを食草とする。
現状	久住高原・飯田高原では食草のツルフジバカマが成育する草地は非常に少なくなり, 本種の個体数は1980年以降, 急激に減少している。
備考	

スギタニルリシジミ 九州亜種

学名	Celastrina sugitanii kyushuensis Shirôzu		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	シジミチョウ科		
科名学名	Lycaenidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



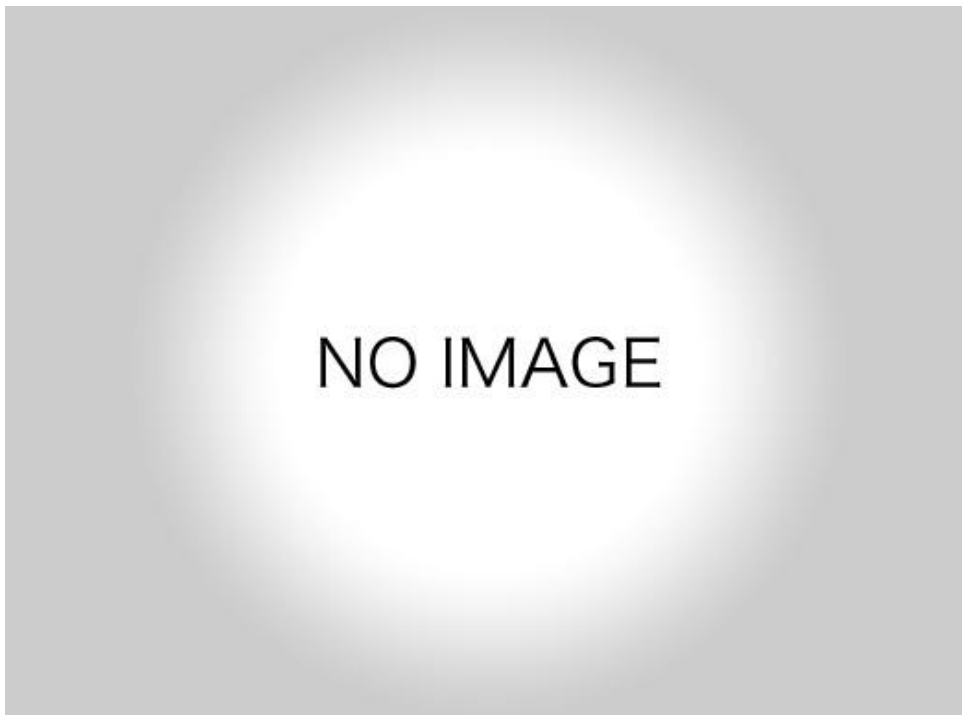
[選定理由]

山地の溪谷部の伐採によって食草が減少し、個体数の減少傾向が見られる。分布地は局限される。

県内分布	前津江村, 玖珠町, 九重町, 庄内町, 竹田市, 緒方町, 宇目町
分布域	九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	本州ではトチノキがおもな食草とされるが, 九州ではキハダ, ミズキがおもな食草となり, これらが生育する溪谷の森林。年一回, 大分県では4月上・中旬から発生する。
現状	県内の分布は, 深山地の溪谷部に限られ, 伐採ほかによって個体数は非常に少なくなっている。
備考	原名亜種(本州, 四国), 北海道亜種がある。

ヒサマツミドリシジミ

学名	Chrysozephyrus hisamatsusanus (Nagami et Ishiga)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シジミチョウ科	
科名学名	Lycaenidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	緒方町
分布域	本州(中部地方以西), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	暖帯林～暖温帯林。ウラジログシ, イチイガシが主な食草として知られる。
現 状	大分県唯一の記録がある緒方町尾平では, その後の記録がない。おもな生息環境であるV字谷の暖帯林は, そのほとんどが伐採によって失われ, 生息が危ぶまれる。
備 考	

台湾ツバメシジミ 本土亜種

学名	Everes lacturnus kawaii Matsumura	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シジミチョウ科	
科名学名	Lycaenidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： I (CR+EN)



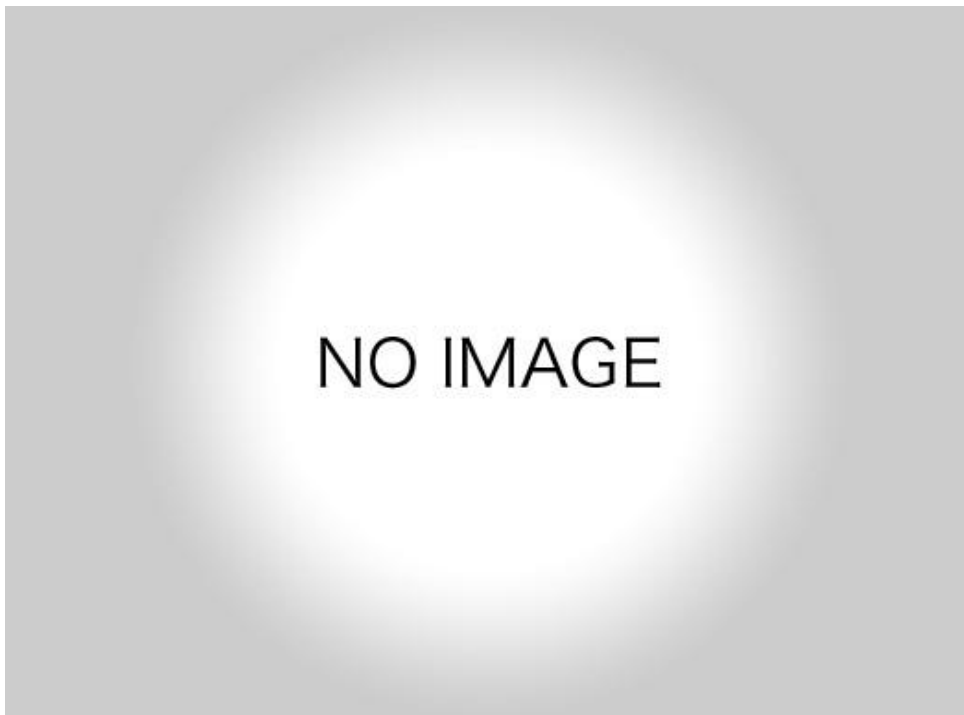
[選定理由]

南方系の遺存種と考えられ、局地的な分布を示す種。人為的に環境が維持される里山がおもな生息であるため、近年は激減し、絶滅に瀕している。

県内分布	(日田市, 杵築市, 佐賀関町, 臼杵市, 野津町), 米水津村, 蒲江町
分布域	本州(和歌山), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 甬島, 種子島, 屋久島
世界的分布	本土亜種
生息環境	低山地の里山の路傍や伐採地, 耕作地などのシバハギ群落が生息地で, 放置されて草原化したり, 雑木林の進出が進むと発生できなくなる。
現状	蒲江町を除いて近年の記録がない。
備考	成虫は8月下旬から9月中旬に発生する。

ウラクロシジミ

学名	Iratsume orsedice orsedice (Butler)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	シジミチョウ科		
科名学名	Lycaenidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

祖母・傾山系と九州中央山地が九州における限られた生息地であり、個体数は少ない。過剰な伐採による生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	竹田市, 緒方町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	九州では, ブナ帯森林の標高1000m以上の高地のマンサクを食草とし, 急峻な谷筋や岩稜地が生息地となっている。
現 状	生息地となっている森林はよく保全されているが, 過剰な採集による個体数の減少の恐れがある。
備 考	

ゴマシジミ 中国地方・九州亜種

学名 *Maculinea teleius daisensis* Matsumura

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 シジミチョウ科

科名学名 Lycaenidae

カテゴリー 大分県： I B (EN) 環境省： II (VU)

NO IMAGE

[選定理由]

生息地である高原草地は、人手不足によって野焼き作業ができなくなって放置されたり、開発によって、大きく様変わりし、発生個体数が激減している。

県内分布	天瀬町, 玖珠町, 九重町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 久住町
分布域	本州, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	南千島, カラフト
生息環境	火山裾野の高原のワレモコウが成育する明るい草地。中令幼虫まではワレモコウを食草とし、その後、シワクシケアリの巣に運ばれ、アリの幼虫を食べて巣中で成長する。
現状	九重山群の草原では開発ほかによって激減しているが、由布岳一帯では個体数は少ないものの、比較的安定している。
備考	日本産を6亜種に分類する学説によった。国外では南千島, 樺太にも分布する。

ミドリシジミ

学名	Neozephyrus japonicus (Murray)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	シジミチョウ科		
科名学名	Lycaenidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	



【選定理由】

九州では九重山群と阿蘇地方の一部にのみ分布する。観光開発と農地化のため、生息地が非常に狭められている。

県内分布	九重町, 庄内町, 久住町, 直入町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(熊本・大分)
世界的分布	南千島, アムール, ウスリー, カラフト, 朝鮮半島, 中国東北部
生息環境	高原の湿地, 小川ぞいのハンノキの林が主な生息地で, 森林帯のヤマハンノキでも少数が発生する。
現 状	高原の生息地は環境変化によって非常に狭められ, 局所的に残るだけになっている。
備 考	

クロシジミ

学名	Niphanda fusca (Bremer et Grey)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シジミチョウ科	
科名学名	Lycaenidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I (CR+EN)



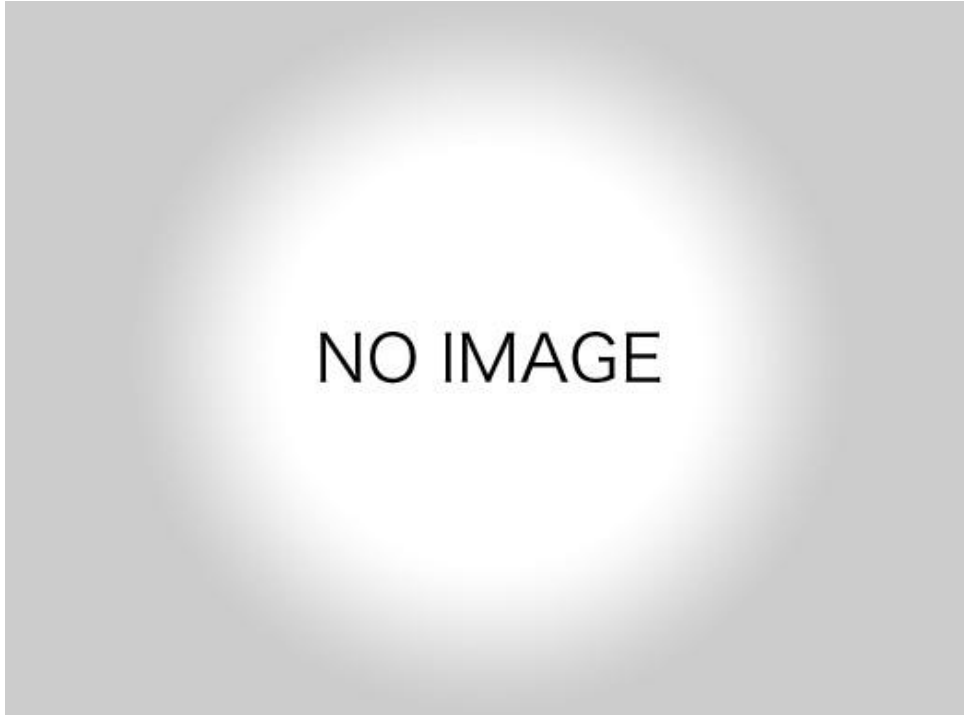
[選定理由]

おもな生息地である草原疎林や荒れ地草原が、近年の観光開発、宅地開発などによって大きく姿を変えたため、全国各地で絶滅の危機にある。

県内分布	前津江村, 日田市, 天瀬町, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 安心院町, 山香町, 九重町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 竹田市, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 対馬
世界的分布	アムール, ウスリー, 朝鮮半島, 中国
生息環境	草原疎林や荒れ地, 堤防草地など。幼虫は2令以降, クロオオアリに運ばれてアリの巢中で成育することが知られている。
現状	かつて多産地であった由布・鶴見一帯の高原や九重山群は, 開発によって非常に少なくなった。おもな生息地である草原疎林や荒れ地草原が, 近年の観光開発, 宅地開発などによって大きく姿を変えたため, 全国各地で絶滅の危機にある。
備考	指定希少野生動植物

ルーミスシジミ

学名	Panchala ganesa loomisi (H. Pryer)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シジミチョウ科	
科名学名	Lycaenidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：II (VU)

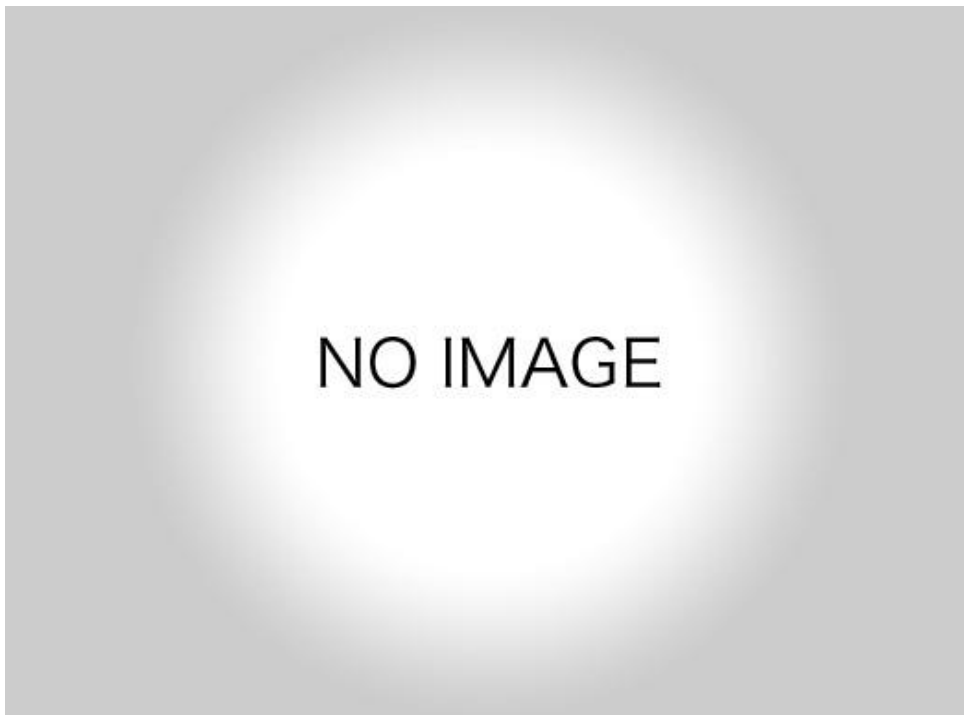


[選定理由]

県内分布	(三光村)
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 隠岐, 屋久島
世界的分布	日本固有種
生息環境	食草のイチイガシ, ウラジログシを主体とする暖帯照葉樹林。
現 状	1950年に三光村で発見されたが, その後の記録はない。全国各地で減少あるいは絶滅しており, そのほとんどは森林伐採が原因である。
備 考	ほぼ県内全域の暖帯照葉樹林を調査したが, 発見できない。

ヒメシジミ 本州・九州亜種

学名	Plebejus argus micrargus (Butler)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	シジミチョウ科		
科名学名	Lycaenidae		
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 準 (NT)	



[選定理由]

県内分布	(九重町, 久住町, 庄内町)
分布域	本州,九州(大分)
世界的分布	千島, カラフト
生息環境	九州では火山性一次草原の, マアザミ群落のある湿地。
現状	かつての九州唯一の生息地であった飯田高原吉部地区は, 農用地開発公団による大規模農地化のため, 1984年を最後に, その後の発生が見られない。火山性草原湿地が開発によって大きく環境改変し, ほぼ絶滅したのではないかと考えられる。
備考	

オオルリシジミ

学名 *Shijimiaeooides divinus asonis* (Matsumura)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 シジミチョウ科

科名学名 Lycaenidae

カテゴリー 大分県: I A (CR) 環境省: I (CR+EN)

NO IMAGE

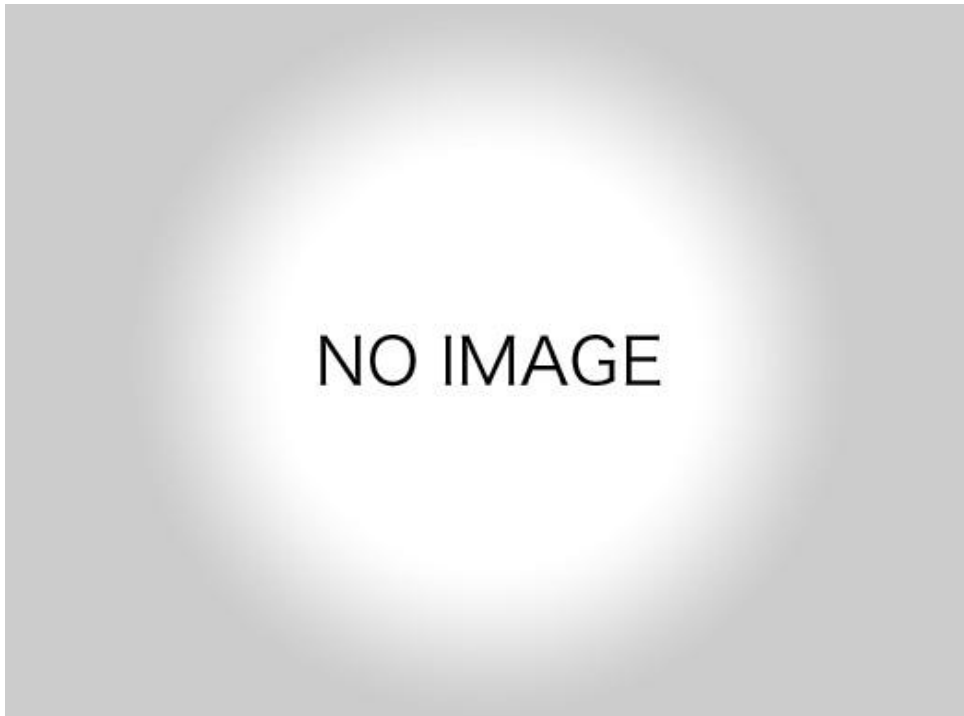
【選定理由】

九州では阿蘇・九重の火山草原に特有の分布が知られ、大分県では近年まったく発生が認められなかった。近年僅かな産地が再発見されたが、再び絶滅の危機にある。

県内分布	(玖珠町, 九重町), 久住町
分布域	本州(東北地方, 中部地帯), 九州(熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	明るい草原, とくに火山草原。幼虫はクララを食べる。
現 状	1970年代前半の, 久住高原での採集記録を最後に, 大分県では記録が途絶えていた。阿蘇地方では, 放牧地の草原に比較的安定した生息地があり, 保護されている。
備 考	

カラスシジミ

学名	Strymonidia w-album fentoni (Butler)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	シジミチョウ科		
科名学名	Lycaenidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

河川上・中流域の河畔林が堤防工事ほかの河川改修工事によって失われ、生息域が狭められている。

県内分布	中津江村, 大山町, 日田市, 耶馬溪町, 三光村, 安心院町, 院内町, 玖珠町, 別府市, 庄内町, 挾間町, 野津原町, 大分市, 直入町, 竹田市, 朝地町, 緒方町, 三重町, 野津町, 臼杵市, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	国後, カラフト, 朝鮮半島
生息環境	河川沿いのハルニレ。オヒョウがあれば山地の森林にも生息する。
現状	県内に広く分布しているが、いずれも河川上・中流部に点在する生息地であり、個体数は非常に少ない。
備考	

クロツバメシジミ

学名	Tongeia fischeri shojii Satonaka	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シジミチョウ科	
科名学名	Lycaenidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： 準 (NT)



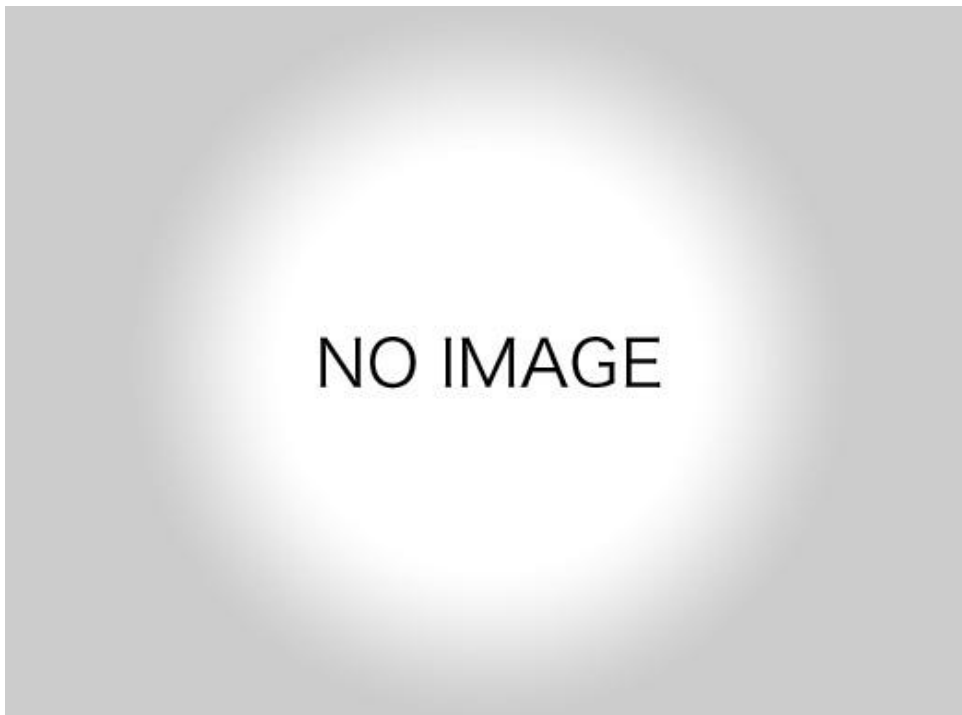
【選定理由】

道路法面のコンクリート吹き付け工事や河川改修工事などによる、生息地の環境改変、食草の園芸用のための採取などによって、発生個体数が激減し、絶滅に瀕している。

県内分布	山国町, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 中津市, 院内町, 安心院町, 山香町, 玖珠町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島), 壱岐, 対馬
世界的分布	シベリア, カラフト, 朝鮮半島, 中国
生息環境	低山地の比較的明るい岩場や河原などの露岩がある場所。ツメレンゲほかのベンケイソウ科植物を食草とする。
現状	生息環境が限られるため、分布は点在し、局限される。
備考	北部九州には、沿岸部岩場のタイトゴメやイワレンゲなどを食草とする分布が知られるが、大分県には例がない。斑紋に地方変異がある珍種として人気が高く、採集圧の影響もある。

ウラミスジシジミ

学名	Wagimo signatus (Butler)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	シジミチョウ科		
科名学名	Lycaenidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	



【選定理由】

おもな生息地である火山高原のカシワ、クヌギ、コナラの疎林が、観光開発によって急激に失われており、確実な生息地は非常に狭められている。

県内分布	九重町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 久住町
分布域	北海道, 本州, 九州(熊本・大分)
世界的分布	アムール, ウスリー, 朝鮮半島, 中国
生息環境	火山草原の疎林地帯。卵はクヌギ, コナラのほかカシワ, ミズナラからも希に発見される。
現 状	主要な生息地である飯田高原一帯は, 観光開発と農地化によって大きく環境を変え, 本種の生息地は分断されて僅かに点在し, 個体数は激減した。
備 考	九州では, 九重山群一帯が唯一の生息地。

シルビアシジミ 本土亜種

学名 *Zizina otis emelina* (de I'Orza)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 シジミチョウ科

科名学名 Lycaenidae

カテゴリー 大分県: I A (CR) 環境省: I (CR+EN)



【選定理由】

全国各地で減少傾向がもっとも著しい種のひとつ。県内の生息地も非常に狭い範囲に限られ、個体数は減少の一途をたどって、絶滅に瀕している。

県内分布	日田市, 天瀬町, 本耶馬溪町, 中津市, 宇佐市, 玖珠町, 九重町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 五島, 壱岐, 対馬, 種子島
世界的分布	台湾
生息環境	火山性草原や河川堤防, 河川敷の草地。背丈の低いシバ草原に生えるミヤコグサが食草となっている。
現 状	生息地は, 開発や河川改修工事など人為的な影響が多く, 近年は確実に見られるのは数か所に限られる。
備 考	

オナガシジミ

学名 Araragi enthea enthea (Janson)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 シジミチョウ科

科名学名 Lycaenidae

カテゴリー 大分県：準(NT)

環境省：掲載なし



【選定理由】

九州では希少な種であり、溪谷源流部の森林のオニグルミを食草とする。森林の伐採やマニアの乱獲によって個体数が減少している。

県内分布	九重町, 庄内町, 湯布院町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(大分・熊本・宮崎), 佐渡, 隠岐
世界的分布	アムール, 中国東北部, 朝鮮半島
生息環境	オニグルミが自生する山地溪谷部が生息地。
現状	オニグルミは河川流域の河畔林の構成樹であるが、本種は源流域の谷に限られた生息地がある。
備考	

アイノミドリシジミ

学名 *Chrysozephyrus brillantinus* (Staudinger)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 シジミチョウ科

科名学名 Lycaenidae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし



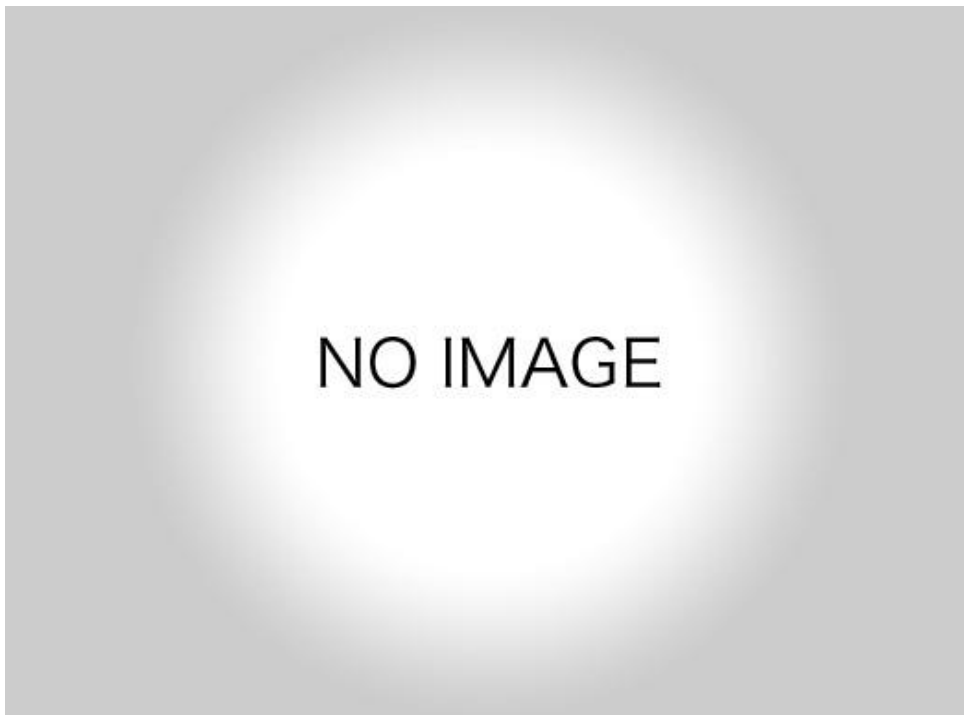
【選定理由】

山地のミズナラ林に生息し、九州では希少な種である。大陸に由来する種群であるが近年個体数が減少しており、要因は不明ながら温暖化による衰退の可能性も考えられる。

県内分布	九重町, 庄内町, 久住町, 直入町, 緒方町, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・大分・熊本・宮崎・鹿児島), 利尻, 佐渡
世界的分布	アムール, ウスリー, 中国東北部, 朝鮮半島
生息環境	ブナ, ミズナラ帯の落葉樹林に生息する。
現状	幼虫はミズナラの新葉で育ち, 九重山群, 祖母・傾山系に生息するが, 県西部の津江山系にはミズナラが見られるものの本種は分布していない。
備考	九州では分布が局限され, 個体数も極めて少ない。

オオウラギンヒョウモン

学名	Fabriciana nerippe (C.et R.Felder)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	タテハチョウ科	
科名学名	Nymphalidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I (CR+EN)



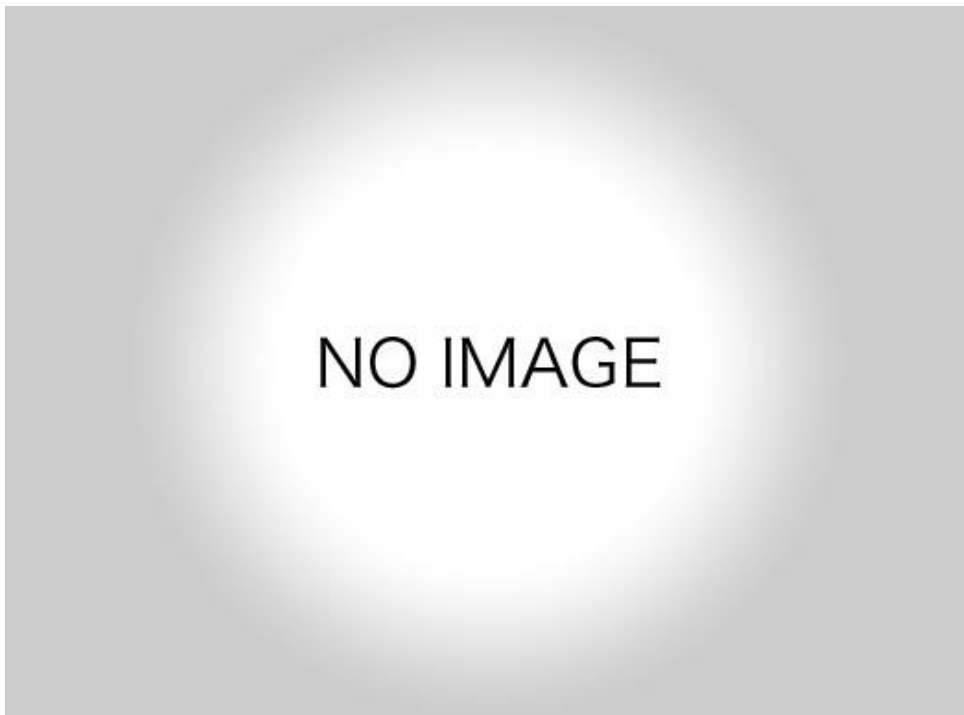
[選定理由]

かつて西日本では平地から山地の草原に少なくなかったが、高度成長期以降急激に減少し、安定した生息地は全国でも、自衛隊演習地などの限られた草原の数か所となった。

県内分布	日田市, 前津江村, 天瀬町, 本耶馬溪町, 玖珠町, 九重町, 杵築市, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 直入町, 竹田市, 臼杵市, 緒方町, 清川村, 宇目町
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	日当たりの良い草地, 草原。アザミ類などの花に飛来する。スマレ(Viola mandshurica)が唯一の食草。
現状	県内には広く分布しているが、近年は極めて希な種となった。
備考	指定希少野生動植物

ミスジチョウ

学名	Neptis philyra excellens Butler	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	タテハチョウ科	
科名学名	Nymphalidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



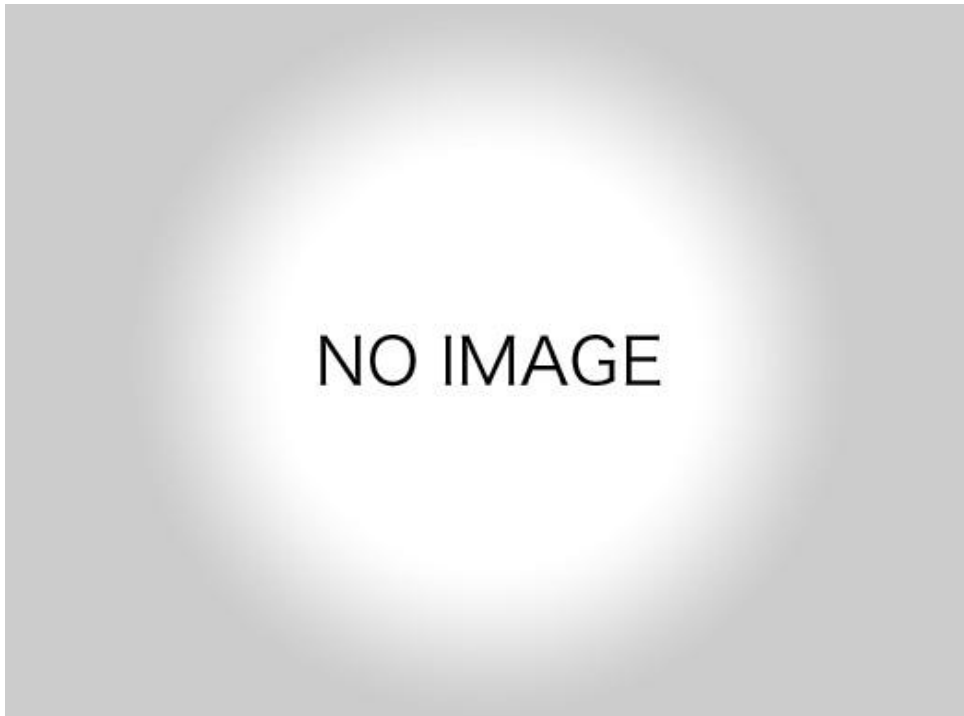
[選定理由]

西日本では個体数の少ない珍種であるが、生息地である山地溪谷部の伐採によって生息環境が悪化し、さらに希な種になりつつある。

県内分布	山国町, 耶馬溪町, 庄内町, 大分市, 久住町, 竹田市, 臼杵市, 緒方町, 三重町, 清川村, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎), 対馬
世界的分布	日本固有種
生息環境	山地溪谷部。カエデ類を食草とし, 川沿いや林道上をよく飛ぶ。
現 状	県北部の耶馬溪地方, 県西南部の祖母・傾山系で希に見ることができる。
備 考	

ホシミスジ瀬戸内海亜種

学名	Neptis pryeri setoensis Fukuda et Minotani	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	タテハチョウ科	
科名学名	Nymphalidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



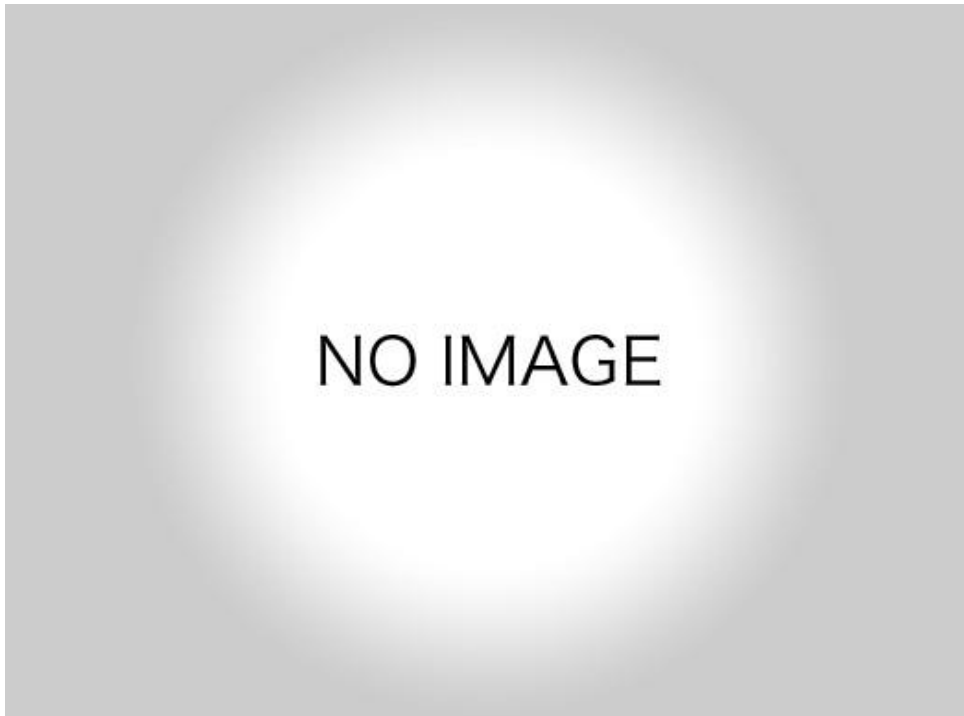
[選定理由]

平地から山麓部里山の生息地が開発によって環境を変え、個体数が少なくなっている。

県内分布	中津市, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 山国町, 宇佐市, 豊後高田市, 安心院町, 院内町, 九重町, 山香町, 杵築市, 国見町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 直入町, 竹田市, 臼杵市, 野津町, 佐伯市
分布域	本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	中国
生息環境	里山の林縁部。シモツケや石灰岩地域のイブキシモツケを食草とし, 市街地の園芸種のコーデマリやユキヤナギも食草として生息圏を広げる。
現状	別府市, 大分市などの市街地では近年, ほとんど見る事がなくなり, 低山地でも個体数は非常に少なくなっている。
備考	九州では希種。

シータテハ

学名	Polygonia c-album hamigera (Butler)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	タテハチョウ科	
科名学名	Nymphalidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



【選定理由】

保存の良い森のある溪谷が観光開発や樹木伐採によって少なくなり、生息地を奪われ、個体数の減少が著しい。

県内分布	中津江村, 天瀬町, 九重町, 湯布院町, 庄内町, 久住町, 竹田市, 緒方町, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	カラフト
生息環境	山地溪谷の河畔林のハルニレ, 一部では深山地のオヒョウを食草とし, 明るい空間を敏捷に飛翔する。
現状	九重山群, 祖母・傾山系の谷筋などで少ないながら見ることができる。
備考	

オオムラサキ

学名 Sasakia charonda charonda (Hewitson)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 タテハチョウ科

科名学名 Nymphalidae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：準 (NT)

NO IMAGE

【選定理由】

河川改修, 河川上流部の伐採とスギ・ヒノキ植林などによる生息環境の悪化で, 個体数の減少傾向が進みつつある。

県内分布	県南沿岸地方と離島を除く県内全域
分布域	北海道,本州,四国,九州(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	日本固有種
生息環境	溪谷や河畔林のエノキ, 林内のエゾエノキを食草とし, 冬季は食草の根元の落葉下で幼虫越冬する。成虫は樹液を好み, 広く明るい空間を広範囲に飛翔する。
現状	食草のエノキは雑木として伐採されることも多く, 全国的に個体数を減じている。県内でも, 市街地周辺の里山では見ることが少なくなった。
備考	日本の国蝶として有名。

キマダラモドキ

学名 Kirinia fentoni (Butler)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ジャノメチョウ科

科名学名 Satyridae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU)

環境省：準 (NT)



【選定理由】

本来、局地的な分布を示す種で、生息地が観光開発や里山環境の変化などで狭められ、発生個体数の減少傾向が見られる。

県内分布	日田市, 前津江村, 中津江村, 玖珠町, 九重町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 大分市, 久住町, 竹田市, 臼杵市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	アムール, ウスリー, 朝鮮半島, 中国東北部
生息環境	山地のカシワ疎林から低山地のクヌギ・コナラ二次林まで広い範囲の環境。生息地は限られる。食草はイネ科, カヤツリグサ科。
現状	都市近郊の里山では, 近年ほとんど見られなくなり, 山地でも個体数が減少しつつある。
備考	

クロヒカゲモドキ

学名 *Lethe marginalis* (Motschulsky)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ジャノメチョウ科

科名学名 Satyridae

カテゴリー 大分県: IB(EN) 環境省: II(VU)

NO IMAGE

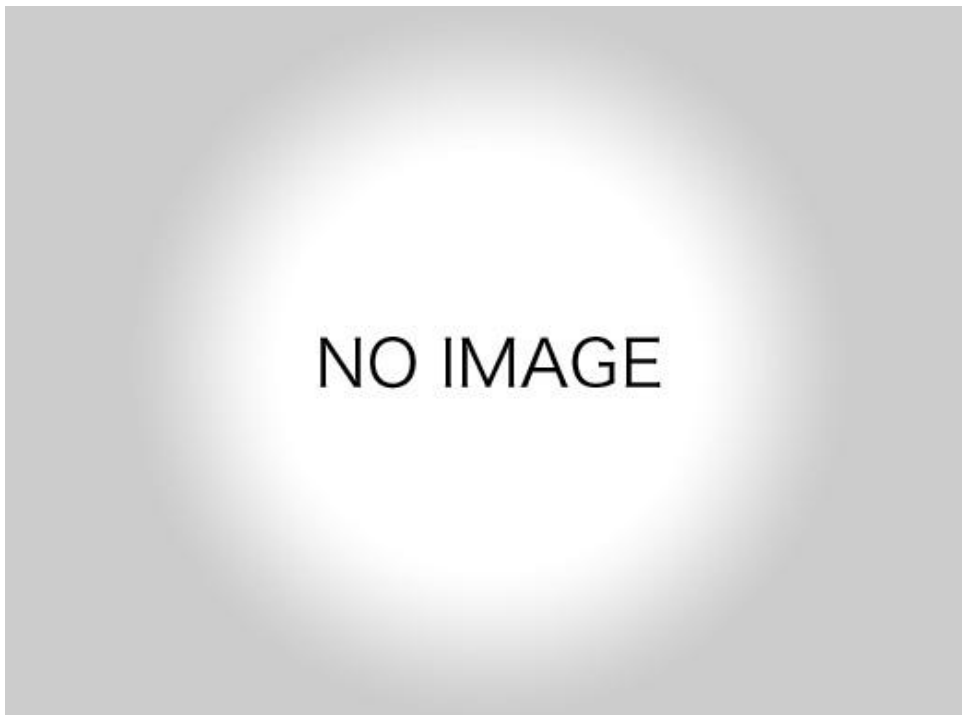
【選定理由】

全国的に分布が局限される種であり、各地とも個体数が少なく、開発ほかによる生息地の消滅が懸念される。

県内分布	前津江村, 中津江村, 九重町, 湯布院町, 庄内町
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分)
世界的分布	アムール, ウスリー, 朝鮮半島, 中国
生息環境	山地のクヌギ, コナラなどの雑木林。下草のイネ科植物を食草とする。
現状	県内に点在する生息地は、スギの植林や観光開発などによって個体数が激減している。飯田高原はかつて多産地であったが、近年は極めて希な種となった。
備考	分布は局地的に点在し、連続した分布地はない。

ウラナミジャノメ

学名	Ypthima multistriata nipponica Murayama		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	ジャノメチョウ科		
科名学名	Satyridae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)	



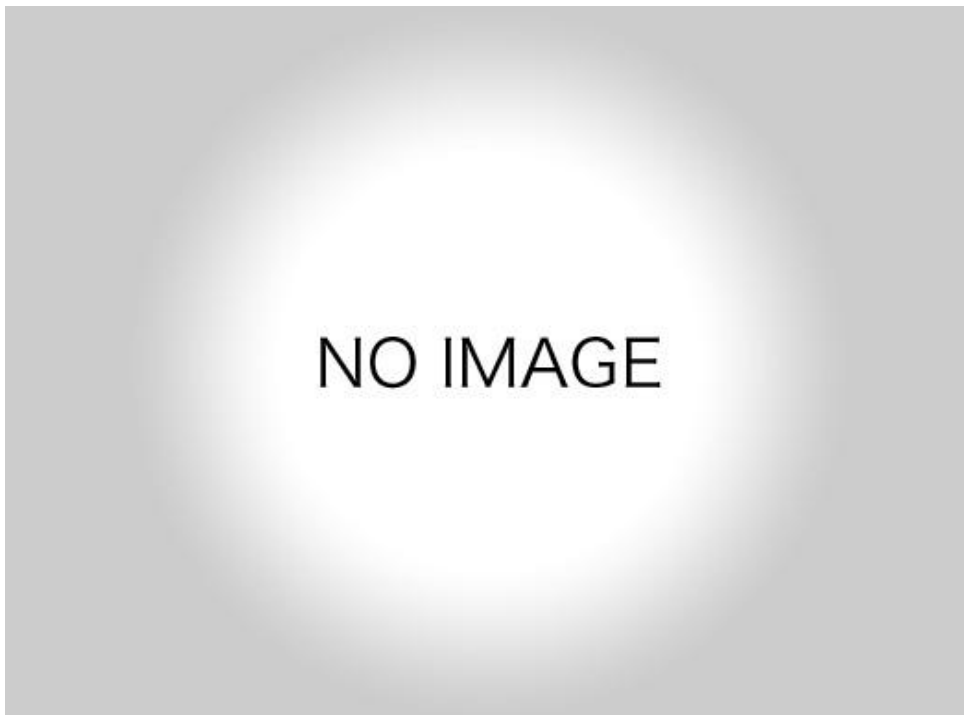
[選定理由]

里山の蝶であるが、近年、全国的に個体数が減少している。県内でも個体数の減少傾向が進みつつある。

県内分布	前津江村, 日田市, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 中津市, 天瀬町, 玖珠町, 九重町, 杵築市, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 挾間町, 野津原町, 大分市, 竹田市, 臼杵市, 鶴見町
分布域	本州(神奈川県以西), 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 壱岐, 対馬, 五島
世界的分布	朝鮮半島, 中国
生息環境	低山地の明るい環境の草地, 林縁部。カヤツリグサ科が食草として知られるが, イネ科植物も食草となっていると考えられる。
現 状	低山地の里山の蝶で, 県内に広く分布するが, いずれの地でも生息範囲は限られ, 近年, 個体数が少なくなっている。
備 考	

オオツバメエダシャク

学名	Amblychia angeronaria Guenee	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シャクガ科	
科名学名	Geometridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



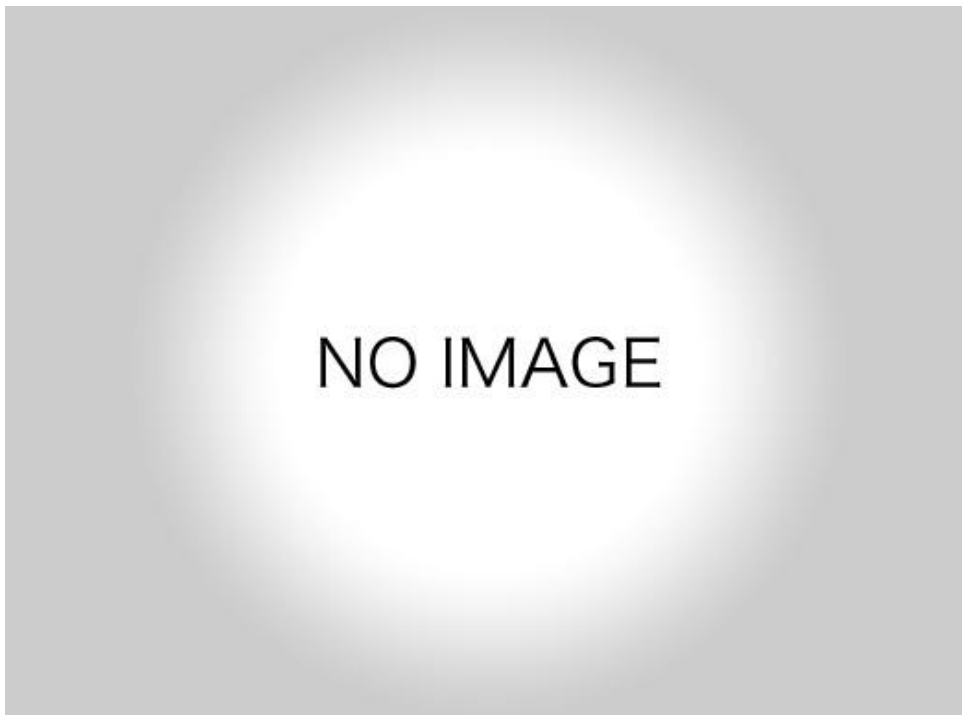
[選定理由]

シャクガ科最大の、照葉樹林を代表する蛾であるが、現在まで大分県ではわずか2か所と生息地が少ない。

県内分布	耶馬溪町, 直川村, 宇目町
分布域	本州(奈良・和歌山・三重・山口), 四国南部, 九州(福岡・熊本・大分), 対馬, 屋久島, 徳之島, 西表島
世界的分布	中国, 台湾, インドーマレー地区, ニューギニア
生息環境	照葉樹林。
現状	照葉樹林の消滅に伴い, 生息地が減少している。
備考	

キイロミミモンエダシャク

学名	Eilecrinia parvula Wehrli	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シャクガ科	
科名学名	Geometridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



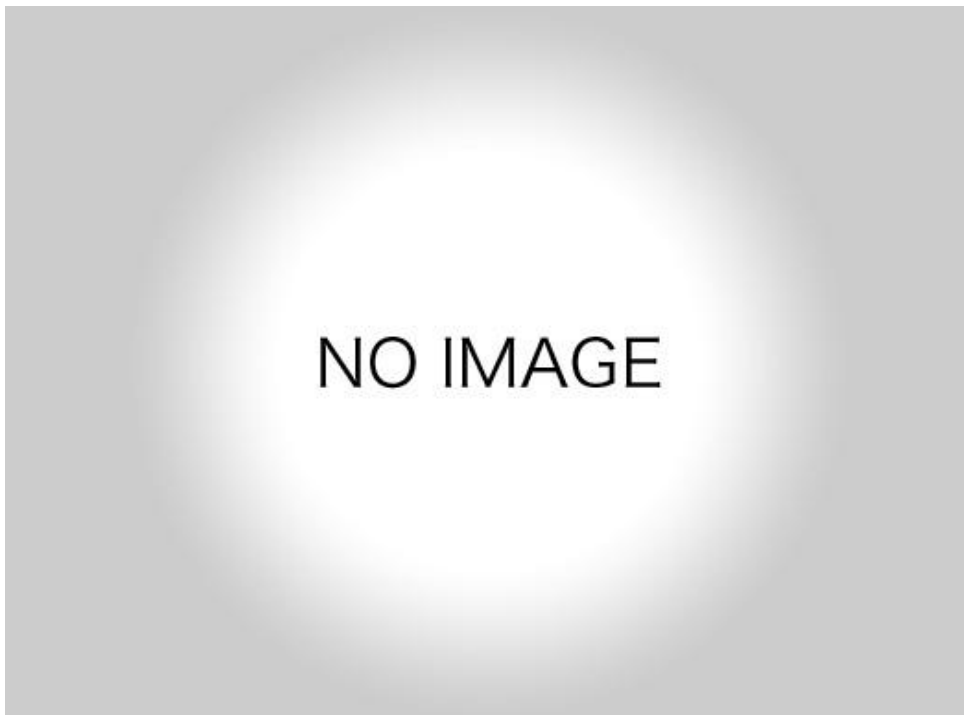
[選定理由]

中国南部と共通する低地の照葉樹林の蛾で、国内の産地がわずか数か所と少ない。

県内分布	香々地町, 蒲江町
分布域	本州(和歌山・山口), 四国(小豆島), 九州(大分), 対馬
世界的分布	中国南部
生息環境	海岸部の照葉樹林。
現 状	生息環境には変化がない。
備 考	

ミヤケカレハ

学名	Takanea miyakei (Wileman)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	カレハガ科	
科名学名	Lasiocampidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

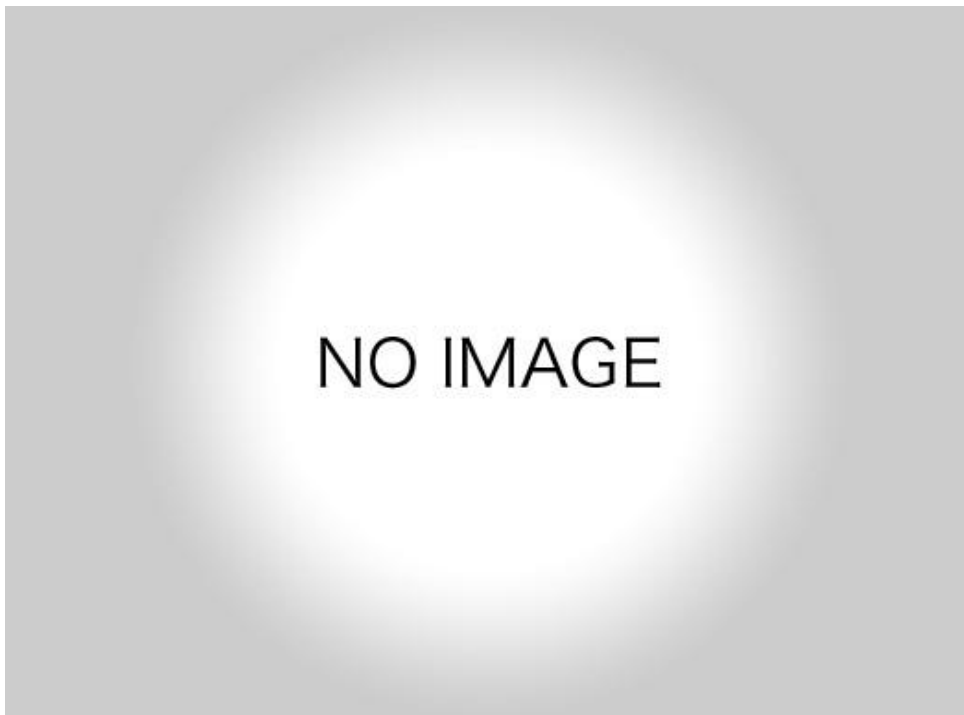


[選定理由]

県内分布	(緒方町)
分布域	本州(関東～中部地方), 四国, 九州
世界的分布	中国(雲南省), 台湾
生息環境	高地の森林。
現 状	1950年代に傾山で採集されているが, その後生息が確認されていない。
備 考	九州の高地, 四国高地および本州の紀伊半島高地に生息するものは本州の個体群と異なる特徴を有するので別亜種excisaとして扱われることがある。大分産はこの亜種に属する。

ヒサゴスズメ

学名	Mimas christophi (Staudinger)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	スズメガ科	
科名学名	Sphingidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし



[選定理由]

県内分布	九重町
分布域	北海道,本州,四国,九州(熊本・大分)
世界的分布	朝鮮半島,サハリン,シベリア南部
生息環境	ハンノキを食草とする。
現 状	九重山地から古く記録されたスズメガで, 1979年から1985年にかけて行った調査にもかかわらず確認出来なかった。
備 考	九州では高地から2例記録があるだけの希種である。大分県では約半世紀にわたって記録がない。

ヒメスズメ

学名	Deilephila askoldensis (Oberthur)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	スズメガ科	
科名学名	Sphingidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

大分県の分布域ではかなりみられるが、本州中部高原と関係の深い、特異な分布を示す種である。

県内分布	久住町, 庄内町, 朝地町, 宇目町, 竹田市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(熊本・大分)
世界的分布	朝鮮半島, シベリア南部
生息環境	九重山系の一次草原を中心に分布し, キバナカワラマツバから幼虫が発見された。飛翔力が強く, 宇目町や竹田市でも採集されている。
現 状	久住町では少なくない。
備 考	

アカシャチホコ

学名	Gangaridopsis citrina (Wileman)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	シャチホコガ科	
科名学名	Notodontidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし



[選定理由]

県内分布	九重町, 緒方町
分布域	本州(青森県まで), 四国(高知), 九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	ブナ, ミズナラ帯の固有の蛾。マンサクを食草としている。
現 状	1959年に九重町で採れ, 1980年代に祖母山の記録もある。九重町で1980年代に徹底的に調査したが再発見できなかった。山地性の隔離分布を示す種。
備 考	

トラサンドクガ

学名 Euproctis torasan (Holland)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ドクガ科

科名学名 Lymantriidae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	久住町, 別府市, 湯布院町, 直入町
分布域	本州(静岡以南),九州(福岡・熊本・大分・宮崎)
世界的分布	日本固有種
生息環境	一次草原の植生が維持されている草地。
現状	一次草原固有の種で, 1980年代にはまだ普通種であった。しかし本州と共通する一次草原固有の蛾の生息環境は, 大分県では牧草の種の変化ほかの影響で縮小している。今のところ久住町に残る一次草原では発生が続いているものと推測される。
備考	

キバネモンヒトリ

学名 *Spilarctia luteum japonicum* (Rothchild)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ヒトリガ科

科名学名 Arctiidae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

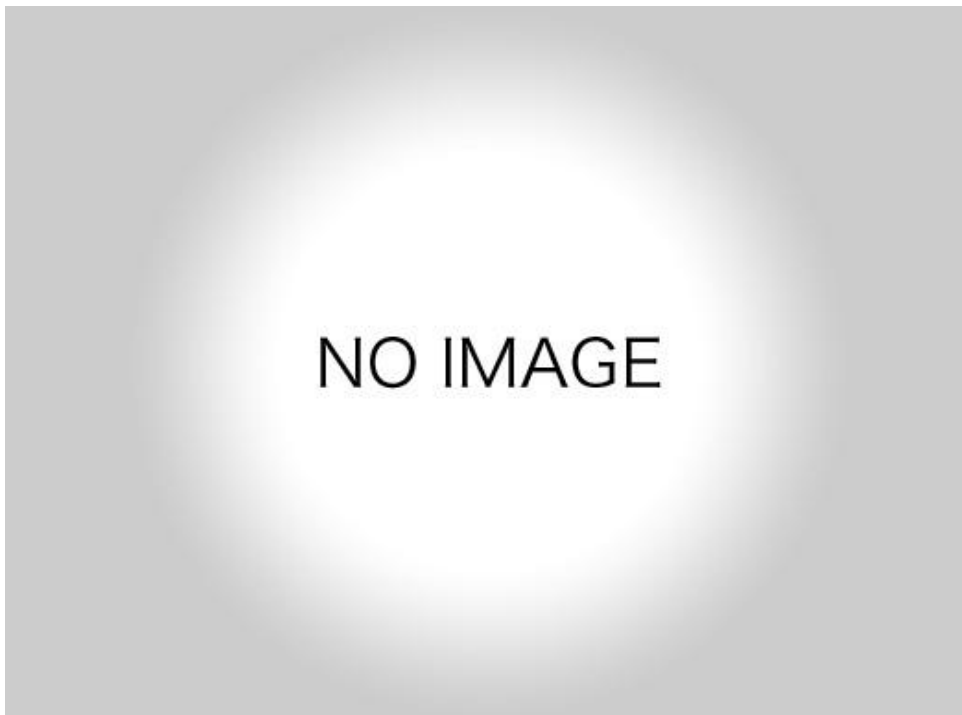
[選定理由]

主として一次草原から記録されている。本種は本州中部草原と共通する旧北区系の種である。一次草原に外国産牧草が導入されると絶滅する可能性がある。

県内分布	玖珠町, 久住町, 庄内町, 九重町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(大分)
世界的分布	ヨーロッパ, 中国東北, シベリア南部
生息環境	九重山群の一次草原。
現 状	久住高原を除いては, 個体数は少ない。
備 考	

ツマアカキヨトウ

学名	Mythimna inornata (Leech)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし



[選定理由]

県内分布	庄内町
分布域	北海道,本州(中部～東北地方まで),九州(大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	九重山群の一次草原に分布するものと思われる。
現 状	北海道, 本州の草原に分布する種で, 九州の高地の草原に隔離分布し希。新しい牧草の導入による高地の草原の破壊が深刻である。
備 考	

アカバキヨトウ

学名 *Mythimna rufipennis* Butler

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ヤガ科

科名学名 Noctuidae

カテゴリー 大分県：準(NT) 環境省：掲載なし

NO IMAGE

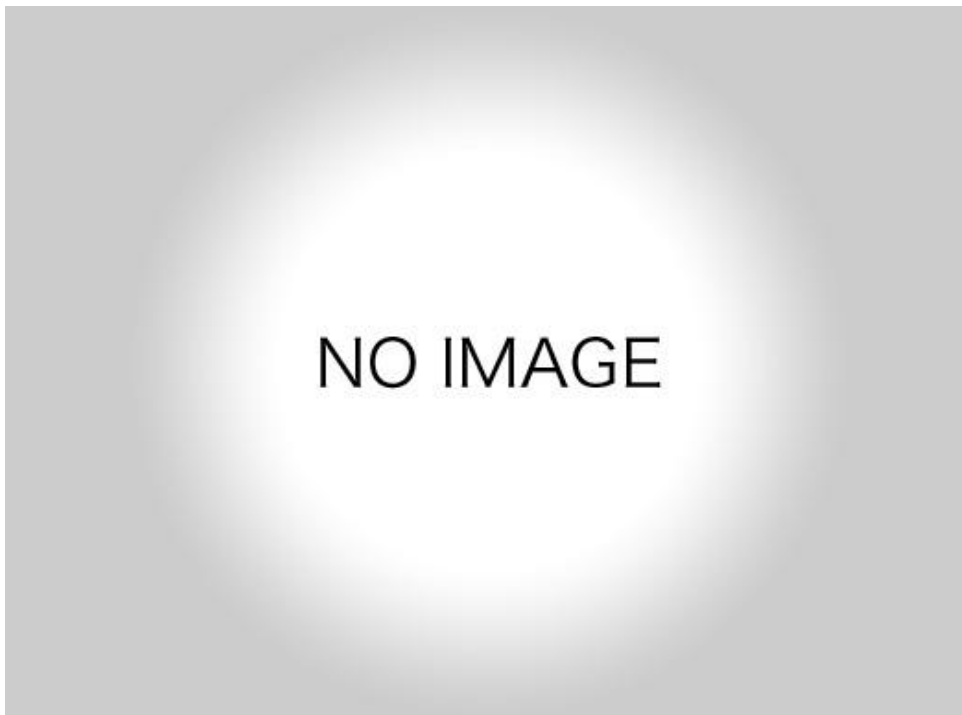
【選定理由】

主として一次草原に分布する種で、九州では大分県以外ではほとんど採集されていない。生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	玖珠町, 九重町, 久住町, 湯布院町, 緒方町, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 九州(熊本・大分)
世界的分布	沿海州, 朝鮮半島
生息環境	内陸や盆地の草原。
現状	一次草原の蛾はいずれも、開発に伴う生息地の自然破壊の影響を深刻に受けている。
備考	

ウスイロキヨトウ

学名	Mythimna inalis (Oberthur)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	ヤガ科		
科名学名	Noctuidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



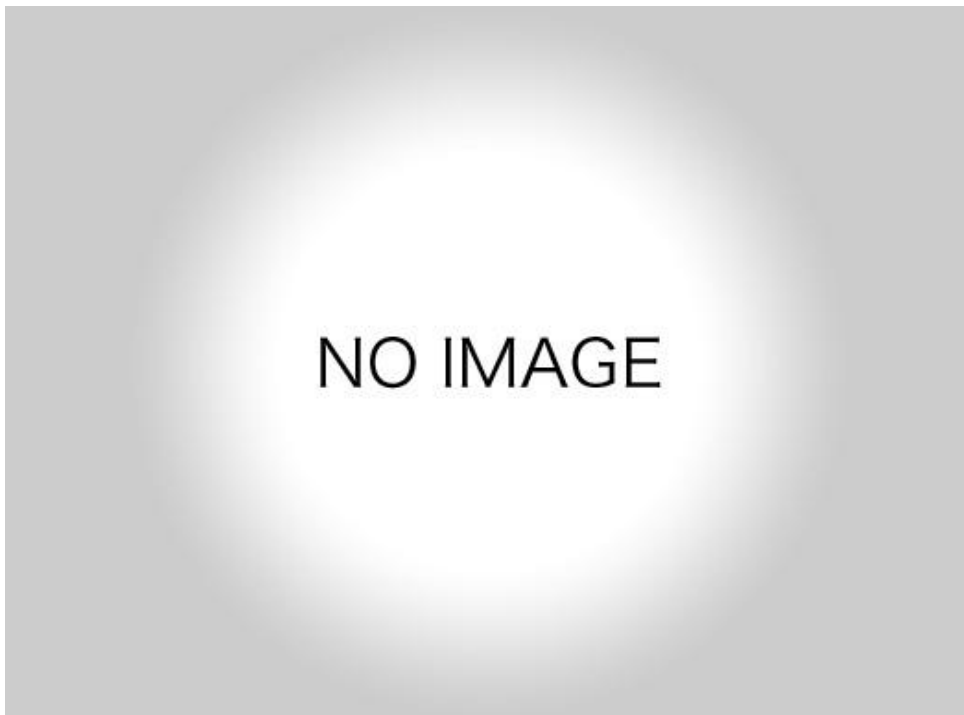
[選定理由]

北海道, 本州, 九州に分布する旧北IX系の蛾であり, 九州では久住町の一次草原で数頭採集されている隔離分布を示す種である。

県内分布	久住町
分布域	北海道, 本州中部, 九州(大分)
世界的分布	沿海州
生息環境	一次草原。
現 状	一次草原の蛾は, いずれも生息域の自然破壊の影響を深刻に受けている。
備 考	

ブンゴキヨトウ

学名	Mythimna percussa Butler	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

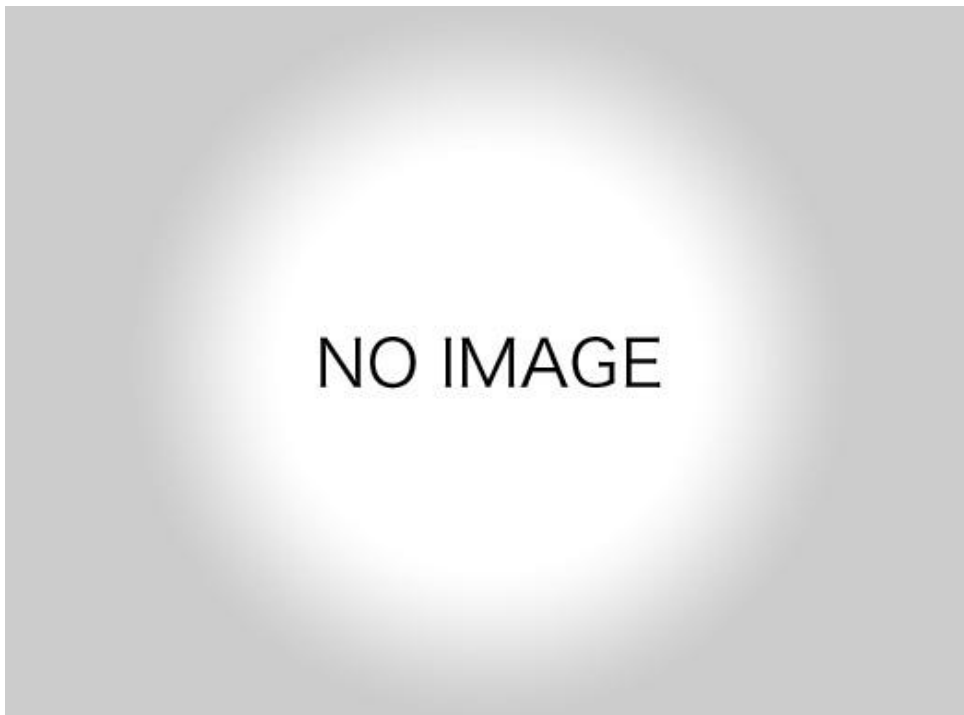


[選定理由]

県内分布	佐伯市
分布域	九州(大分)
世界的分布	台湾
生息環境	河口の低湿地の特殊な植物に依存しているものと思われる。
現 状	1956年に大分県佐伯市で数頭採集された以外は国内の記録はない。恐らく偶産種ではなく、わが国固有の種と考えられ、河口の低湿地群落に生息していた低湿地の蛾の一つであるかも知れない。佐伯市の河口部は、この蛾が採集された当時と比べると著しく変化しており、その後1980年代の調査でも確認できず、絶滅した可能性がある。
備 考	恐らく偶産種ではなく、わが国固有の種と考えられ、河口の低湿地群落に生息していた低湿地の蛾の一つであるかも知れない。

スミレモンキリガ

学名	Sugitania akirai Sugi	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



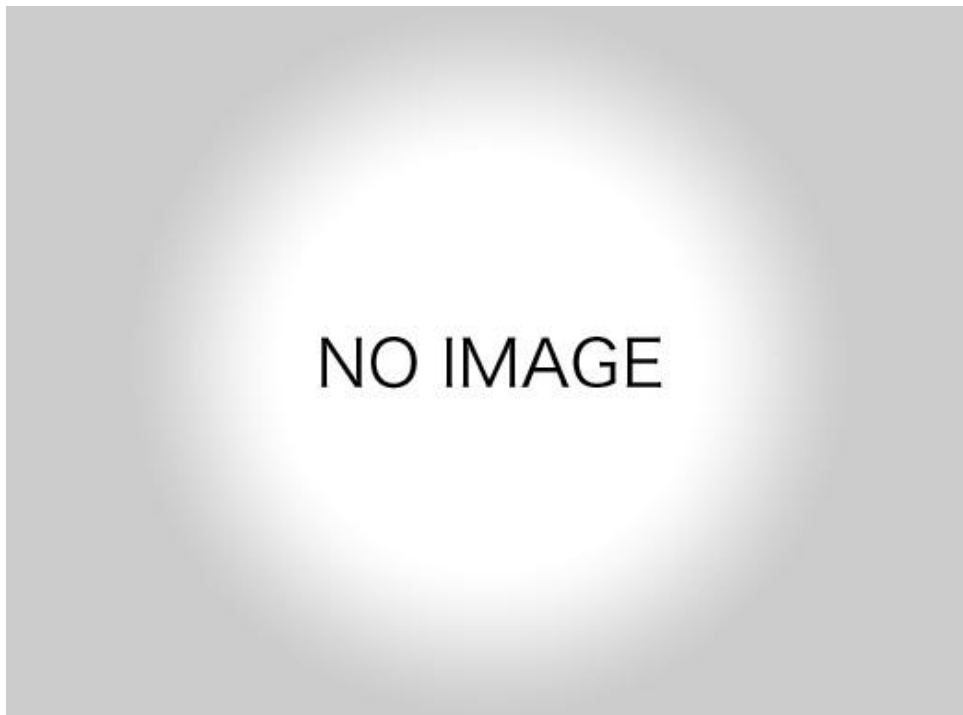
[選定理由]

大分県から発見された種で、庄内町で少数採れており、今すぐ絶滅の恐れがある種ではない。しかし、九州でも産地が限られている。

県内分布	庄内町
分布域	本州(東京・大阪),四国(徳島),九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)
世界的分布	日本固有種
生息環境	庄内町や福岡県など、山地の暖温帯林落葉樹林。
現状	生息地の環境は特に問題はない。しかし、新たな生息地は見つかっていない。
備考	

ナカスジキヨトウ

学名	Mythimna flammea (Curtis)	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし

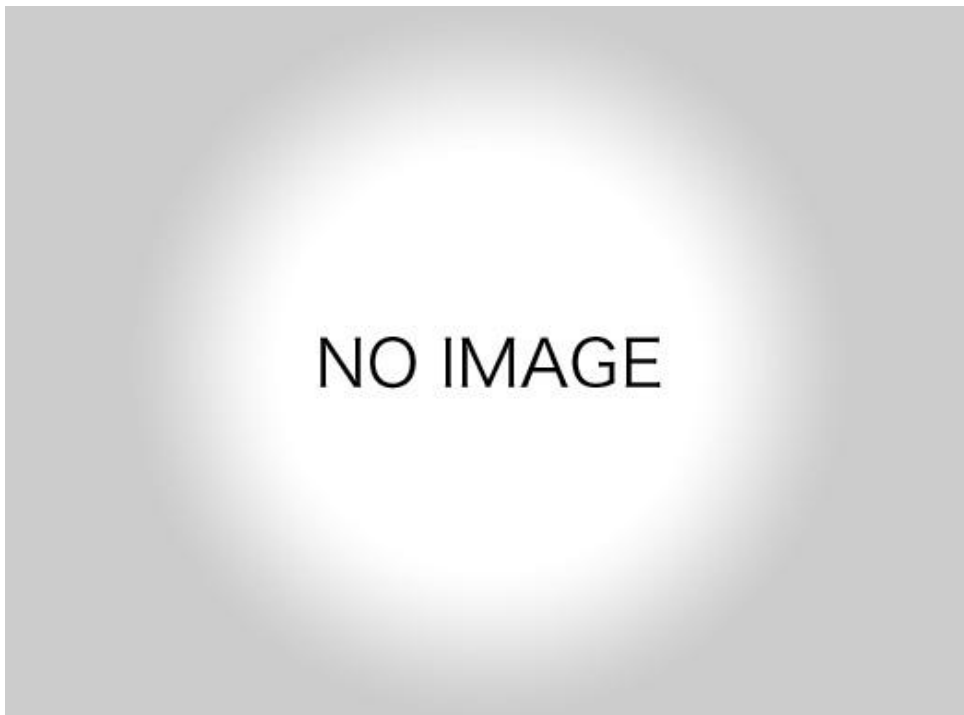


[選定理由]

県内分布	宇佐市, 大分市
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(佐賀・大分)
世界的分布	ユーラシア大陸
生息環境	低地の沼沢地。
現 状	宇佐市近辺で採れた古い標本があり, また1981年代半ばの調査で少数採集され, 最近大分市でも発見されたが希少である。
備 考	

ナマリキシタバ

学名	Catocala columbina Leech	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	宇佐市, 豊後高田市, 山香町
分布域	本州, 四国, 九州(佐賀・熊本・大分)
世界的分布	中国南部
生息環境	シモツケ属植物が生育する岩場に固有の蛾で, 石灰岩地帯。
現 状	全国的に局地的な隔離分布を示す種。岩場のイワガサを食草としており, 大分県では宇佐市と国東半島で確認された。県内の石灰岩地帯の調査で発見される可能性がある。
備 考	全国的にも希な種である。

オニベニシタバ

学名 *Catocala dula* Bremer

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ヤガ科

科名学名 Noctuidae

カテゴリー 大分県: 情報不足 (DD) 環境省: 掲載なし

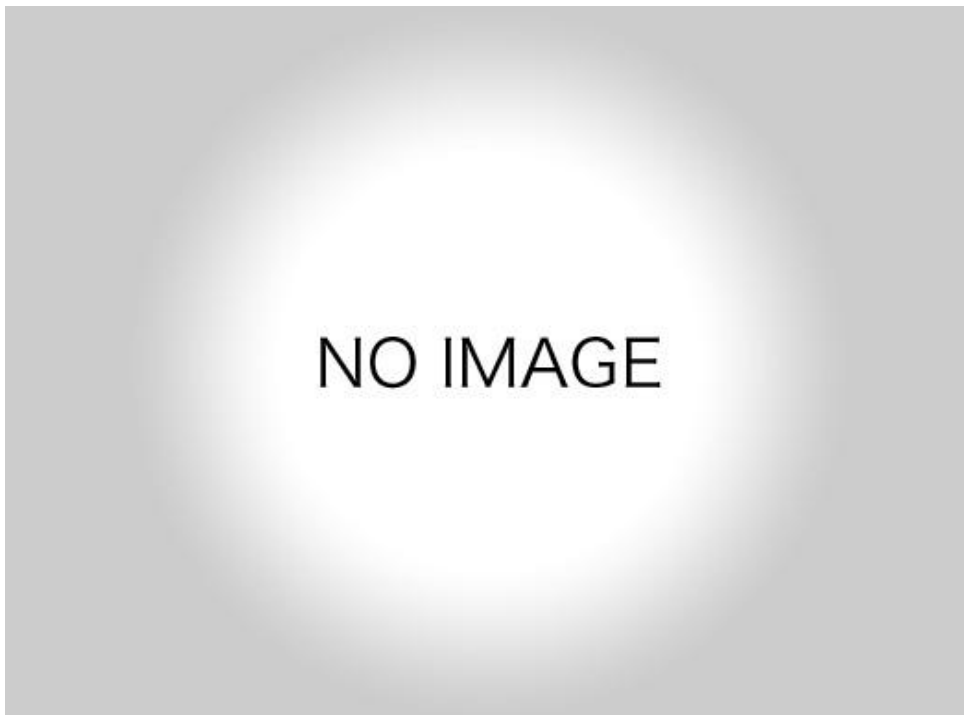
NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	庄内町, 九重町
分布域	北海道, 本州, 四国(高知), 九州(佐賀・長崎・大分)
世界的分布	沿海州, サハリン, 朝鮮半島, 中国北部
生息環境	高地の落葉樹林。
現状	1940年代に九重町で採れたと思われるラベルのない標本が残っている。1980年以降の調査で、大分県では庄内町黒岳でも採集された。個体数は非常に少なく、生息環境の悪化が懸念される。
備考	

クロシオキシタバ

学名	Catocala kuangtungensis Mell	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

Catocala(キシタバ)属は落葉樹林に分布する旧北区系の蛾であるが、その中で唯一ウバメガシ林に固有の、九州から本州南部にかけて分布するキシタバである。海岸部の開発に伴う伐採などの環境破壊は本種の絶滅につながる恐れがある。

県内分布	津久見市, 鶴見町
分布域	本州(南岸沿いに伊豆半島まで), 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	中国南部広東省
生息環境	ウバメガシ林に固有。
現状	県南部の半島沿岸に局地的な生息地がある。ある程度の規模のウバメガシ林が残っている場所では個体数が多い。
備考	

ヒメシロシタバ

学名	Catocala nagioides Wileman	
目名	チョウ目	
目名学名	LEPIDOPTERA	
科名	ヤガ科	
科名学名	Noctuidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

開発に伴い生息地が著しく縮小している。Catocala属は落葉樹林の蛾で、大分県下では九重山系を中心に10数種産し、今のところ絶滅の心配はない。その中で本種は一次草原と関係が深く、絶滅が懸念される。

県内分布	久住町, 九重町
分布域	本州,九州(熊本・大分・鹿児島)
世界的分布	朝鮮半島,沿海州
生息環境	高原のカシワ林。
現状	久住町の一次草原のカシワ疎林で少数採れている。
備考	

ヒメウンモンクチバ

学名 Mocis dolosa (Butler)

目名 チョウ目

目名学名 LEPIDOPTERA

科名 ヤガ科

科名学名 Noctuidae

カテゴリー 大分県：情報不足 (DD) 環境省：掲載なし

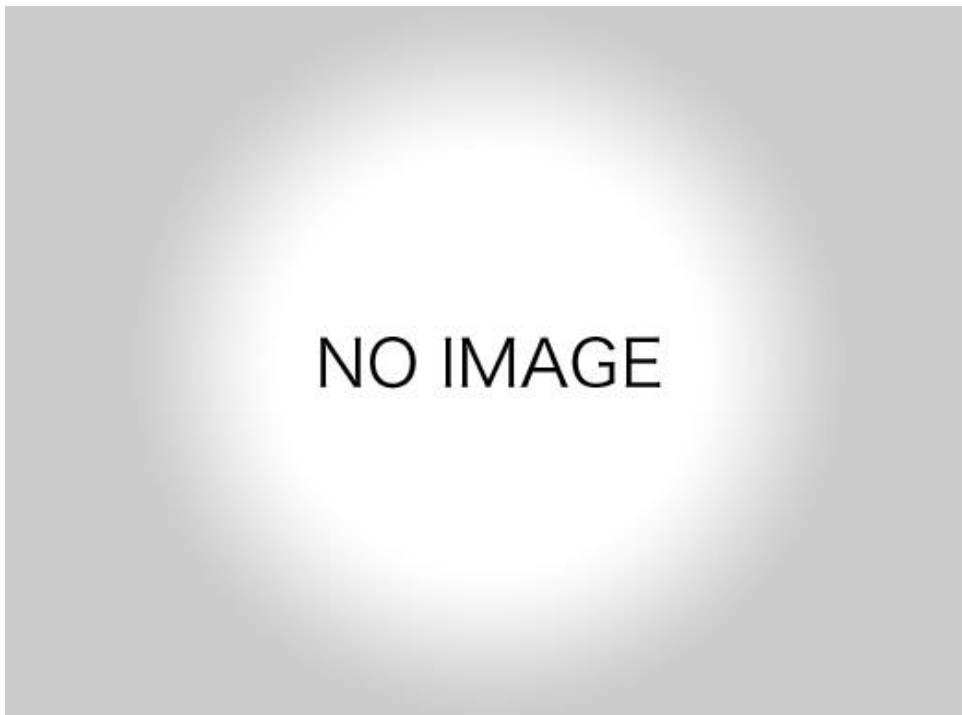
NO IMAGE

[選定理由]

県内分布	佐伯市
分布域	九州(大分・鹿児島)
世界的分布	台湾, 中国
生息環境	低湿地の植物を食しているのではないかと推定される。
現状	1953年に佐伯市で数頭採集された個体が図鑑に出ており、また古く鹿児島県で採れた記録がある。佐伯市におけるその後のライトトラップ継続調査では再発見できなかった。絶滅の恐れがある。
備考	

ツリフネソウトラガ

学名	Sarbanissa yunnana (Mell)		
目名	チョウ目		
目名学名	LEPIDOPTERA		
科名	トラガ科		
科名学名	Agaristidae		
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

高地帯のキツリフネ群落に生息する、大分県から発見された蛾である。本種は中国(雲南省)と九州にのみ分布する隔離分布種である。

県内分布	庄内町, 湯布院町, 久住町, 朝地町, 直川村
分布域	九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	中国(雲南省)
生息環境	九重山群の中・高地帯の林縁のキツリフネ群落に依存している蛾である。
現状	本種は高温, 多湿, 乾燥した環境には弱いので林縁部の道路の舗装による乾燥化の影響は多少認められるが, 現状では特に問題はない。
備考	